

教育—小學教育—縣下小學校一覽

Table with columns for village names (e.g., 鳴澤村, 越水村), school counts, and student numbers. Includes sub-sections for '尋高' (Elementary) and '尋兒' (Kindergarten).

○中津輕郡

Table for 中津輕郡 (Natsugata-gun) listing village names (e.g., 野村, 高野村), school counts, and student numbers. Includes sub-sections for '尋高' and '尋兒'.

○南津輕郡

Table for 南津輕郡 (Nanatsugata-gun) listing village names (e.g., 碓氷村, 藏崎村), school counts, and student numbers. Includes sub-sections for '尋高' and '尋兒'.

○北津輕郡

Table for 北津輕郡 (Hokutsugata-gun) listing village names (e.g., 五所川原町, 板柳町), school counts, and student numbers. Includes sub-sections for '尋高' and '尋兒'.

○下北郡

Table for 下北郡 (Shimo-kyugata-gun) listing village names (e.g., 三本木町, 白旗町), school counts, and student numbers. Includes sub-sections for '尋高' and '尋兒'.

○上北郡

Table for 上北郡 (Uechi-kyugata-gun) listing village names (e.g., 野邊地町, 野村), school counts, and student numbers. Includes sub-sections for '尋高' and '尋兒'.

○三戸郡

Table for 三戸郡 (Sanriku-gun) listing village names (e.g., 脇野澤村, 佐野村), school counts, and student numbers. Includes sub-sections for '尋高' and '尋兒'.

教育—小學教育—縣下小學校一覽

教育

中等教育—授業料免除並に底額—授業料滞納—入學試験問題検閲—服装の統整—

し十一年度より實現することは、大きな支障を生ぜぬ限り殆ど確定的と見られて居る。唯青森高等女學校は敷地が狭いため學級増加二年後には移轉しなければならぬ關係から此の點に悩みがある譯で縣では餘り大きな負擔とならざる限り他に移轉して一舉に學級増加問題をも解決したい意圖の如くである。

授業料免除並に減額

縣では戦争又は戦争に准ずべき事變に際し公務により従軍したる者の子及弟妹並に操行善良學業優秀身體健全にして學費支辨に困難なる中等學校生徒より其の授業料を免除又は減額することとなり昭和八年十月が規程を公布したが昭和十年四月現在による該當生徒は左の通りである。

Table with columns for school names (e.g., 青森、弘前、木野、八戸、野田、木野、弘前、青森) and rows for student counts under categories like '免除' (Waived) and '減額' (Reduced).

授業料滞納

不況のため縣立中等學校生徒の授業料滞納は相當額に上り昭和九年九月三十日現在の縣廳教育課の調査によれば左の通り四百九十三名、二千三百十五圓に上つた。

Table showing the amount of tuition fees in arrears (滞納) for various schools, with columns for school names and amounts.

入學試験問題検閲

文部省では昭和九年度より小學校に於ける準備教育の弊を匡め、ため全國各中學校の入學試験問題は小學校の教科に基き暗記暗誦に流れることなく理解推論の能力を制定し得べき平易なる事項に就て行ふべきことを通達し若し教科の範圍を逸脱して不當に難解の問題を提出した場合は檢閲の上嚴罰を以て之に臨む方針となつたので本縣でも學務部長、視學長、視學委員となし入學試験問題檢閲委員會を組織し五月六日より數項に互に縣下三十六の公立中等學校の内、入學試験問題を提出せる二十一校の試験問題を取寄せ教科書の範圍内より提出せりや否や、提出の理由が十分なりや否や、採點方法が適切なりや否や、解答の所要時間が適當なりや否やに關し檢閲打合せを行つたが概して難解な問題はなく發問の方法が多少思はしくない傾向が看取されたに過ぎなかつた。

服装の統整

昭和十年二月に開催の縣下中等學校長會議に於て男子生徒の制服はカーキ色に變へることを

知事賞廢止問題

之まで中等學校卒業生中、學業優秀、操行善良、體格健全なるものに授與して居た知事賞は、やもすれば時代錯誤的な點が多し弊害は免れぬ處から中等學校長會議に於ても何時も物議をかもして居たに鑑み縣では昭和九年度限り之を廢止し昭和十年度の卒業生には之を授與せぬこととなつた。

協成女學校設立者變更

私立協成女學校は校長熊谷保吉氏が兎角の不評を買ひ其の設立者を前田忠一氏に變更することとなつたが昭和九年十二月十日付を以て昭和十二年度までに財團法人たらしむべきことを條件に文部大臣より認可された。又名稱も堤橋高女と變更した。

協成中學塾廢校

私立協成中學塾は専檢の受験資格なく入學者も少く經營困難となり昭和九年十月、父兄懇談會に於て廢校と決し昭和九年度限り廢校の認可を得た。

生徒の校外取締

青森市内の中等學校生徒の校外取締を勵行し素行上懸念ある生徒に對して學校並に父兄と緊密なる連絡をとつて善導する目的で中等學校並に小學校が連携して教護聯盟を組織することとなり昭和十年二月頃校長の打合せがあり昭和十年度より具體化する運びであつたが一學期は結局、ものにならず二學期あたりにから具體化する豫想である、尙ほ弘前市に於ても中等學校の校外監督會議を開き列車内の公衆道徳を重んじ女子生徒の鷹揚園西濠ボート遊びの嚴禁を申合せ等校外取締の徹底を期して居る。

縣下中等學校の半途退學者

縣下中等學校の半途退學者は、病氣、その他、

Table listing schools (e.g., 弘前、協成、青森、八戸) and their respective numbers of students who dropped out during the school year.

縣下中等學校の弘高入學率

弘前高等學校の募集人員百二十名に對し受験者は七十名で競争はかなり激甚であつたが縣下中等學校生徒の入學者数は左の通り

Table showing enrollment numbers for various schools in the county, categorized by school type (e.g., 商業、工業、水産、農業).

昭和九年度卒業生知事賞授賞者

- List of names of students who received the Governor's Award in the 9th year of the Showa era, including 工藤芳四郎, 今川金兵衛, 泉山政壽, 角鹿哲也, 高谷富夫, 野邊地實科女學校, 八戸中學校, 弘前中學校, 青森中學校, 木造中學校.

Table listing names of graduates and award recipients, organized by school and then by name.

弘前女學校 佐藤 つか
弘前高等家政女學校 (師範科) 藤盛 京子
(本科) 大坂 サダ
弘前和洋裁縫女學校 (師範科) 菊谷 勝子
(本科) 奈良 てる
山田高等家政女學校 柿崎しげる
八戸千葉裁縫女學校 (專修科) 藤井 ヤエ
(本科) 下田 歌子
協成高等女學校 鎌田 チヨ
東奥家政女學校 福山よりえ

九年度卒業生志望別一覽

部	進	職	家	事	實	其	他	未	定
師範	1	1	1	1	1	1	1	1	1
青年	1	1	1	1	1	1	1	1	1
農學	1	1	1	1	1	1	1	1	1
工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1
商業	1	1	1	1	1	1	1	1	1
家政	1	1	1	1	1	1	1	1	1
女子	1	1	1	1	1	1	1	1	1
男子	1	1	1	1	1	1	1	1	1

昭和十年度に於ける特殊な施設並に方針

○師範學校 寄宿舎を生徒の自治的共同生活並に互譲協和の道場たらしめんがため十年度より入學者全部は卒業まで之を入舎せしむることとした。

○青年學校教員養成所 生徒教養の目的を達するため青教塾を設け主として報徳主義により農場を中心とする實習訓練及農民精神の陶冶をなし以て優良なる青年學校教員の養成を圖ることとなつた。

○弘前中學校 本年度新に生じたる第一種五

年生に對し前年度の方針を踏襲して一層其の教育の實際化、郷土化を圖り第二種生に對しては學力の増進に主力を注ぎ以て新制度による教育の完成を期することとなつて居る、而して作業科の内容を充實し勤勞愛好の美風陶冶の徹底に努め又通學自治國の訓練に一段の努力を致し益々自治能力の向上を圖る方針である。

一、公立學校の制度に私塾生活を加味したる教育の實施
二、農場に於ける簡易なる日光室の建設
三、一種生に對する職業指導
四、創立十週年記念式典の舉行
五、農場の整理及有畜農業の實習
六、體育の奨勵

一、公立學校の制度に私塾生活を加味したる教育の實施
二、農場に於ける簡易なる日光室の建設
三、一種生に對する職業指導
四、創立十週年記念式典の舉行
五、農場の整理及有畜農業の實習
六、體育の奨勵

一、公立學校の制度に私塾生活を加味したる教育の實施
二、農場に於ける簡易なる日光室の建設
三、一種生に對する職業指導
四、創立十週年記念式典の舉行
五、農場の整理及有畜農業の實習
六、體育の奨勵

一、公立學校の制度に私塾生活を加味したる教育の實施
二、農場に於ける簡易なる日光室の建設
三、一種生に對する職業指導
四、創立十週年記念式典の舉行
五、農場の整理及有畜農業の實習
六、體育の奨勵

一、公立學校の制度に私塾生活を加味したる教育の實施
二、農場に於ける簡易なる日光室の建設
三、一種生に對する職業指導
四、創立十週年記念式典の舉行
五、農場の整理及有畜農業の實習
六、體育の奨勵

一、公立學校の制度に私塾生活を加味したる教育の實施
二、農場に於ける簡易なる日光室の建設
三、一種生に對する職業指導
四、創立十週年記念式典の舉行
五、農場の整理及有畜農業の實習
六、體育の奨勵

一、公立學校の制度に私塾生活を加味したる教育の實施
二、農場に於ける簡易なる日光室の建設
三、一種生に對する職業指導
四、創立十週年記念式典の舉行
五、農場の整理及有畜農業の實習
六、體育の奨勵

教育—高等教育—

の奨励を圖ること
一、郷土調査を實施し教育の郷土化、實際化を圖ること
一、衛生思想の普及に努め特にトラホームの撲滅を期すること
と

一、女子に適切なる副業の研究をなす。

野邊地實科高等女學校

トヲホームの校内治療の徹底を期す

協成女學校

女子の使命と縣國の趨勢に顧み特に裁縫科の施設經營に力を注ぐ、即ち各學年とも規定時間以外更に自習時間を設け一成績品の仕上げ毎に展覽協議會を開き教授細目編纂には地方的事情を參照し以て該科成績の向上發展を企圖す。

弘前高等家政女學校

産業による更生の急務なるを認め本科に農業及商業を加設す、但し家庭關係を考慮し撰擇科目として其の何れかの一科を撰擇履修せしむ。

八戸千葉裁縫女學校
圖書室の設置並に月刊「校内たより」の發行。

高等學校
弘前高等學校學級及生徒數

及生徒數

弘前高等學校は弘前市富田にあり九月五日現在の學級數は文科九學級、理科六學級で其の生徒數は左の通り四百六十五名である。

Table with columns for grade level (e.g., 三學年一學級), subject (文科, 理科), and student count (總計).

昭和九年度卒業生
氏名及び方向

Table listing graduates by name and their future direction (e.g., 東京大, 東北大, 青森大).

青森縣國民精神文化講習所

教員思想對策の一として縣では思想問題研究會を設置し思想指導方法、赤化思想の防止方...

- 第二條 本講習所は青森縣教育關係者に對し日本精神並に思想問題に關する講習を施し以て識見實力を涵養せしむるを以て目的とする
第三條 本講習所の事業は左の如し
一、國民精神文化講習會、毎...

Table listing various educational institutions and their locations (e.g., 京大法, 東北大, 青森大).

Table listing names and directions of graduates from various institutions (e.g., 飯田清彦, 山川忠正).

青森縣國民精神文化講習所

第一條 本講習所は青森縣國民精神文化講習所と稱し事務課内に置く

る人物に之を委嘱す
附則 本規程は公布の日より
之を施行す

役職員
所長 學務部長 高辻 武邦
副所長 視學官 石田 直雄
主事 沼宮内哲四郎
書記 須藤 則雄
青女師教諭 山田 實
同 青女師教諭 木村美根三
同 石場 正敏
同 土田 廉
同 大塚 與吉

滿洲國留學生

縣立青年學校教員養成所(舊
實業補習學校教員養成所)は漸
次其の内容を整備しつつあるが
滿洲國政府に於ても氣候其の他
の關係から特に選んで縣の教員
養成所に留學生を派遣すること
となり昭和九年十二月十七日に
揚義平(二五)侯果儀(三〇)除謙
徳(三三)の三君が入學した、留
學の主なる目的は滿洲國に於け
る農村の第一戦に立つ人物とな
しめんとするにあるが越えて昭
和十年四月より縣立三本木農學
校に滿洲國蒙古の蘇爾勒莫君
(二〇)が入學し今後三ヶ年間、
畜産に關し研鑽を積み有畜農業
の獎勵に當る筈で縣内に滿洲國
より四名の留學生のあつたこと

は縣教育の名譽である。
縣教育の名譽である。

青森縣教育會

事務所は從來、縣廳内に置い
たが事業擴張の爲め縣農會事務
所二階へ移り益々教育界の爲め
陰に陽に活躍してゐる、昭和九
年度中の主なる事業としては
一、毎月一回機關誌「青森縣教
育」の發行、右は今年より新
開紙法に依り發行する事とな
り縣教育界の指標として發展
の途上にある。

- 一、六月六日公會堂に於て縣と
合同主催にて青森縣小學校教
員精神作興大會を開催した。
四、六月八、九兩日師範學校に
於て東京高師教授中川一男氏
を聘し國史教育に關し講習會
を開催した。
五、七月二十九日より八月十一
日迄十四日間師範學校に於て
小學校教員檢定受験者の爲に
受験準備講習會を開催した。
六、九月本縣兒童用學習帳六種
の編纂に着手十年二月完成を
みた。

三四

下四千教職員の相互扶助、救済
に金融機關として鋭意發展貢
獻に努めてゐる。
昭和九年度末現在に於ける概
況左の如し。
人員 三、三七人
口數 三、七七〇
○一般會計貸借對照表
借方(資産)

團體貸付金	三、〇〇〇
會員貸付金	三、三〇〇
有價證券	八、九九八
定期預金	二九、〇〇〇
當座預金	一、七五四
振替預金	一、七四一
特別會計繰入金	六九一
既經過利子	一九、五〇〇
合計	九七、九九八
貸方(負債)	
會員積立金	九七、三九三
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

縣教職員互助會

事務所は縣農會二階に置き縣

會體貸付金	三、〇〇〇
會員貸付金	三、三〇〇
有價證券	八、九九八
定期預金	二九、〇〇〇
當座預金	一、七五四
振替預金	一、七四一
特別會計繰入金	六九一
既經過利子	一九、五〇〇
合計	九七、九九八
貸方(負債)	
會員積立金	九七、三九三
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

- 七、全國小學校教員會、女教員
大會へ各代表者を派遣した。
八、教育功勞者表彰
△一般教育功勞者
中郡隆親小學校々醫 芳賀 徳藏
南郡東光寺小學校長 三浦 慶藏
元三戸郡五戸小學校々醫 松尾 由郎
元五所川原小學校長 釜沼 彦作
△實業教育功勞者
實業教育五十年記念として左
の一校並に三名を表彰した。
中郡玉成女子實業學校
縣立五所川原農學校長 菊地幸次郎
縣立三本木農學校長 工藤藏之助
中郡相馬公民學校助教諭 蝦名 次郎
九、八月體育協會と合同主催に
て教員競技會を開催した、種
目陸上競技、籠球、排球。
十、其の他教員檢定受験者指
針、郷土讀本、夏季、冬季學
習帳の編纂計画中である。
昭和十年年度豫算總額一萬九百
九十二圓である。

團體貸付金	三、〇〇〇
會員貸付金	三、三〇〇
有價證券	八、九九八
定期預金	二九、〇〇〇
當座預金	一、七五四
振替預金	一、七四一
特別會計繰入金	六九一
既經過利子	一九、五〇〇
合計	九七、九九八
貸方(負債)	
會員積立金	九七、三九三
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
借方(資産)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商掛品	二〇六
合計	一六三

○購買部貸借對照表
貸方(負債)

購買部貸付金	三、〇〇〇
會員積立金	三、三〇〇
受利子	七九
前金	六二七
合利子	九、九九八
當座預金	九三
振替預金	一、二八〇
定期預金	一、〇〇〇
貸付金	一九、三〇一
商	

社會教育

概況

本縣の社會教育は近年漸く活況を呈するに至り小學校當局も基礎教育だけでなく基礎教育を眞に効果あらしむるためには社會教育の進展を期すべきであるとなし此の方に進出しつつあるのは争はれないが青年訓練所は社會課が擔當し實業補習學校は教育課が擔當し縣の指導本部が明瞭でなく支障を生じて居たが縣では昭和十年四月一日より從來の實業補習學校と青年訓練所とを統合して同年五月一日より多年の要望である社會教育課を獨立し社會教育の諸般の事務を擔任せしめ之と同時に社會教育主事の更迭を行つたので縣の社會教育も漸く軌道に乗つたものと見られ將來の發展を待望される。

青年學校

本旨 小學校卒業後、直ちに社會の實務に従事する男女大衆青年に

青年學校令

- 第一條 青年學校ハ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛鍊シ徳性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資ヲ向上セシムルヲ目的トス
- 第二條 北海道、府縣、市町村、市町村學校組合、町村學校組合及町村制ヲ施行セザル地域ニ於ケル町村又ハ町村學校組合ニ準ズベキ公共團體ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第三條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ青年學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲メ學區ヲ設ケルコトヲ得
- 第四條 商工會議所、農會其ノ他之ニ準ズベキ公共團體ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第五條 前項ノ規定ニ依リ設置シタル青年學校ハ私立トス
- 第六條 私人ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第七條 青年學校ノ設置廢止ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケベシ
- 第八條 青年學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 青年學校ニ普通科及本科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ普通科又ハ本科ノミヲ置クコトヲ得
- 第十條 青年學校ニハ研究科ヲ置クコトヲ得
- 第十一條 普通科ノ教授及訓練期間ハ二年トス
- 第十二條 本科ノ教授及訓練期間ハ男子ニ在リテハ五年、女子ニアリテハ三年トシ但シ土地ノ情況ニ依リ男子ニ在リテハ四年、女子ニ在リテハ二年ト爲スコトヲ得
- 第十三條 研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス
- 第十四條 普通科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス
- 第十五條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ普通科修了者、高等小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス
- 第十六條 本科卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス
- 第十七條 普通科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通科、職業科並ニ體操科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通科、職業科、家事及裁縫科並ニ體操科トス
- 第十八條 本科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通科、職業科並ニ體操科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通科、職業科、家事及裁縫科並ニ體操科トス
- 第十九條 青年學校ニハ特別ノ事項ヲ修得セシムル爲メ専修科ヲ置クコトヲ得
- 第二十條 専修科ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

三五六

- 第十一條 青年學校ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クベシ
- 第十二條 青年學校ノ教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十三條 青年學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十四條 青年學校ニ於テハ授業料ヲ徴收スルコトヲ得ズ但シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十五條 本令ニ依リザル學校ハ青年學校ト稱スルコトヲ得ズ

於ける斯業の向上を圖ること。
 一、縣の主力傾注事項
 二、不振青年學校の特別指導
 三、市郡青年訓練事業の振興
 四、後援會の設立及活動促進
 五、入學率目標
 六、出席率目標
 七、高學年生の退學防止
 八、出稼青年の指導
 九、訓練の生活化
 一〇、縣下一齊學科查閱

- 一、模範生の表彰
- 二、青年學校生徒學科查閱
- 三、不振青年訓練所特別指導
- 四、優良青年學校表彰
- 五、青年學校研究録刊行
- 六、公德週間
- 七、神饌田設置
- 八、共同實習地の設置
- 九、共同作業場の利用
- 一〇、共同作業場の利用

- 一、青年學校後援會の活動促進
- 二、教練指導員の優遇と増員
- 三、町村長の青年學校視閲
- 四、青年學校指導員服の着用
- 五、小學校教員全員を青年學校關係者たらしむこと
- 六、配屬將校の利用
- 七、各訓練項目の統一
- 八、教練授訓の形式化排除
- 九、出稼青年の特別指導
- 一〇、在滿軍人遺族の慰問
- 一一、青年調査の勵行
- 一二、實際生活の重視

青訓教練查閱成績 (昭和十年三月第八師團發表)

昭 和 八 年 度	優 甲	乙	丙	丁	入所率		出席率		修了率	歩兵除隊 定合格率
					八師團管内平均	昭 和 九 年 度	八師團管内平均	昭 和 九 年 度		
	七二	一六	一〇三	二	八五・七〇	七六・七六	五三・六四	三三・〇七		
	七二	一六	一〇三	二	八八・一五	七九・七五	五三・〇四	三三・〇〇		
	七二	一六	一〇三	二	八八・三三	七九・七六	五三・〇六	三三・七〇		
	七二	一六	一〇三	二	八三・三〇	七三・八三	四八・六六	三三・〇〇		
	七二	一六	一〇三	二	八三・三〇	七三・八三	四八・六六	三三・〇〇		

教育—社會教育—青年訓練所—青年教練查閱成績

三五七

教育

社會教育—青年訓練所—青訓國庫補助金—青訓生徒數—青訓表彰—昭和九年度青訓後援各種團體活動狀況—實補校調—實補教員調

青年訓練所

郡市別青訓數一覽 (九年六月一日現在)

Table showing youth training numbers by region (東, 西, 中, 南, 北, 上, 下, 三, 弘, 青, 八) and category (訓練所, 充當補, 習學校).

所に對する國庫補助金は市町村男子人口、訓練所數、生徒數、職員手當、訓練施設を參酌して左の通り配當された

青訓生徒數

(昭和九年四月一日現在)

Table showing youth training student numbers by region and category (青, 弘, 三, 下, 上, 北, 南, 中, 西, 東).

青訓表彰

(昭和十年一月) 第一回表彰(數ヶ年優秀にして始めて表彰されたもの) 第二回表彰(第一回の表彰を受けた其の後數ヶ年連續優秀なるもの)

Table listing award recipients by region (東, 中, 北, 下, 三, 弘, 青, 八) and category (軍人分會, 後援會, 男子青年團, 處女會).

昭和九年度青訓後援各種團體活動狀況

(昭和十年三月) 第八師團司令部調

實補校調べ

Table showing school adjustment data by region (市, 縣) and category (工業, 農業, 商業, 水産, 商業, 農業, 水産, 其他).

實補教員調

Table showing teacher adjustment data by region (市, 縣) and category (校長, 教諭, 助教諭, 其他).

Table showing youth training expenses (實補經費) by region (市, 町, 村, 合) and category (實業補習學校費, 實補教員養成費, 實補教員講習費, 其他).

實補生徒數

Table showing youth training student numbers (實補生徒數) by region (市, 町, 村, 合) and period (前, 後).

縣聯合青年團

昭和十年度の豫算總額は一千五百四十一圓で新規事業として工商青年講習費五十圓、農聖追慕講習費七十圓、農村通歴講習費五十圓等、縣下の優良青年團二つを選んで表彰すること、なつて居る、又縣では青年の役割の重大なるに鑑み、特別に豫算の千圓を計上し、産業獎勵のため、展覽會費五百圓、先進地の産業視察費二百五十圓、産業研究獎勵金二百五十圓を交付すること、なつて居る、尙ほ縣聯合青年團の施行しつゝある事業を摘記すれば左の通りである。

青年團

本縣の青年團數は百六十七團體で團員は四萬五千人其費用は二萬五千圓となつて居り凶作の後を受け産業方面に活動して居る。

縣の方針

一、敬神崇祖の念を涵養し國民教育—社會教育—實補經費—實補生徒數—青年團—縣聯合青年團

道徳の振興に資すること、二、實實剛健の美風を助長せしめ時弊の匡正に努むること、三、自治協同の眞義を體得せしめ縣民性の短所を矯正すること、四、讀書の趣味を養成し智徳を増進すること、五、運動競技を奨励し體位の向上を圖ること

一、中堅青年の養成、二、産業部の内容充實、三、一人一研究の奨励、四、共同實習地の設置、五、共同作業場の利用

一、中堅青年養成の講習所開設、二、篤農青年大會開催、三、青年創作副業品展覽會開催、四、青年實務研究獎勵並に研究録の刊行、五、青年實務研究發表會開催、六、青年團産業部の設置獎勵

- 七、郷土研究調査の實施
- 八、體育大會の開催
- 九、優良青年團の表彰

市町村青年團の實施中の事業

- 一、各種展覽會
- 二、幹部短期講習
- 三、青年一夜講習會
- 四、體育會運動會の開催
- 五、實務研究發表會
- 六、産業座談會
- 七、共同試作地の設置
- 八、補習教育の奨励及相互制裁
- 九、青年訓練入所、出席奨励援助
- 十、各種社會公共奉仕
- 十一、青年篤農家の訪問

縣下優良青年團

- △東郡蓬田村青年團
- △下北郡佐井村青年團
- △中郡清水村自彊青年團
- △西郡柴田村福原青年團
- △東郡荒川青年團

青年團狀況

青年團創設後大日本聯合青年團より表彰された縣下優良青年團は左の通り

東郡 五、一九九
團員數 豫算額 基本金
三、三九三 九、七三三

郡	青年團數	團員數	豫算額	基本金
青森市	四	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八
弘前市	六	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八
八戸市	六	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八
縣全體	一六	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八

青森市青年團の紛糾

青森市青年團は佐々木義満氏が團長に就任してより其の面目が一新し統制ある活動を開始したのであるが同氏が諸種の事情により昭和九年に退任した。その後、團長に就任したのが其の端を發して團長の不信を鳴らす者が多く脱退し退任は五月に新に青森市聯合青年團を結成して中村菊三氏を團長に推した。之より先き北山市長は昭和十年度豫算に市青年團補助金として五百圓を計上し市會の決議を得、四月には右の内より市青年團に對し金百圓を交付したが

兩青年團の軋轢は漸く甚だしく北山市長も傍觀の態度を執り補助金の殘額四百圓は其のまゝ協助のつくまで交付せず市會に於ても其の旨を答辯して居たものであつた。北山市長が退任して十月、加賀秀雄氏が市長に就任した後も兩青年團は折合はず越年した年度末になるや市青年團は殘額四百圓の補助金の交付を市長に迫り或る時は市長宅に於て兩團の役員が流血の争鬪をなす等、醜態であつたが加賀市長は協調の見透しも付かずと見て正統派たる市青年團に對し殘額四百圓を交付した。之が爲め市聯合青年團は大いに憤慨したが如何とも手の施しようがなく市長の措置に順應する處があつた。昭和十年度に入つてからも兩團の妥協はものにならず對立は激化する形勢にあるのみならず昭和十年度豫算に計上の五百圓の補助金は市會に於て「兩團が對立する限り何れの團にも交付すべからず」との希望付きで決議して居る關係もあり成行は注目され一方、縣に於ても事態を重視し局面打開のため協調せしむべく高辻學務部長は機會を狙つて居るのも興味を惹くが何れにしても純眞なるべき青年團が理由の何たるかを問はず互に對立

抗争するのは面白からぬ事である。

處女會

本縣の處女會數は百六十七團體、會員二萬五千人にして其の經費は約一萬三千圓で

縣の方針

- 一、婦徳の涵養に努め貞淑温良の美風を發揮すること
- 二、虚榮を戒め勤儉質素の良俗を助長せしむること
- 三、高尚なる趣味を養ひ情操を陶冶すること
- 四、經濟思想の養成に努め家政整理の能力を得せしむること
- 五、體育衛生を重んじ健康の増進を圖ること

縣の主力傾注事項

- 一、處女會指導者講習會
- 二、處女會幹部講習會
- 三、處女會大會
- 四、處女會作品展覽會
- 五、優良處女會合同視察
- 六、實務研究懸賞募集
- 七、處女必携刊行
- 八、處女の友青森縣版の發行
- 九、優良處女會表彰
- 一〇、講師派遣
- 一一、中央諸講習會へ講習生派遣

縣聯合處女會

昭和十年度豫算總額は一千三百四十一圓で新規事業は處女會振興協議會、優良處女會合同視察、處女會事務主任協議會等である。處女會事務主任協議會は昭和十年は十和田湖畔に於て秋田、青森、岩手の三縣合同で開催することとなつた。又縣下の優良處女會二つを選んで表彰する筈で目下實施しつゝある主なる事業は左の通りである。

- 一、處女創作副業品展覽會
- 二、處女大會
- 三、處女一日講習會
- 四、労働作業服の改善と其の奨励
- 五、見學視察團の組織
- 六、實務研究の奨励
- 七、優良處女會の表彰

市町村處女會の實施中の事業

- 一、處女一日講習會
- 二、敬老會の開催
- 三、實務研究の發表

各市町村青年團、處女會一覽

(記入なき方は回答なきものなり)

町村名	支部數	團員數	團長氏名	支部數	團員數	團長氏名
油川町	一	三〇	岸井榮知雄	一	八三	岸井榮知雄
小湊町	一	三三	金澤 暹郎	一	一五	金澤 暹郎
大野村	一	三三	渡邊 利助	一	一三	渡邊 利助
荒川村	一	一六	田邊 憲一	一	一三	田邊 憲一
高田村	一	一四	山本 寬一	一	一六	山本 寬一
瀧内村	一	一四	高村重三郎	一	一三	高村重三郎
新内村	一	一八	竹内 和徳	一	一三	川村 常吉
奥内村	一	一〇	市川 謙吉	一	一三	市川 謙吉
後田村	一	一〇	大科 福三	一	一三	高木 太吉
蓬田村	一	一〇	八戸 專九郎	一	一三	八戸 專九郎
蟹田村	一	一〇	田中 吉松	一	一三	工藤 正輔
平館村	一	一〇	鈴木 要次郎	一	一三	鈴木 要次郎

處女會狀況

郡	青年團數	團員數	豫算額	基本金
青森市	四	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八
弘前市	六	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八
八戸市	六	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八
縣全體	一六	一、〇七〇	三、〇三六	二、三六八

西津輕郡

町村名	支部數	團員數	團長氏名	支部數	團員數	團長氏名
一本木村	一	三〇	田中金兵衛	一	一四	田中金兵衛
三本木村	一	一五	坂本豊太郎	一	一〇	大宮長太郎
横内村	一	一五	大宮長太郎	一	一〇	長崎 幡郎
筒井村	一	一五	中村 隆一	一	一〇	石戸谷五郎
原別村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎
野口村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎
西平内村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎
東平内村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎

東津輕郡

町村名	支部數	團員數	團長氏名	支部數	團員數	團長氏名
一本木村	一	三〇	田中金兵衛	一	一四	田中金兵衛
三本木村	一	一五	坂本豊太郎	一	一〇	大宮長太郎
横内村	一	一五	大宮長太郎	一	一〇	長崎 幡郎
筒井村	一	一五	中村 隆一	一	一〇	石戸谷五郎
原別村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎
野口村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎
西平内村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎
東平内村	一	一五	齋藤萬兵衛	一	一〇	大柳 五郎

教育—社會教育—各市町村青年團、處女會一覽

Table listing youth groups and women's associations in the Chubu region, including village names, group counts, and leaders.

○中津輕郡

Table listing youth groups and women's associations in the Nakatsu region, including village names, group counts, and leaders.

○南津輕郡

Table listing youth groups and women's associations in the Nanatsu region, including village names, group counts, and leaders.

○上北郡

Table listing youth groups and women's associations in the Kamikita region, including village names, group counts, and leaders.

○北

Table listing youth groups and women's associations in the Kita region, including village names, group counts, and leaders.

○下北郡

Table listing youth groups and women's associations in the Shimokita region, including village names, group counts, and leaders.

○三戸郡

Table listing youth groups and women's associations in the Sanpo region, including village names, group counts, and leaders.

教育—社會教育—各市町村青年團、處女會一覽

Table listing youth groups and women's associations in the Aomori region, including village names, group counts, and leaders.

教育—社會教育—昭和九年度青森縣立圖書館閱覽年報—成人教育

Table of library statistics for 1934, listing various locations (e.g., 上長苗代, 下長苗代, 館上村) and their respective counts for different categories like '成人教育' and '少年少女團'.

昭和九年度青森縣立圖書館閱覽年報 (開館日數三三四日)

Table showing library reading statistics by gender (男/女) and location (館内/館外), including a section for '成人教育' (Adult Education) with specific program details.

成人講座 (昭和九年度)
婦人の法律並家庭經濟、家庭
理、家庭經營の合理化を圖
る。
二、凶作克服のため特に生活改
善の實行をなさしむ

Table titled '九年度三市圖書館成績' (Achievements of three cities' libraries in the 9th year), listing statistics for 弘前市立, 八戸市立, and 青森通俗圖書館.

Table titled '公立圖書館數' (Number of public libraries), listing counts for various municipalities like 弘前市, 青森市, 北町, etc.

成人講座
婦人の法律並家庭經濟、家庭
理、家庭經營の合理化を圖
る。
二、凶作克服のため特に生活改
善の實行をなさしむ

圖書館
縣下には百四十三圖書館があ
り其の蔵書冊數十七萬二千七百
三十九冊に上り一日平均讀者
は六百七十人で經費二萬一千圓
である。
◆縣の主力傾注事項
(十年度以降)

Table titled '縣立圖書館閱覽圖書冊數' (Number of books read in county libraries), showing statistics for '和漢書' and '洋書' across different library types.

縣立圖書館昭和十
年度事業
一、特殊文庫貸出
イ、海濱文庫
ロ、キャンプ文庫
ハ、農村更生文庫
二、圖書館員講習會開設
三、第一回縣下圖書館長會議
(九月)
四、郷土人の文獻目錄及實物蒐
集(四月)
五、縣下各圖書館の圖書修理
(八月)
六、讀書會(四月より毎月一回)
七、讀書相談部新設(五月より)
八、圖書館叢書續刊(年二回)
九、圖書館成績—縣立圖書館閱覽圖書冊數
九年度三市圖書館成績—縣立圖書館閱覽圖書冊數
少年少女團—三六五

教育—社會教育—九年度三市圖書館成績—縣立圖書館閱覽圖書冊數—少年少女團—三六五

少年少女團

縣下には少年少女の團體数は七十に及び其の團員は一萬二千三百人である。

兒童生徒に對し校外生活を指導し進んで社會生活に關する訓練を施す

婦人會

縣下の婦人團體は六十二で全員二千人に及び經費は一千五百圓程度である。

- 一、忠孝の大義を體し婦徳の涵養に努むること
- 二、智能を啓發し健康の増進を期すること
- 三、勤儉の美風を勸奨し生活の改善を圖ること
- 四、公共的精神を養ひ社會の福祉を増進すること

戸主會の数は極めて少く縣で

は昭和十年度に於て經濟更生を其の指導精神として既設戸主會の活動を促進し部落別活動を指導奨励し戸主會を中心として成人講座を開設する方針である。

社會教化

- 一、國體觀念を明徴にして國民精神を作興すること
- 二、經濟生活を改善し民力を培養すること
- 三、更生運動の徹底を圖り郷土の雰圍氣分を一層明朗ならしむること
- 四、縣教化團體聯合會の活動資金を造成すること

縣の施設(十年度以降)

- 一、教化振興懇談會
- 二、精神作興週會
- 三、縣下社會教化事業關係者大會
- 四、教化講習會
- 五、建國祭
- 六、中央教化團體聯合會主催講習會へ講習生を派遣
- 七、同上全國教化團體代表大會へ出席者推薦
- 八、教化運動購讀者勸誘
- 九、未加入教化團體の加入勸誘
- 一〇、郷土に埋る教化資料の印刷頒布
- 一一、教化功勞者の表彰
- 一二、國旗掲揚臺の設置

民衆娛樂

縣特有の郷土藝術並年中行事の保存純化

縣の施設(十年度以降)

- 一、民衆娛樂の教育的指導
- 二、青森縣郷土藝術協會組織
- 三、同印刷物の發行
- 四、同レコードの作製
- 五、同映畫教育協會の活動促進
- 六、市部に於ける教育映畫パールの設立
- 七、民間年中行事の保存と改善
- 八、地方娛樂に關する研究調査

生活改善

- 一、二重生活を避くるに努め殊に年少兒童の如きは漸次洋服に改めしむること
- 二、冠婚葬祭の弊風を改善す
- 三、家屋、臺所、便所の改善を期すべく之が改良組合を作り毎月一定の蓄積又は低利資金の運用により其の實現を期すること
- 四、時間勵行のこと
- 五、榮養改善講習
- 六、寄生蟲、トラホームの防除

其他社會教育施設

職業指導(縣の方針)

一、大日本職業指導協會青森縣支部設置

民衆體育(同)

- 一、民衆體育に關しては普遍的合理的、繼續的の三を標準とする
- 二、町村に有志の團體を作らしめ毎朝ラヂオ體操等を奨励すること
- 三、青森縣體育協會と協力し各種の運動を奨励すること
- 四、各種婦人團體を通じ衛生思想の普及に努むること

少年赤十字團

日本赤十字社青森支部少年赤十字團は日支事變發生以來、黙然奮起して街頭に慰問金の募集を叫び社前に皇軍の必勝を祈願し或は勞役に依つて得たる零細な金を派遣軍の慰問に、國防獻金等に醸出し昭和九年に於て北郡嘉瀬、上北郡三本木、下北郡大湊の三團が發團式を行ひ現在、設置團數四十七名に上り團員數は三萬一千二百七名に及ぶ。呈して多數の學用品並に金員を贈呈し尚ほ同年十月第十五回赤十字國際會議の東京で開催の際には各國代表歡迎のため團員十名職員四名を派遣する等不斷の活躍を續けて居る。

社會事業

縣社會事業概況

社會的經濟的逼迫と共に社會問題も續出し複雑化して行く。而してこの社會問題は、主として生活苦に關するものであつて、國家並に縣市町村當局も、之が救済に關し適宜なる對策樹立に迫られ、又漸次に之を實施しつゝあるのであるが、しかし今日の處斯種問題の直接原因に觸れざる限り尙遠を免れな

はなく單なる聯絡指導監督の機關としてあるにすぎない。理想的に云へば寧ろ縣下の有力者富者社會事業關係者が續出、事業が各方面に均霑されたる時之が統制指導に當るのが、社會課の任務でなければならぬ。本縣は昭和九年又復凶作に遭ひ、小農家庭の窮迫は言を俟たず、漁村に於いても不況の深刻化は蔽ふべくもない。目前に焦眉の重大な生活問題、社會道徳的問題が山積してゐる實狀にある。茲に於て、縣民は社會的認識を正確にもち、事業施行の本義に目覺め、農漁村の社會施設に重點を置き經濟的救済について民衆の輿論に準據し、官民一つとなつて事業の擴充を期さなければならぬ。

社會事業關係資金

(昭和十年 四月一日現在)

社會事業—縣社會事業概況—社會事業關係資金—縣社會事業協會—青森縣共濟會—主要事業—救護—

青森縣共濟會主要事業

(昭和九年度)

- △社會事業援助
- △社會事業獎勵助成の爲め左の通り補助金を交附した。
- 金百五十圓 兒能花園
- 金同 和光園
- △青森保育園經營(保育事業參照)
- △乳幼児保護及び農村托兒所設置
- △貧困兒童救済

救護

罹災救助基金

昭和九年度に於て罹災救助を要せる災害二回(火災三回)罹災戸數四五戸、救助基金を支出せる總額一、四四四圓六三錢であつた。

罹災救助基金現在

- 内課 三八八、九五圓
- 公債 二二、六四四圓六三錢
- 貸付金 三六七

- 一 金二、六三圓六錢 現在貸付金
- 一 公債額面金四八、九五圓 現在
- 合計金五〇、五八圓六錢
- 賑恤慈善救済資金
- 一 金三〇、〇三圓五錢 現在 預金
- 一 金九、五〇圓 運用 金
- 一 金〇、〇〇圓 貸付 金
- 合計金三九、五三圓五錢
- 軍人援護資金
- 一 金七、〇三圓九錢 現在 預金
- 一 金〇、〇九圓 現在 運用 金
- 一回四分利 一 金七、五〇圓
- 債額面 一 金七、五〇圓
- 合計金一四、〇〇圓九錢

縣社會事業協會

昭和六年五月に設立、昭和八年一萬四千七百七圓の資金を得たので積極的事業に着手するに至つた。事業としては、會報「善隣」の發行、乳幼児愛護週間の實施、社會事業講習會開催等は例年のことであるが、九年度事業としては家庭常備藥製劑所を設置したこと、凶作による貧困家庭婦女身賣防止のための就職資金貸付が特に注目されるべきものである。(家庭常備藥製劑所に付ては「衛生」の項參照)

昭九年度救護狀況調

種類	實人員	延人員	金額	道府縣負擔		市町村負擔	
				人員	金額	人員	金額
生活扶助費	1,150	1,150	5,950	1,150	4,800	1,150	4,800
醫療費	1,150	1,150	5,950	1,150	4,800	1,150	4,800
助産費	1,150	1,150	5,950	1,150	4,800	1,150	4,800
生業扶助費	1,150	1,150	5,950	1,150	4,800	1,150	4,800
計	4,550	4,550	23,600	4,550	19,050	4,550	19,050
委員	1,150	1,150	5,950	1,150	4,800	1,150	4,800
埋葬費	1,150	1,150	5,950	1,150	4,800	1,150	4,800
計	2,300	2,300	11,900	2,300	9,600	2,300	9,600
合計	6,850	6,850	35,500	6,850	28,650	6,850	28,650

昭九年度軍事救護狀況

地域	戸數	人員	金額
青森	1,580	4,530	8,350
弘前	1,400	3,930	7,450
八戸	1,400	3,930	7,450
東郡	1,400	3,930	7,450
西郡	1,400	3,930	7,450
中郡	1,400	3,930	7,450
計	8,400	23,640	45,100

昭九年度救護種類別救護狀況

救護種類	戸數	人員	金額
生活扶助	8,400	23,640	45,100
計	8,400	23,640	45,100

被救護者種類別救護狀況

被救護者別	戸數	人員	金額
傷病兵及其家族	1,300	3,600	6,800
傷病兵ノ遺族	1,300	3,600	6,800
傷病兵ノ遺族	1,300	3,600	6,800
計	3,900	10,800	20,400

軍事救護費豫算決算額調

年度	配付豫算額	決算額	不用額
昭和二年	2,450	2,450	0
昭和三年	3,350	3,350	0
昭和四年	3,270	3,270	0
昭和五年	3,630	3,630	0
昭和六年	3,630	3,630	0
昭和七年	3,630	3,630	0
昭和八年	3,630	3,630	0
昭和九年	3,630	3,630	0
計	26,100	26,100	0

行旅病人表

前年度	本年度	死亡	現在	金額
1,070	1,070	1,070	1,070	1,070
計	1,070	1,070	1,070	1,070

行旅死亡人表

前年度	本年度	死亡	金額
1,070	1,070	1,070	1,070
計	1,070	1,070	1,070

授産事業

縣共済會では、昭和七年八月財團法人慶福會の補助金を以て青森市榮町に共済會授産場を建設し、同年十一月竣工、十二月青森手工藝講習所として開所、産業方面と連絡して諸般事業を開業した。殊に昭和八年七月より青森衛戍病院收容の戦傷病兵に對して職業指導をなし、各自の社會事業

人事相談取扱件數調

種類	件數	金額
生活扶助	1,070	1,070
計	1,070	1,070

軍事救護費豫算決算額調

行旅病人表 行旅死亡人表 授産事業

前月未了件數 合計 上月完了件數 未了中件數

希望により夫々適當の方法により練習せしめた。九年度の事業内容は左の如きものである。

(一)軍需品縫製作業
本縣因作救済策の一として農漁村婦女子に副業を興へて活に資せしめる爲、昭和九年十月より軍需品の縫製作業を軍部から委託されたので、縣では先づ指導者の講習を行ひ、其の後は青森手工藝講習所指導統制の下に縣下三十二ヶ町村に五十ヶ所の作業所を設置し作業開始した。昭和十年三月迄の作業成績は襦袢、袴下第一回試作用配給五千組、袴下第二回試作であるが、現在の作業設備よりして一日平均消化數量は襦袢、袴下七百組で、作業熟練するに於ては一日一千二百組、一ヶ月三萬六千組に達し、之が工賃収入は六千四百八十圓となる見込である。

△縫製作業實施狀況

郡市名	支所設置	作業機數	針者數	從業者數
青森市	三	一五	二〇	六〇
三戸郡	一	一	一	一
下北郡	二	二	二	二
上北郡	三	三	三	三
東郡	八	八	八	八
計	三	一五	二〇	六〇

人事相談取扱件數調

郡市名	件數	金額
青森市	三	一〇
三戸郡	一	一
下北郡	二	二
上北郡	三	三
東郡	八	八
計	三	一〇

農村季節的托兒所 (昭和九年中)

郡市名	開設日數	席數	児童數	主任	催者	托兒所名
青森市	一〇	一〇	一〇	荒川	荒川	荒川農繁期托兒所
三戸郡	一	一	一	同	同	同
下北郡	二	二	二	同	同	同
上北郡	三	三	三	同	同	同
東郡	八	八	八	同	同	同
計	三	一〇	一〇	同	同	同

農村季節的托兒所

郡市名	開設日數	席數	児童數	主任	催者	托兒所名
青森市	一〇	一〇	一〇	荒川	荒川	荒川農繁期托兒所
三戸郡	一	一	一	同	同	同
下北郡	二	二	二	同	同	同
上北郡	三	三	三	同	同	同
東郡	八	八	八	同	同	同
計	三	一〇	一〇	同	同	同

夏季兒童保養所

郡市名	開設日數	席數	児童數	主任	催者	保養所名
青森市	一〇	一〇	一〇	荒川	荒川	荒川夏季保養所
三戸郡	一	一	一	同	同	同
下北郡	二	二	二	同	同	同
上北郡	三	三	三	同	同	同
東郡	八	八	八	同	同	同
計	三	一〇	一〇	同	同	同

青森保養所
八月一日より同廿一日に至る廿一日間青森中學校に開催、児童靜養室、醫務室、學習室、海水浴場其他萬端行届いた設備をなし、時下よりの希望者中發音概評丙又は乙に該當するもの十九名、計百十五名を選抜入所せしめ、その効果は退所後の狀況調査結果好成绩を示した。

社會事業
農村季節的托兒所
夏季兒童保養所
青森保養所

愛國婦人會會員數 (十年三月調)

Table with 2 columns: 郡市別 (Municipality) and 員數 (Number of Members). Lists various municipalities like 青森, 弘前, 八戸, etc., with their respective member counts.

孤兒貧兒虛弱兒保護事業

孤兒、貧兒を收容し自活の道を得しめるのが目的で明治三十五年佐々五三郎氏創立、今日に至り、弘前市新寺町にある。十月末現在收容兒童は、男十八名、女十二名計三十名、例年の御下賜金、宮内省獎勵金、内務省及三井、三菱、住友の助成金、縣市の補助金を受く。九年度經費は九千六百十圓を要してゐる。

弘前愛成園

本園は孤兒、貧兒、棄兒及窮狀之に類する兒童を收容し、明治三十三年五月創立、經營者は今井武一氏、青森市浪打にある。昭和十年四月末現在の收容數は三歳より六歳迄の者八名、就學者十四名、實業見習者七名、家事手傳四名、其他救護規則により市より託された者五名、精神病者八名、經費は兩陛下の御下賜金を始めとして、宮内省内務省縣市の補助金及び住友、三井、三菱の寄附金其他活動寫眞の利益を以てす。九年度支出總計は五千餘圓である。

青森同情團

懸案の盲啞學校縣特營は十年

保育事業團體

△青森保育園 大正十年創立、青森市古川町美法にあり、縣共濟會の經營にして、九年度新入園兒童は三十七名、滞園兒童四十五名計八十二名、經費一千八百九十圓。△大坂保育園 昭和六年四月の創立で青森市大坂町にあり、財團法人大坂會の經營にして、十年三月右園兒六十名。△私立和光園 昭和七年六月創立で上北郡野邊地町にあり、九年度新入園兒童三十名、滞園兒童二十三名計五十三名、經費七百七圓。△弘前私立托兒園 大正三年四月弘前市鷹匠町に創立、園兒八十五名、十年三月退園兒四十六名、入園 五十餘名、園長山鹿元次郎。

△兒託花園

明治四十二年六月の創立で弘前市本町にある。△青森兒童ホーム 昭和六年八月創立で青森市長島三五八にあり。

盲啞教育

△八戸盲啞學校 (八戸市類家字古玄中寺六) 明治廿四年十一月創立、縣立代用校、當分授業料を徴收せず、學校及生徒數は、盲部中初等部五學級三十二名、聾啞部中初等部四學級七名、教員十一名、校長醫學博士星三藏氏。△青森盲啞學校 創立大正十四年十月。故西蓮寺幸三郎の創設にかゝり、現在北山一郎氏校長であるが、昭和十年四月設立を變更、北山氏外五名となつた。現在教盲科兩學級

婦女身賣防止運動

東北農山漁村の經濟的行詰りは、數年來加速度的に深刻化しつゝあるが、九年度の凶作によつて一層拍車かけられ、山村の困窮せる家庭では自家の窮境を救はん爲大切な婦女を身賣せしめるもの續出したが、本縣に於いても九年中の縣内外身賣婦女數は總數五千二百二十五名の多數を算するに至つた。此の五千餘名の中には、縣外工場へ工女として雇傭せられたるものもふくんであるが、殆んど多數は女中、女給、酌婦、娼妓として、多額の借借を以て身賣したものである。内務省社會局では、昭和九年十一月婦人の身賣を防止し、之を正業に就職せしめる爲活動の要綱を決定、就職に當り資金を必要とする者に対しては之を貸付けることとし、三井家の寄附金其他の寄附金を以て之にあてることとなつた。青森職業紹介事業協會青森支部(青森職業紹介事務局内)の同資金として委託された額は五千圓である。而して本縣に於ては、時及職業紹介事業紹介事務局は、警察官署、市町村職業紹介所等と聯絡提携して身賣防止の宣傳防止、及正業への就職斡

旋につとめ、正業に就職せんとする婦人にして家庭の事情により資金の貸付を必要とする已むを得ざる理由があつて、雇傭主より資金の貸付を受けること能はざるものに對しては、右貸付機關より必要の最少限度の就職資金を貸付けることとなつた。尙資金の貸付については、財團法人本縣社會事業協會及愛國婦人會支部にても、前記と同一主旨により之をなした。又、職事局では、貧困家庭のため、婦女を確實なる工場乃至家庭へ合理的なる前借による就職斡旋をなした。本縣に於ける「身賣防止」目的なる資金貸付狀況は左の通りである。

Table with 2 columns: 職事局 社會事業協會 支店 協會支部 業協會 支店. Rows show monthly data from 十一月 to 五月, with columns for 最高 (Maximum) and 最低 (Minimum) amounts.

教化事業團體

△日本キリスト教婦人矯風會弘前支部 △明治三十年十月支部創立。九年度事業概目 禁酒運動は本部と連絡して活動、外少女身賣防止運動等。副役員 支部長 山鹿よし、副支部長 吉安きせ、會計 田澤みゑ、同古田ふみ。

出稼者保護組合

由來出稼漁場主は漁夫雇傭に關し直接又は仲介人を経由して出稼希望者と雇傭契約をなし漁業經營に任じてゐたが、事業の性質上且つ又一時の勞銀收入に依り浪費するもの多くして風紀

社會事業——教化事業團體——出稼者保護組合——婦女身賣防止運動

司法・警察——最近五ヶ年間區裁判所刑事事件新受件數累年比較表——民事訴訟事件金額價額階級調

最近五ヶ年間區裁判所刑事事件新受件數累年比較表

區名	昭和五年					昭和六年					昭和七年					昭和八年					昭和九年				
	總計	其私	略通	計	他訴式常	總計	其私	略通	計	他訴式常	總計	其私	略通	計	他訴式常	總計	其私	略通	計	他訴式常	總計	其私	略通	計	他訴式常
青森
弘前
八戸
青森地方
總計

民事訴訟事件金額價額階級調 (昭和九年度)

金額階級	件數	金額
千圓以下
千五百圓以下
五千圓以下
一萬圓以下
五萬圓以下
十萬圓以下
五十萬圓以下
百圓以下
百圓以上
總計

民事訴訟事件種類別表 (昭和九年度)

種類	件數	金額
人事
土地
建物
船舶
金銭
米穀
物品
證券
雜事
總計

民事訴訟事件種類別表 (昭和九年度)

種類	件數	金額
人事
土地
建物
船舶
金銭
米穀
物品
證券
雜事
總計

司法・警察——民事訴訟事件種類別表——金錢債務臨時調停事件調

金銭債務臨時調停事件調 自九年十月 至九年十二月 (備考 受理ニハ舊受ヲ含マズ 受理債務額ト既済債務) (額ト符合セザルハ申立後手續費用等ノ請求アルニヨル)

Table with columns for region (青森, 五所, 川所, 弘前, 八戸, 計), year (昭和七年, 昭和八年, 昭和九年), and financial metrics (件数, 申立債務額, 調停成立債務額, 上段以外債務額).

同期間に於て既済となりたる金銭債務臨時調停事件の種別表 (九年一月カラ同年十二月末マデ)

Table with columns for region (青森, 五所, 川所, 弘前, 八戸, 計) and financial metrics (件数, 金額).

Table with columns for category (買代, 形替, 立質, 工給, 送合), amount, and detailed notes regarding legal proceedings and settlements.

青森刑務所

Table with columns for inmate status (受刑者, 労務者, 窃盗), age, and sentence details (刑期, 執行方法, 備考).

司法・警察——本縣犯罪

警察概況

時代の進展に伴ひ諸種の犯罪が複雑となり又犯行が巧妙を極め一般犯罪に比し智能犯が多くなつてゐる。懸案の縣下公娼廢止も昭和九年末を以て斷行され本縣から公娼の文字が消え全國にも一大センセイションを捲き起した。交通事故防止には各團體協力して努めてゐるが依然として増加の傾向にある。

本縣犯罪 (昭和九年中)

Table of crime statistics for the county in 1934, categorized by type of crime (e.g., murder, theft, assault) and time period (previous year vs. current year).

本縣の事故

交通事故 (昭和九年度)

Table of traffic accidents in the county for 1934, detailing deaths and injuries by location (e.g., road, railway, river) and vehicle type.

警察別犯罪

發生檢舉件數 (昭和九年中)

Table of crime statistics by police station, listing various offenses and their counts.

Table of crime statistics by police station, including a column for the ratio of detected cases to total cases.

司法・警察——警察別犯罪——本縣の事故

自殺者調 (月別及所爲) (昭和九年)

原 因 別	一月		二月		三月		四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		十一月		十二月		計
	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	
縫	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入水	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
刃物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銃又ハ火薬類ニテ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
斷崖其他ノ高所ヨリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火中ニ投ジテ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
毒物又ハ劇薬ヲ服シテ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電氣ニ觸レテ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽車ニ觸レテ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電車ニ觸レテ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
台計	4	3	3	3	5	8	3	8	6	2	2	2	2	8	7	3	4	2	5	2	9	3	2	4	2

災害其他事故による死傷者事故別調 (昭和九年中、縣消防課調)

種 別	死亡		負傷		合計
	男	女	男	女	
難船	3	0	0	0	3
火災	2	2	1	0	5
落雷	2	0	0	0	2
火薬爆發	1	0	0	0	1
積雪に壓せられ	1	0	0	0	1
又石崩壊	1	0	0	0	1
土崩壊	1	0	0	0	1
樹木顛倒又は潰屋	1	0	0	0	1
馬車	0	0	0	0	0
運搬車等	0	0	0	0	0
機械	0	0	0	0	0
ベトルト	0	0	0	0	0
物体の倒壊	0	0	0	0	0
又は壓せられ	0	0	0	0	0
墜落	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0
汽 車	1	0	0	0	1
計	18	9	17	11	38

種 別	死亡		負傷		合計
	男	女	男	女	
自動車	1	0	0	0	1
特種自動車	0	0	0	0	0
自轉車	0	0	0	0	0
荷馬車	0	0	0	0	0
其他の諸車	0	0	0	0	0
航空機	0	0	0	0	0
感電	0	0	0	0	0
銃	0	0	0	0	0
水泳	0	0	0	0	0
河、池、沼、井、溝	0	0	0	0	0
等、海、池、沼、井、溝	0	0	0	0	0
便池又は肥料溜に落ちて	0	0	0	0	0
斷崖、屋上、其他	0	0	0	0	0
高所から墜ちて	0	0	0	0	0
物体の落下	0	0	0	0	0
下敷となり	0	0	0	0	0
藥物誤用又は過飲して	0	0	0	0	0
中 毒	0	0	0	0	0
乳房又は衣類等で鼻口を壓して	0	0	0	0	0
火 傷	0	0	0	0	0
飢 餓	0	0	0	0	0
其他	0	0	0	0	0
不詳	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	1
總計	19	9	17	11	38

司法・警察——本縣の事故——消防組一覽表

原因	既往十ヶ年間火災原因調												合計
	大正14	昭和2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
火	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
燈
...

消防組一覽表

(昭和十年四月十五日現在)
 ◇數字は部數を示す、但し括弧内は組員數、名は組頭

火災損害年各署別表	署	火災損害年各署別表	署
昭和五年	別	昭和五年	別
同 六年	別	同 六年	別
同 七年	別	同 七年	別
同 八年	別	同 八年	別
同 九年	別	同 九年	別

司法・警察——本縣の事故——消防組一覽表

自十月二十一日
至十一月三十日

自三月一日
至六月三十日

自七月一日
至八月三十一日

自八月三十一日
至十月三十一日

自十月三十一日
至十一月三十一日

自十一月三十一日
至一月三十一日

自一月三十一日
至二月三十一日

自二月三十一日
至三月三十一日

自三月三十一日
至四月三十一日

自四月三十一日
至五月三十一日

自五月三十一日
至六月三十一日

自六月三十一日
至七月三十一日

鮎
公魚(河川及湖沼に限る)
自七月一日
至八月三十一日

帆立介
自八月三十一日
至十月三十一日

北寄貝
自十月三十一日
至十一月三十一日

海鼠(沖海鼠を除く)
自十一月三十一日
至一月三十一日

赤貝
自一月三十一日
至二月三十一日

鮫貝
自二月三十一日
至三月三十一日

自三月三十一日
至四月三十一日

自四月三十一日
至五月三十一日

自五月三十一日
至六月三十一日

自六月三十一日
至七月三十一日

女給服裝統一さる

酌婦、女給等の最も苦しむのは衣類の購入でこれがため借金が増え一方で殊にも女給は斯る事情から風俗を亂す様な行為に及ぶことがあるところから青森

不況の影響を蒙った本縣貸座敷業者間にはその打開策として貸座敷を廃止し料理店へ轉業しようとの論が擡頭し、弘前、黒石、石地方の業者は昭和九年五月頃縣當局へ轉業許可を陳情して居るが縣としても問題が重大であるだけに容易に許可を與へずには必然的な時代の流れとなつたので九年十月二十日弘前が縣下公娼廃止の口火を切つて料理店に看板を塗り替へて廢娼斷行の刺戟を與へ、これに續いて黒石、青森縣下の貸座敷業者が全部轉業し全國の公娼廢止運動に一大センセイションを與へた、これによつて娼妓から酌婦に轉じた

共産主義運動や極端な右翼運動に携つて檢擧され轉向を誓つて再び社會へ出て來た者も少なくないが、當眼の社會は正しく生かされようとする者を憐れませるが、當

局者や關係官廳、團體で之がめらるる先づきの皇國精神の發揚に努むるべきである。皇國精神の發揚に努むるべきである。皇國精神の發揚に努むるべきである。

皇國精神の發揚に努むるべきである。皇國精神の發揚に努むるべきである。皇國精神の發揚に努むるべきである。

衛生

概況

昭和九年度の青森縣は氣候不順の影響を受けて傳染病殊に腸チフスとチフテリアが多増し、九年年度の終り頃には激増し、その數が前年度の約三倍に及んだ。縣衛生課では凶作對策の一として特に凶作地に對し腸チフスとチフテリアの豫防注射を廣範圍に施行した。

たこともあるので豫防注射の外に醫療機關の乏しさと一般縣民の凶作地に對し廣く行ひ治療上の萬全を期した。冷害、凶作により救療患者が増加したのを縣では醫療救護費を増額すると共に濟生會の援助を得て對策を講じた。

尚昭和九年五月頃青森市に發生した天然痘がその後影を潜めたのは幸ひであつた。

防治療が議會に於て問題となつた。

傳染病患者郡市別表 (昭和九年度)

郡市別	赤痢	腸チフス	チフス	熱猩紅	チフヤ	腦脊膜炎	計
北	1	1	1	1	1	1	6
南	1	1	1	1	1	1	6
中	1	1	1	1	1	1	6
西	1	1	1	1	1	1	6
東	1	1	1	1	1	1	6
八戸市	1	1	1	1	1	1	6
青森市	1	1	1	1	1	1	6
弘前市	1	1	1	1	1	1	6
計	8	8	8	8	8	8	48

種別	赤痢	腸チフス	チフス	熱猩紅	チフヤ	腦脊膜炎	計
接客業者	1	1	1	1	1	1	6
工場従業者	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

検査人員	患者ト決定シタル人員	從業停止人員
100	100	100

傳染病患者月表 (昭和九年度)

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
赤痢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
腸チフス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
チフス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
熱猩紅	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
チフヤ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
腦脊膜炎	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72

トラホーム検査成績表 (昭和九年度)

検査人員	患者ト決定シタル人員	從業停止人員
100	100	100

貸座敷料理店轉業

不況の影響を蒙った本縣貸座敷業者間にはその打開策として貸座敷を廃止し料理店へ轉業しようとの論が擡頭し、弘前、黒石、石地方の業者は昭和九年五月頃縣當局へ轉業許可を陳情して居るが縣としても問題が重大であるだけに容易に許可を與へずには必然的な時代の流れとなつたので九年十月二十日弘前が縣下公娼廃止の口火を切つて料理店に看板を塗り替へて廢娼斷行の刺戟を與へ、これに續いて黒石、青森縣下の貸座敷業者が全部轉業し全國の公娼廢止運動に一大センセイションを與へた、これによつて娼妓から酌婦に轉じた

轉向者の會

共産主義運動や極端な右翼運動に携つて檢擧され轉向を誓つて再び社會へ出て來た者も少なくないが、當眼の社會は正しく生かされようとする者を憐れませるが、當

局者や關係官廳、團體で之がめらるる先づきの皇國精神の發揚に努むるべきである。皇國精神の發揚に努むるべきである。皇國精神の發揚に努むるべきである。

計	女	男
一〇三、二五五	四八、八七一	五四、三八一
九七、七三三	四八、一四一	四八、五九二
四、四三三	二、〇〇六	二、四二七
三、六三八	一、六九〇	一九、九八八
計	女	男
一三〇、六七三	七三、二九六	五六、三七七
一、二九五	六、一七一	六、〇〇一
三、八三九	一、五八八	二、二五〇
五、七七二	一、八八四	三、八八八
二、六	二、〇〇五	五、〇〇一
二、六	二、〇〇五	五、〇〇一

職業別死亡病類別表 (昭和九年度)

其他	計	女	男	計	女	男
衛生	一〇三、二五五	四八、八七一	五四、三八一	一三〇、六七三	七三、二九六	五六、三七七
職業別	九七、七三三	四八、一四一	四八、五九二	一、二九五	六、一七一	六、〇〇一
傳染病	四、四三三	二、〇〇六	二、四二七	三、八三九	一、五八八	二、二五〇
皮膚及筋骨病	三、六三八	一、六九〇	一九、九八八	五、七七二	一、八八四	三、八八八
血器病						
神經及呼吸器病						
消化器病						
泌尿及生殖器病						
外傷性						
中毒病						
原因不詳						
總數	二、六	二、〇〇五	五、〇〇一	二、六	二、〇〇五	五、〇〇一

被服及身の廻品製造業	女	男	計	女	男	計
土木建築業	二	三	五	二	三	五
印刷及寫真術業	二	三	五	二	三	五
其他の工業	六	六	一二	六	六	一二
商	四	三	七	四	三	七
交通	三	三	六	三	三	六
人力車及馬車輓業	九	三	一二	九	三	一二
船舶運輸業	七	六	一三	七	六	一三
同く及自由業	六	七	一三	六	七	一三
現在陸軍及海軍						
教育に關する業						
其他有業者に於ける業						
其他有業者に於ける業						
無職業及職業を告げざる者						
總	四七	五三	一〇〇	四七	五三	一〇〇

乳幼児死亡状況病類別調 (昭和八年度)

疾病	胃腸及下痢疾患	發育不全	感冒性	榮養不良	腦及脚氣	乳兒其他	合計
青森市	一四	五	二〇	九	三	五	五八
郡市	一四	五	二〇	九	三	五	五八
東八戸市	一八	七	二五	一〇	四	二七	八二
西八戸市	一八	七	二五	一〇	四	二七	八二
郡市	一八	七	二五	一〇	四	二七	八二
合計	三二	一二	四五	一九	七	二二	一四〇

衛生

北部保養院—昭和九年度中の行事—收容患者地方別調—縣下理髮業及療術行爲者

六月二十七日建設費四百餘圓を投じて御歌碑を建設した、又九月八月開會の聯合道縣豫算協議會に於て定員四百八十名のところ昭和十年度から二十名の増員を可決した。

財団法人瀨防協會に於て北部保養院敷地内に工費一萬五千八百餘圓を投じて、百五十六坪餘の木造平家の來患兒童保育所を建設し昭和十年度から約五十名收容の見込みで開所し、目下五名を收容保育中である。

- 昭和九年度中の行事
四月一日 創立記念日
五月十二日 職員慰安會
五月十七日—十八日 患者觀禮會
五月二十一日 納骨塔建設記念祭及解剖祭
五月二十四日 患者慰安演藝會
六月六日 鎮座祭
六月二十七日 皇太后陛下御誕生記念式
七月十四日 佛像安置入佛記念式
七月三十一日 火災記念消防演習
八月三十一日 創立二十五周年記念式及御歌碑除幕式
九月十日 甲斐建設記念祭
十月一日 外島保養院委託患者に對する御下賜金傳達式
十一月十日 第四回御下賜金拜受記念式
十一月十一—十二日 患者秋季演藝會

收容患者地方別調

Table with columns for birthplace (e.g., 本籍地, 北海道, 青森) and patient counts for males and females.

縣下理髮業及療術行爲者衛生設備一齊取締の状況

縣衛生課では毎年縣下理髮業及療術行爲者に對しその衛生設備の一齊取締りを行つてゐるが、昭和九年度は十月四月十五日縣下一齊取締りを行つたところ違反者の数は以外に多く注

皇太后宮中條院長に賜謁

皇太后陛下には、内務省に於て開催中の、全國官公立癩療養所長會議に出席中の十療養所長に對し、十一月十八日拜謁を仰せ付けられ、所長等に對し種々患者の生活状況、其他につ

て御下問や御仁慈の御言葉を賜はつたが青森市外新城の中條北部保養院長も其の一人で、歸縣左の如く語つた。

私は十四日東京所長會議に出席し、十八日午前十一時三十分大宮御所に於て、皇太后陛下に拜謁を仰付けられました。この御禮申し上げ、更に昨年院内に御歌碑を建立させて頂きましたこと、及び冷害のため東北地方一般の社會が非常に苦しんでゐるのに、院の方は其苦しみなをなめることなく、偏に思召の深きによるもので、偏これらも厚く御禮申し上げました。處、陛下には昨年外島療養所(大阪府)が風水害の厄に遭ひ同所の患者を私の方で五十名預りましたので、其患者と他の患者との折合はどうかとの御下問がありましたので、夫れは豫め私達も心配して居りました。折合は、双方とも非常に早く折合つてゐる旨を申し上げました。折合は、双方とも非常に早く折合つてゐる旨を申し上げました。折合は、双方とも非常に早く折合つてゐる旨を申し上げました。

下賜金による本縣醫療救護

下賜金による本縣の醫療救護により、貧困者は大いに助けられてゐるが昭和九年四月から同年三月まで救護取扱状況は左の通りで患者數合計外來一、九九六名、往診五六八名、入院七九〇名、計一、三、三五四名である。

委託診療

醫師があつても交通機關の關係で診療を受けるに不便なる町村或は全然醫師のない町村に對し附近町村の開業醫師並公私立病院に協定藥料金を以て診療を委託するもので、昭和九年度に於て要救療者に對し發券した醫療券の交付數は入院券二、六六枚、手術券七〇二枚、往診券一、三九五枚、外來券六、九二枚、計一、一、〇〇〇枚、往診五、九、入院七九〇、計四、二、二、九、本縣下に於て醫師の居住なく交通不便の町村を選定し一ヶ月一回、醫師、看護婦、事務員各一名を以て組織する醫療班が巡回

救療者年令別表

Table showing the number of patients by age group (e.g., 一—五年, 六—十, 十一—十五, etc.) for males and females.

衛生—下賜金による本縣醫療救護

衛生—下賜金救療以外の本縣醫療救護—組合病院

下賜金救療以外の本縣醫療救護

交通機關の不便、その他の關係で下賜金による救療の恩典に浴することの出来ない貧困者が

△公共團體に依る救療

Table with columns for '區分團體名', '救療人員', '延人員', '患者一人', '平均治療費', '同一人一日'. Rows include '市町村の施設', '赤十字社支部施設', 'ラヂオ放送協會', '市町村の施設', '赤十字社支部施設', 'ラヂオ放送協會', '合計'.

△恩賜財團濟生會に依る救療

Table with columns for '區分人員', '延人員', '患者一人', '平均治療費', '同一人一日'. Rows include '區分人員', '延人員', '患者一人', '平均治療費', '同一人一日', '合計'.

縣衛生協會の事業

本縣衛生協會では昭和九年年度の新しい事業として九年十二月下旬から豫防注射の代りに一般から大いに喜ばれてゐる「内服ワクチン」と花柳病豫防薬「鈴蘭クリム」を縣下各警察署を通じて或は直接に一般へ配布した

△内服ワクチン

Table with columns for '配布別', '配布量', '價格'. Rows list various districts like '三本木署', '八戸署', '青森署', etc.

健康相談所

Table with columns for '個', '五', '大', '野', '金'. Rows list '五所川原署', '大黒地署', '野邊地署', '金木署'.

縣衛生課では昭和九年年末來放送協會納付金による結核豫防施設として縣下二ヶ所に健康相談所を設立し、この豫防施設を樹てゐるが、此の豫防施設を放送協會の納付金である縣下

組合病院

Table with columns for '組合病院', '診察所', '職員口數', '役員口數', '組合員口數', '出資金'. Rows include '津輕病院(弘前市土手町)', '東青病院(青森市寺町)', '西北病院(五所川原町)', etc.

赤十字社でトラホーム撲滅計畫

縣が日本赤十字青森支部と協力して日本一の名をとつてゐる本縣トラホーム撲滅策を講じて

組合病院

Table with columns for '組合病院', '診察所', '職員口數', '役員口數', '組合員口數', '出資金'. Rows include '三城病院(八戸市山伏小路)', '柏葉病院(七戸町)', '北奥病院(野邊地町)', etc.

土木建築

縣土木建築界概観

昨年の凶作救済の爲縣下各地に土木事業が施行されたので土木界は依然として活氣を示し地方民を潤はしたが、冷害のみならず繼續事業としても青森築港、岩木川改修、青森淺邊間、弘前藤崎間の國道改修等の國營事業を初め縣營では八戸商港、鯉ヶ澤漁港、深浦小漁港、淺瀬石川改修が愈々本格的となつて來たし一方山田川、大穴、七戸川の改修が大體完了したとは云へし更に十川の改修が十年度から五十八萬圓で着工される等益々多忙を極めて居る、又建築界は特に目立つた進展振りはないが市街地に於ける官公衙、銀行會社等は日一日と近代様式に形態を變へつゝあり構造と云ひ美

觀と云ひ極めて近代的なものがあつた、又關西風水害の被害に鑑み學校建築に當つては特に堅固たるべしと云ふ通牒に接して居るので、今後の建築に當つては總てこの點參酌されることにならざるを得ない、尙農村に於ける建築物は從來は採光或は通風等全然顧みられず甚だしきは住宅と厩舎との區別さへつかぬ不衛生的なものが多かつたが、最近農村も大いに自覺してか漸次建築は採光通風等衛生的見地が相當考慮され明るい氣分を味ふといふ氣運に向いて居ることは大いに喜ばしいことである。

凶作救済土木事業

昭和九年の冷害救済の爲内務省では土木工事を施行することとなり九年度に於て九十二萬八千八百四十七圓(内譯縣工事道路改修費二十九萬四千圓、同河川港灣改修費七萬二千圓、町村事業費町村土木費五十二萬九千七百圓、同指導費三萬三千七百四十七圓)を割當てたが此の中國庫補助は縣工事三分の一、町村事業四分の三で總額五十三萬一千五百圓であつた、尙該救済事業に依つて努力費は約五十五萬七千三百圓と見込まれ罹災地をうるほしたと甚大である、更に昭和十年度には縣工事道路改修費六十四萬二千圓、同河川港灣工事費十五萬圓、市町村土木費四十二萬二千圓、同指導費二萬五千八百圓、合計百二十三萬八千圓割當られ國庫補助五十九萬八千五百圓交付された(事業費の町村別割當は凶作小誌參照)

救済土木 冷害救済の爲に一般土木費の外耕地課關係を主に林道開設、牧野改良、幼駒育成、船溜等の工事が執行されたがその中耕地課關係に於ては九年度には八十三萬五千八百十二圓(國庫補助

千八百四十七圓)内譯縣工事道路改修費二十九萬四千圓、同河川港灣改修費七萬二千圓、町村事業費町村土木費五十二萬九千七百圓、同指導費三萬三千七百四十七圓)を割當てたが此の中國庫補助は縣工事三分の一、町村事業四分の三で總額五十三萬一千五百圓であつた、尙該救済事業に依つて努力費は約五十五萬七千三百圓と見込まれ罹災地をうるほしたと甚大である、更に昭和十年度には縣工事道路改修費六十四萬二千圓、同河川港灣工事費十五萬圓、市町村土木費四十二萬二千圓、同指導費二萬五千八百圓、合計百二十三萬八千圓割當られ國庫補助五十九萬八千五百圓交付された(事業費の町村別割當は凶作小誌參照)

昭和十年度土木費出所配付額

昭和十年度の道路、橋梁の修繕費、並に維持費は財源窮迫と云ふ關係から前年度の約半分に減額された、何せ十年は降雪量が少く融雪が早く且つ昨年は降雪が遅れた爲、車馬の直接路面を多用した日数は例年より極めて多く従つて道路の破損も例年に比し多かつたがこれが修繕費は却て減額されると云ふみぢめである、土木出張所別配付豫算は左の通り

昭和十年度土木費豫算配付額調

青森	經		常		部		臨時部	
	普通	特別	普通	特別	普通	特別	普通	特別
13,000	800	1,100	650	300	300	1,000	500	500
修繕費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
普通道路	普通道路	普通道路	普通道路	普通道路	普通道路	普通道路	普通道路	普通道路
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
特別道路	特別道路	特別道路	特別道路	特別道路	特別道路	特別道路	特別道路	特別道路
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
普通橋梁	普通橋梁	普通橋梁	普通橋梁	普通橋梁	普通橋梁	普通橋梁	普通橋梁	普通橋梁
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
特別橋梁	特別橋梁	特別橋梁	特別橋梁	特別橋梁	特別橋梁	特別橋梁	特別橋梁	特別橋梁
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
河川	河川	河川	河川	河川	河川	河川	河川	河川
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
堤防	堤防	堤防	堤防	堤防	堤防	堤防	堤防	堤防
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
港	港	港	港	港	港	港	港	港
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
砂防	砂防	砂防	砂防	砂防	砂防	砂防	砂防	砂防
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
管理	管理	管理	管理	管理	管理	管理	管理	管理
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
防共	防共	防共	防共	防共	防共	防共	防共	防共
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
橋梁	橋梁	橋梁	橋梁	橋梁	橋梁	橋梁	橋梁	橋梁
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
架換	架換	架換	架換	架換	架換	架換	架換	架換
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
架換	架換	架換	架換	架換	架換	架換	架換	架換
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

九年度災害土木

昭和九年度の災害は九月二十一日の暴風雨で縣下各地に被害あり縣土木課で調査の結果七百十八ヶ所百八十八萬八千二百圓の巨額に上つた、而して同年十月五日内務省から査定官が來縣現場に就て査定の結果約四割査定され、五百二十七ヶ所百八十九萬七千九百圓に決定した、それで

同年の通常縣會に於て追加豫算として提案したが財源は六十七萬三千六百圓は國庫補助殘額は縣債であつた、然し九年度内には降雪の關係やらで殆んど復舊である。

工事に着工出来なかつたので大部分は十年度へ繰越し十年度の事業として着工した、各土木出張所別の災害の内譯は左の通りである。

出張所名	道		橋		梁		河		川		港		灣		合	
	箇所數	金額	箇所數	金額	箇所數	金額	箇所數	金額	箇所數	金額	箇所數	金額	箇所數	金額	箇所數	金額
青森	20	3,100	2	26,422	3	48,753	2	1,666	6	8,000	1	3,469	1	1,089	13	59,271
弘前	3	5,066	1	14,288	1	24,853	1	4,000	1	3,469	1	3,469	1	3,469	6	35,933
黒石	1	3,970	1	15,633	1	73,844	1	1,000	1	1,000	1	1,000	1	1,000	4	14,069
五所川原	1	1,696	1	20,361	1	21,516	1	1,000	1	1,000	1	1,000	1	1,000	4	11,148
三本木	3	7,263	3	22,561	3	73,844	3	1,000	3	1,000	3	1,000	3	1,000	9	33,933
八戸	2	1,696	2	6,172	2	14,635	2	1,000	2	1,000	2	1,000	2	1,000	6	14,069
計	17	21,010	11	104,143	14	248,853	11	10,000	14	14,069	7	14,069	7	14,069	52	409,271

青森都市計畫

青森都市計畫區域内の地域並に街路網に對する内務大臣の諮問案の答申を決定すべく昭和十年三月三十日縣會議事堂に於て都市計畫青森地方委員會を開會

土木建築—九年度災害土木—青森都市計畫

し夫々答申案を決定した。△地域 國道以外の舊市内は現在商業者の集團地で將來も商店街を形成し發展の傾向があるのので此處を商業地域とし堤川河口東方浪打の一部青森沿岸の地及び青森

此の地域の面積及び比率は左の通りである。

四〇九

△街路網
東西に三幹線、南北に五幹線を設け、それに地勢、交通、地域の状態を考慮し補助路線を配置し全部で十五路線延長約六十キロメートルを第一次の街路網と決定し市街地建築物法の運用及び土地區劃整理の施行に備へた

沖浦堰堤改修に伴ふ土木課電氣局の對立

淺瀬石川改修の沖浦堰堤築設に伴ひ電氣局の一の渡發電所は水中に没することになるので、電氣局では同堰堤築設に反對を唱へ來つたが種々折衝の結果一の渡發電所の周囲を高さ五十尺の長さ八十二間の半圓形の堰堤で圍む事、而してこれが工事費は電氣局で負擔することに双方の妥協が成立した所此の設計には電氣局も賛意を表しなかつたが、電氣局の設計を變更し一の渡發電所を移轉せしむるとした。然るに移轉には約三十萬圓を要するばかりではなく、移轉に依つて發電能力が減るので電氣局がこれに不賛成し電氣局長も兼務して居る安井内務部長もこれに對し英斷を與へず問題は益々紛糾する形勢となつた、而して最後の裁斷は知事に一任する

完成又は進行中の大工事

青森港現況
昭和七年年度から總事業費三百五十萬圓十ヶ年繼續事業として着工されたが現在迄（昭和十年三月末）に費された事業費は七十九萬圓、八年度三十七萬圓、計八十五萬圓

堤川漁港改修

は全部竣工の見込である。堤川改修に就ては青森市に期成同盟會が設立され又青森市會にも委員會が設置されてこれが促進を縣へ陳情して居るが、縣でも十一年度から縣營事業として着工すべく設計を作成し農林省の補助事業とすべく本省の諒解に努め實現を期することとなつた、即ち縣の設計の主要は總事業費百三十九萬圓で四ヶ年繼續事業として施行するもので折半し財源とする、而して主たる事業は外港、内港の工事である、外港は三十九萬圓で相馬町沖合に延長七百二十米の北防波堤を築設し港内被覆面積を十萬六千六百平方メートルに、内港には六十一萬九千圓を投じ導水堤百六十米（西防波堤をも兼ね）船入潤突堤百米、東突堤六十米を築設し船入潤水面積を一萬九千四百平方メートルとする、その他護岸百五十米、荷揚場壁一千八百米をつくる、尚濠面積は十四萬三千七百平方メートル、埋立面積は九萬五千九百平方メートルとなつて居る。

岩木川改修
岩木川改修工事は總體的に見て八割の完成で残業は地方關係の用水路だけと言つて差支ない

土木建築——完成又は進行中の大工事

小泊港は總事業費十萬圓を以て昭和九年七月五日着工されたが工事内容は防波堤六十三米、荷揚場八十米、船揚場八十米、突堤二十米、防砂堤三十五米その他港内濠（三萬七千圓）で濠を除く他の工事は全部縣直營で着工した、而して五月初旬に於ける進捗状況は突堤、防砂堤胸壁は完成し防波堤は七十パーセント、荷揚場四十五パーセント、船揚場三十一パーセントの竣功を見、濠は干潮面から一米半乃至二米行ふものであるがこれらも三十五パーセント方進行して居る、尙同工程とも八月中に

山田川改修工事
山田川改修は昭和二年以來、總事業費五十四萬一千四百七十

圓で事業費から見れば二十五%の進捗振りだが七、八兩年度は機械器具の購入等所謂準備工事で本格的工事に着手したのは九年度からだつたので全工程の約二十%ばかりより進捗して居る、即ち現在迄の工事は舊北防波堤に接續し三萬五千平方メートルの埋立を終り護岸百六十五米に長さ五米乃至九米のラルゼン鋼矢板を打ちつけその中上部工五米のコンクリート工事を完了した、その他北防波堤百八十二米の捨石を全部終了して居る、而して十年度の事業費は三十八萬圓で工事豫定としては埋立護岸の鋼矢板の打ちつけを全部終了して上部工を繼續し、且つ西防波堤（三百六十四米）の捨石を七米五の大きさ）五個乃至六個を製作し捨石を終了した北防波堤に沈下せしむる豫定である、堤に沈下せしむる第一、第二及び目下埋立地には第一、第二及び機械工場を設置し、作業を開始し築港及び野内採石場を合して毎日四百人の人夫を役使して居るが少くとも一日六百人の人夫がなければ豫定の工事を進められない状態では愈々本格的となり順調の進捗振りである。

鰯ヶ澤港修築

總事業費八十萬圓で昭和七年九月十四日着工した鰯ヶ澤港修築工事は昭和十四年度で竣工の豫定であるが九年度迄の實施工費は七年度二萬九千二百十圓六

而して十年度割當豫算は十五萬圓の殆んど半減であるがこれに依る工事の豫定は四萬圓で十川の貫通工事に着手する、同河川配されて居る、藻川堰の樋管工事から手を染めその傍ら五所川原堰の調査を進めるものである、次いで十三段突堤工事をする、石材の採取、突堤の築造作業を繼續する、又山田川の濠工事に二萬圓を計上し上流の方から濠を併せて樋管も完成させ、これより山田川關係の工事は大體終了する、更に本線筋（岩木川）神田川下流の工事に二萬五千圓を投じ残りの二萬九千圓は事務所經費と機械工場の修理製作費に充當する豫定である、從つて十年度の豫算十五萬四千圓の中工事費は十二萬五千圓である、此の中努力費として地方民の夫賃となる額は十萬圓を下らぬ勘定で労働者使用延人員は十一萬人の見込である、從つて豫算は前年の半減であるが、勞力費から言へば僅かに三割減である。

七戸川改修
七戸川は昭和七年以來九年度に九十四萬二千六百三十四圓の事業費を投じ豫定の工事の大半を完成したが昭和十年年度には時局匡救事業善後措置費と云ふ名目で五萬七千二百九十八圓の事業費が割當てられたので上北郡浦野館村と同天間林村間の堤防護岸約一千二百六十七米を改修

土木建築——完成又は進行中の大工事

今年中に全工事の竣功を見る
豫定である。

飯詰川改修

飯詰川改修は昭和十年度迄に
總事業費二十七萬圓で完成する
豫定であつたが十年度の事業費
四萬圓を打切られた爲縣では冷
害救済事業として關係各町村へ
四萬圓を割當て着工することと
なつた、工事は護岸改修で八月
中には完成の見込である。

十川改修

多年地方の懸案であつた十川
も愈々十年度から六ヶ年繼續事
業の總事業費五十八萬五千圓で
着工することに決定を見た、同
川に關係する町村は南郡六郷、同
中郷、常盤、女鹿澤、野澤、富
木館、十二里、北郡沿川、七和
小阿彌、梅澤、長橋の十二ヶ町村
で年々の氾濫に依る水害面積は
二千五百餘町歩に互る、而して
改修箇所は南郡中郷村派地内か
ら北郡梅澤村大字中泉地先迄約
二萬米並に同川の支流である
浪岡川を合流點から約四千米改
修するもので流水の疏通を良好
ならしむる爲全川に互り河床の
堀鑿を行ふ外河川の屈曲を整理
し且つこれが附帶事業として沿
岸排水を統制し又は橋梁の補
修並に改修を行ふものである、
而してこれが改修完成に依つて

被害を免がれる耕地は一千九百
四十三町歩、同戸數一千七十六
戸の多きに上りこれに依る増収
見込は十五萬二千餘圓その他水
害損失を除去出来る額等合して
年々二十三萬一千二百四十八圓
の恩恵を受ける、尙事業費五十
八萬五千圓の財源は國庫補助金
二十九萬二千五百圓、寄附金(地
元負擔)十四萬六千二百五十圓、
縣債十四萬六千二百五十圓、一
般歳入五十圓となつて居る、而
して初年度の事業費は八萬五千
圓、(國庫補助四萬二千五百圓、
寄附金二萬一千二百五十圓、縣
債二萬一千二百圓、一般歳入五
十圓)で十一年度から十五年度
迄は年々事業費は十萬圓(國庫補
助五萬圓、寄附金二萬五千圓、縣
債五萬圓)宛である。

淺瀬石川改修

淺瀬石川改修は總事業費百六
十五萬圓で昭和八年から着工し
初年度は十五萬圓、九年度は三
十五萬圓、十年度は割當てられたが
初年度は本川の屈曲を整理し又
九年度の事業の中九萬圓で本川
の改修を行つたが同改修の本格
的工事である沖浦堰堤の築設は
地元水利組合並に電氣局の負擔
額が決定しないのみか通信省か
ら電氣局に對する工事施行認可
が來ないので殆んど着工して居

駒込川改修

駒込川改修は九年度に十六萬
圓割當てられたので、第二期工
事として繼續施行することとな
つたが同工事の施行認可は同年
十二月に至り漸く指令が發せら
れたので年度内の工事は僅かに
二十パーセントより進捗しな
かつた、それで大半は十年度の繰
越事業として着工することとな
つたが同事業は主として嘉瀬子
澤から小金澤に至る約八百間の

隧道開鑿である、而して昭和十
年度には第三期計畫として十四
萬圓割當てられたのでそれに依
つて濱館村部内小金澤に六萬四
千立坪の貯水が出来る溜池を築
設するもので十年度には兩年度
工事を併行し行ふものでこれが
竣工に依つて駒込川用排水改良
工事も完成するものである、尙
十年度工事は指令が遅れば十
一年度へ一部繰越されることに
なるかも知れない。

大穴貯水池改修

大穴貯水池の増築工事は昭和
八年度から着工したが八年度の
八年度期間少く豫定工事の大部分
は九年度に繰越し九年度の既定
事業と共に進捗をはかつて居た
然るに九年度の消化數量過大な
るに加へ天候不順で土採等は頗
る困難を極めたので堤塘工事は
年度内に完了したが波返石垣工
余水吐護岸、護床等のコンクリ
ト使用工事は總て十年度へ繰
越された、然し繰越された之等
の工事も大體八、九月頃迄には
完了する筈である、而して全工
程の竣工を見ないが昭和十年春
には全貯水量の約八十パーセン
ト即ち十二萬立坪の貯水が充分
なので四月中旬から貯水を開始
し使用した。

昭和更生部落

昭和八年十月から總費用十三
萬二千六百十圓(國庫助成三萬
四千二百八圓、寄附金一萬九千
七百十圓、一般歳入一萬一千九
十二圓、縣債二萬圓)土地賣却代
金四萬七千六百圓)縣直營事業
として着手した昭和更生部落は
昭和九年一月移住者四十戸を選
定し開墾を開始した、而して現
在一反當の反別は宅地二反歩、
水田五反歩、その他畑、桑畑、果
樹園、採草地等三町二反歩であ
る、兎も角多知事の置土産と農
家經濟の更生の示範たらしむる
目的を以て創設したもので、
部落民は一致協同經營に當つて
居る、尙同部落建設豫算の内譯
は左の通りである。

青岩橋架替

青岩橋の架替工事は昭和九年
九月十六日總工費十六萬八千圓
(三分の一は青森縣負擔)で着工
したが昭和十年一月で基礎工事
を完了その後上部工(桁)の工事
を急いで居る、順調に進捗すれ
ば六月中には竣功の豫定である
設計の内容は鋼板桁橋式で長さ
百八十九米、幅員六米である、
此の工事に依つて岩手縣側道路
約三百米は三米、青森縣側道路
は約二米半切下げを行つて居る
尙三月末迄に使用した人夫の延
人員は男女合計三萬一千七百九
十九人此の賃銀は二萬三千四百
二十圓七十九錢となつて居る。

市町村に於ける主要土木建築工事

- △青森縣本屋改築 四三、一〇〇
- △ガソリン車停留所新設 〇、八六一
- △乙供、千曳間曲線改良 一八、九八三
- △鶴田、五所川原間十川橋梁新設 四〇、八三三
- △右の外秋田建設事務所管内で
はあるが追良瀬深浦間建設工事
費は百四十八萬二千圓なのでそ
れも加へれば縣内に於ける工事
- △青森縣、工費四萬三千百圓、或
文組請負、昭和九年十一月着工
同十年四月竣工。
- △林兼冷蔵庫、工費數萬圓、十
年四月着工、十月竣工見込。
- △省管バス車庫、工費二五、四
五六圓、昭和九年八月着工、十一
- △青森縣、工費五萬圓、七五五間、
工費五萬圓、昭和九年九月起工
同年十二月二十六日竣工。
- △舊線路大坂町其他の鋪裝、一
八五七間、面積一萬一千七百十
九坪、工費五萬圓、昭和九年九
月着工、同年十月三十日竣工。
- △勸業銀行支店、工費十一萬四
百圓、東京戸田組請負で昭和八
年十二月着工、同十年五月竣工。
△森永製菓工場、工費六萬圓、
昭和九年四月着工、同十月竣工。
- △太陽生命支社、工費八萬圓、
清水組請負、昭和十年四月着工
同年十月竣工豫定、總建坪百三
十坪の鐵筋コンクリート建。
- △青森電話分室、工費二十四萬
三千圓、竹田組請負、昭和九年十
一月着工、同十年十一月末竣工
豫定。

土木建築——完成又は進行中の大工事——市町村に於ける主要土木建築工事

土木建築——市町村に於ける主要土木建築工事

月竣工。
△鐵興社青森工場、十間に三十間、六間半に三十間の工場二棟、それに五間に十間の事務所を昭和十年三月着工、同五月竣工、工費一萬五、六千圓。
△古川小學校増築工事、工費九千七百圓、起工昭和九年九月十二日、竣工十二月廿日。
△沖館小學校増築工事、工費一萬五千四百四十圓、起工昭和九年九月五日竣工十二月廿日。
△沖館及相馬町河岸通線道路改良工事、事業費一萬圓、着工九年十一月九日、竣工十年三月廿一日。

弘前市

△南横町線外七線舗装工事、起工九年九月五日、竣工十年三月一日、工費五、三〇〇圓。
△鍛冶町線外五線舗装工事、起工九年十一月一日、工費二、九〇〇圓。
△下白銀町大浦町上白銀町本町の道路舗装工事、起工九年八月二十五日、竣工九年十月二十日、工費九千二百二十圓。
△笹森町線外二十一ヶ所、排水工事、起工九年十二月一日、工費四、五三九圓。
△五十石町線外二線排水工事、起工九年九月五日、竣工九年十一月三十日、工費三、六五〇圓。
△和徳小學校増築工事、起工九年三月、竣工十年四月、工費一、四〇〇圓。
△朝陽小學校改築工事、起工九年十月、竣工十年七月の見込、工費一、五二〇圓。
△弘前病院改築工事、起工九年九月、竣工十年五月の見込、工費九、〇〇〇圓。
△玉成小學校増築工事、起工十年三月上旬、竣工十年七月十五日の見込、工費三、〇〇〇圓。
△品川町佐藤義祿住宅醫院新築竣工九年六月。
△元寺町高谷正二住宅新築、竣工十年四月。
△百石町阿保龜之助醫院住宅新築、竣工六月。
△中土手町九四葛西徹雄住宅店舗新築、竣工九年八月。
△上土手町松木明醫院改築、竣工九年。
△紺屋町松岡金一住宅新築、竣工九年八月。
△松森町藤田久次郎土蔵新築、竣工九年九月。
△岩木川(藤代村大字町内)、起工、九年五月、竣工九年九月、工費五、五六〇圓。
△国道五號線(碓ヶ關村大字久吉地内)常岡橋々梁復舊工事、起工九年九月、工費七、六〇〇圓。
△弘前市富田中郡堀越村大字取

弘前土木出張所關係

△岩木川(藤代村大字町内)、起工、九年五月、竣工九年九月、工費五、五六〇圓。
△国道五號線(碓ヶ關村大字久吉地内)常岡橋々梁復舊工事、起工九年九月、工費七、六〇〇圓。
△弘前市富田中郡堀越村大字取

四一四

上地内道路改良工事、起工九年七月、竣工九年十月、工費一〇、六六一圓。
△弘前市茂森町(茂森新町川原平弘前線)道路改良工事、起工九年七月、竣工九年十二月、工費七、六〇八圓。
△弘前市新寺町樹木町(弘前久渡寺線)道路改良工事、起工九年七月、竣工十年三月、工費一、一六八圓。
△弘前市龜甲町紺屋町濱ノ町(弘前、鯉ヶ澤線)道路改良工事、起工九年七月、竣工九年十一月、工費一、七九五圓。
△弘前市馬屋町(岩木弘前線)道路改良工事、起工九年七月、竣工九年十月、工費五、一九二圓。
△中郡大浦村大字賀田(岩木弘前間)道路改良工事、起工九年十月、竣工九年十二月、工費五、〇〇〇圓。
△八戸市
△小中野町道路改良、工費五、三九二圓、九年十月着工、十年三月竣工。
△馬淵川改良工事、工費一、一三三圓、九年九月着工、十年三月竣工。
△漁船曳場、工事一三、〇〇〇圓、九年十二月着工進行中。
△市立結核療養所新築、工費一、八六九圓、九年四月着工、九月竣工。
△火葬場新築、三、八四三圓、十年一月着工、四月竣工。
△八戸魚糧會社、工費七〇、〇〇〇圓、昭和八年起工、九年五月竣工。
△八戸病院病舎、工費一、一九〇圓、九年七月着工、十一月竣工。
△藤井與惣治住宅、工費八、四六〇圓、九年四月着工、十年六月竣工。
△村井酒造店支店、工費一、二〇〇圓、九年九月着工、十二月竣工。
△八戸魚市場貯氷庫、工費五〇、〇〇〇圓、八年十二月着工、九年三月竣工。

東郡

△油川町火葬場新築工事、工費一、〇〇〇圓、起工九年六月、竣工同年七月。
△地方振興土木事業(縣道青森、三厩線、乳劑舗装、延長八二〇米)、工費五千七百七十七圓、起工九年八月一日、竣工同九月。
△同(縣道油川、新城線改修、延長四五〇米)、工費四、二二〇圓。
△冷害救済土木事業(油川町道路改修工事)、工費一、千八百八十

西郡

△地方振興救済土木事業、一、青森—鯉ヶ澤線道路改良、工費一千二百三十三圓。二、鯉ヶ澤—能代線道路改良、工費一千四百八十七圓。
△瀝青乳劑道路舗装工事(延長二一三米)、工費四千圓、起工九年十月、竣工同十二月。
△地方振興林道改設工事、工費一千三百五十圓。
△道路改良工事、工費四千圓。
△冷害救済砂利採取工事、工費二百三十三圓。
△赤石停車場松代線道路改良工事、工費五千八百七十七圓、起工九年九月、竣工十年三月。
△北金ヶ澤船溜溜、工費二萬七千圓、起工九年七月竣工、十年三月。
△大戸瀨村役場改築、工費七千圓、起工九年五月、竣工同七月。
△地方振興土木事業、工費五千圓。
△冷害救済土木事業、工費三千三百七十六圓。
△時局匡救林道開設土木事業、工費八百圓。
四一五

二圓、起工九年十一月、竣工十年三月。

△小湊小學校増築、工費二、〇〇〇圓。
△地方振興土木工事、工費三千四百圓。
△冷害救済土木工事、工費一萬五千圓。
△郷倉新築、工費一千七百二十八圓。
△奥内小學校増築工事、工費五千四百八圓。
△地方振興土木工事(道路改修)工費三千二百九十圓。
△第一次冷害救済土木工事(牧野費)工費六百圓。
△第二次同、工費二萬圓。
△土木事業(林道開鑿)、工費六百〇圓。
△後湯小學校々舎増築工事、工費三千圓、起工七月、竣工九月。
△八年度地方振興土木事業(縣道青森、三厩線道路改修工事、延長四四〇米、村道六線延長一、五七六米路面擴張工事)工費二千二百五十圓、起工五月、竣工七月。
△九年度冷害救済農業土木事業イ、村農道十二線延長四、一〇〇圓。
△間路面擴張砂利敷工事及溜池工事、起工九年十一月、竣工十年三月。
△縣道改修工事、工費八百圓。
△地方振興土木工事(縣道改修

一本木村

△船溜港修築、工費六千七百圓。
△道路改修工事、工費八百圓。
△地方振興土木工事(縣道改修

野内村

△野内小學校新築、工費一萬七千六百九圓、起工九年九月、竣工同十二月。
△口廣小學校新築、工費七千二百圓、起工九年八月、竣工同十一月。
△清水川小學校増築、工費二千四百六十二圓。
△冷害救済耕地改良工事、工費四、七一四圓。
△同、工費五、〇〇〇圓。
△同土木工事、工費二、七一四圓。

原別村

△野内川改修、諏訪澤字松代地内四百十米、工費二、四七三圓。

土木建築——市町村に於ける主要土木建築工事

十圓、起工九年十二月、竣工十年四月。
△冷害救済耕地擴張改良事業(鹿ノ子堰護岸工事、更生部落農道改良工事)、工費二千二百十圓
起工九年十二月、竣工十年三月
△冷害救済耕地擴張改良事業、(鹿ノ子堰、坂本堰、角左衛門堰、更生部落、貯水池及護岸工事)工費二千四百圓、起工十年三月、目下進行中。

内湯村

△冷害救済事業(農道改良、牧野改良、堤防構築改良)、工費一萬八千四百五十六圓、起工九年十一月、竣工十年一月。

相内村

△地方振興土木事業、工費一千五百圓。
△冷害救済土木事業、工費三千九百七圓。
△學校營繕費、工費八百七十五圓。

上北郡

三本木町
△金ヶ澤三本木道路改良、延長一、七〇〇米、工費七、九三六圓。
△沼崎三本木線道路改良、延長一、五五九米、工費五、七〇三圓。
△土手山線道路外十三線改良、工費一九、〇〇〇圓。

七戸町

△七戸橋架替工事並橋梁道路新設工事、工費一萬二千七百圓。
△農、林道改修工事、工費一萬七千八百七十五圓。
△谷地道開設(前年度續行工事)工費七千四百十八圓。
△河川改修護岸改築、新築工事、工費一萬五千四百五十一圓。
△木橋新設、工費二千三百六十圓。
△貯水池、排水路改修工事、工費三百二十圓。

十和田村

△林道開設工費、一、〇〇〇圓、
△農耕道、工費六、六一〇圓。
△道路改修、工費一三、三二九圓。
△排水及護岸工事、工費二、〇〇〇圓。
△開畑事業、工費二、六〇〇圓。

下田村

△縣道百石、三本木線改修、延長一、六七五米、工費二、三四八圓。
△縣道四和、下田停車場線改修、延長六一〇米、工費一、二〇〇圓。
△縣道四和、下田停車場線改修、延長六一〇米、工費一、二〇〇圓。
△縣道四和、下田停車場改修、延長六一〇米、工費一、二〇〇圓。
△縣道四和、下田停車場改修、延長六一〇米、工費一、二〇〇圓。

大奥村

△村直營地方振興土木事業(港灣)、工費二萬七千圓。
△縣直營地方振興冷害土木事業(道路)、工費八千圓。
△同上(港灣)、工費七千圓。

佐井村

△縣直營冷害救済土木事業(大間—佐井線道路改良工事)、工費五千圓、起工十年三月、竣工同四月。
△道路改良工事、イ、地方振興土木事業、工費四千五百圓、冷害救済土木事業、工費二千四百圓。

三戸郡

五戸町
△地方振興土木工事、工費五千五百圓。
△冷害救済耕地擴張改良工事、工費八千六百三十九圓。
△冷害救済土木工事、工費七千八百十六圓。
△冷害救済林道開設工事、工費一千六百圓。
△護岸工事、工費五千圓。

田子町

△縣道田子字椋部線改修、工費七、〇〇〇圓、九年十月着工、十一月竣工。
△林道青比良線千草場線改修、工費一、〇〇〇圓、九年八月着工。

風間浦村

△地方振興土木事業、イ、港灣改良工事、工費一萬二千九百五十八圓、ロ、道路改良工事、工費六百圓。
△冷害救済土木事業費(道路改良)、工費一千六百十圓。

土木建築——市町村に於ける主要土木建築工事

四一八

△冷害救済農道改修、村内四ヶ所改修、工費四、五五〇圓、九年十二月着工、十年三月竣工。

横濱村

△横濱、泊線縣道改修工事、工費六千六百四十三圓。
△林道開設工事、工費二千六百圓。
△牧野改良(匡救事業)、工費七千四百二十九圓。
△農道改修事業、工費二千七百七十六圓。
△耕地改良工事、工費二千八百三十圓。
△横濱、泊線縣道改修工事、工費二萬三千圓。

天間林村

△白石小學校増築、工費四千七百圓、起工九年七月、竣工同十月。
△(村直營)坪川改修工事、工費一萬一千二百一十一圓、起工九年十一月、竣工十年三月。
△村直營農道四線改修工事、工費一萬二千四百五十六圓、起工九年十一月、竣工十年三月。
△同上林道二線改修工事、工費一千五百圓、起工九年九月、竣工同十二月。

甲地村

△冷害救済土木事業、工費一萬八千六百九十九圓、起工九年十一月、竣工十年三月。

工十月竣工。

倉石村

△谷地中、中崎線農道改修、工費三、七四五圓。
△上田堰水利組合護岸並水路工事、一、〇〇〇圓。

階上村

△八戸、久慈線改修、延長二、一七四米、工費一、八二〇圓、九年九月着工、十一月竣工。
△田代線改修、延長五七八米、工費二、七五五圓、九年九月着工、十一月完成。
△八戸久慈線改修、延長四、六〇〇米、工費六、九九六圓、九年十一月起工、十二月竣工。
△八戸大野線改修、延長四三〇米、工費七三六圓、十一月起工、十二月完成。

是川村

△風張線構築(コンクリート架設)、延長四〇〇米、工費三千四百圓。
△農道十線、總延長四、三〇七圓、工費五千六十六圓。
△林道開設工事(五六〇米)、工費一千六百圓。

館村

△冷害救済農道改修工事十四線、工費八千八百圓。
△同林道改修工事一線、工費一千四百三十九圓。
△同鐵道改修工事(田面木、八幡間)、工費六千八百六十六圓。
△地方振興土木事業、工費二千圓。

上長苗代村

△淺水川河川工事、工費二千圓。
△農道改修工事、工費七千七百五圓。
△小學校舎改築、一萬五千五百圓。
△小學校増築、工費八千八百圓、起工九年五月、竣工同九月。

地引村

△農村振興土木工事、工費四千圓。
△冷害救済土木工事、イ、縣道改修、工費一、二六八圓、ロ、農道改修、工費一、九〇〇圓、ハ、林道改修、工費一、〇〇〇圓。

下長苗代村

△農村振興土木工事、工費四千圓。
△冷害救済土木工事、イ、縣道改修、工費一、二六八圓、ロ、農道改修、工費一、九〇〇圓、ハ、林道改修、工費一、〇〇〇圓。

田名部町

△青森測候所田名部支所新築工事、工費九千六百圓、起工九年九月、竣工同十二月。
△町道東裏通線工事(地方振興土木事業)、工費五千圓、起工九年九月、竣工同十一月。

下北郡

六ヶ所村
△泊港船溜工事、工費六千圓。
△高瀬川改修工事(地方振興土木事業)、工費二萬圓。
△同上(冷害、追加)、工費一萬圓。

三澤村

△岡三澤小學校新築工事工費八千圓。

浦野館村

△冷害救済土木事業、一、牧野改良工事、工費二千四百四十四圓、二、林道開設工事、工費一、九〇〇圓、三、農道改良工事、工費一、九千八百三十三圓、以上起工九年十一月、竣工同十二月、四、用排水改良工事、工費二千圓、起工九年三月、竣工十年三月、五、縣道改良工事、工費一、九百二十五圓、起工九年十一月、竣工十年三月。

田名部町

△青森測候所田名部支所新築工事、工費九千六百圓、起工九年九月、竣工同十二月。
△町道東裏通線工事(地方振興土木事業)、工費五千圓、起工九年九月、竣工同十一月。

下古乙沼千野狩小淺

間邊

田木崎供曳地澤湊虫

Table with 2 columns: 發送 (Sent) and 到着 (Received). Values range from 1,400 to 2,856.

交通通信——管内各驛有貨物發着量及收入表

長小白森本弘尻總△三二一

代野銀木接接接

計岩崎神越岩吉平戶

Table with 2 columns: 發送 (Sent) and 到着 (Received). Values range from 1,151 to 3,997.

交通通信——管内各驛有貨物發着量及收入表

野浦青青大石弘川北浪大津大田近陸有久陸侍陸陸種階種鮫陸湊八青青浦野

輕新

町內場森湊

Table with 2 columns: 發送 (Sent) and 到着 (Received). Values range from 1,151 to 4,872.

交通通信——管内各驛有貨物發着量及收入表

大石弘川北浪大津大田近陸有久陸侍陸陸種階種鮫陸湊八青青浦野

輕新

町內場森湊

Table with 2 columns: 發送 (Sent) and 到着 (Received). Values range from 1,151 to 4,872.

交通通信——管内各驛有貨物發着量及收入表

(青森車掌所取扱各驛員無配置驛及其他直接扱)

下古乙沼千野狩小淺八青浦浪野淺小狩野千乙沼古下

間邊

田木崎供曳地澤湊虫

Table with 2 columns: 發送 (Sent) and 到着 (Received). Values range from 1,151 to 3,997.

交通通信——管内各驛乘降人員及收入

大石弘川北浪大津大田近陸有久陸侍陸陸種階種鮫陸湊八青青浦野

輕新

町內場森湊

Table with 2 columns: 發送 (Sent) and 到着 (Received). Values range from 1,151 to 4,872.

交通通信——管内各驛乘降人員及收入

交通通信——管内各驛乘降人員及收入

四二二

交通通信—私設鐵道—弘南鐵道—津輕鐵道

車と對照する時は北海道對内地... 經濟取引の向上を物語つてゐる... 盈車航送の主なる品名別内譯は次の通りとなつてゐる

Table with columns for '上り航送' and '下り航送' listing various goods like 肥料, 魚, 炭, 薪, etc., and their respective quantities for 9th and 8th fiscal years.

私設鐵道

弘南鐵道

(本社 南郡大光寺村) 九年度の(一月—十二月)成績は乗降人員二十五萬七千三百人、貨物發着應數一萬九千三百

十和田鐵道

(本社 三本木町) 同社は九年三月廿七日を以て拂込未済株金整理の結果全額拂込完了となつた、九年度(九年一月—十二月)の營業成績は

上半期に於て、八年度下半期以來漸進的に好調となり、貨車收入は前期に比し、八百餘圓増收、客車收入は十和田觀光團體等の増加で、下半期は青森、十和田間の省營バスの運轉開始と未曾有の凶作に禍される所大きかつ

たが、八年度下半期よりも成績良好で上、下兩期共年一分の配當を爲した、即ち九年度中の收入内譯は

Table showing financial data for 10th and 20th wards, including '發送收入', '雑収入', and '自動車部'.

發送收入六、六八五圓△到着收入四、〇九〇△請負收入一〇、四四九△雑収入二九七、四一三(前年度一四、〇九四圓)

Table with columns for '旅客運送' and '乗車人員' listing stations like 三本木, 高水, 古里, etc.

津輕鐵道

(本社 五所川原町) 九年中は凶作の影響も若干含まれてゐたが、一般的には旅客、貨物共八年中よりは成績が向上した、即ち九年中は客車收入六萬九千八百圓、貨車收入二萬七千六百圓、運輸雜收三千二百圓、自動車運輸收入百圓、其他收入四百圓、計十萬一千三百圓となつてゐる、只損益計算に於ては繰越借入金を除いては營業收支バランスが充分にとれてゐるもので、結局損益處分に於ては政府補助金が上半期に一萬九千七百圓、下半期に六萬七千七百

Table showing financial data for 21st ward, including '發送收入', '雑収入', and '自動車部'.

る、樺太航路は相當の好成績、函館航路は上半期に於て函館市大火に伴ふ復舊救済貨物が非常な輻輳を來し、青森港は近年にない盛況を呈したが、藁工品、木材、家具等が殊に多く函館大火との關係はないが、藁、雜穀等の移入量も相當なるものがあつた、灣内航路は運賃競争は若干行はれてゐるが、營業費其他で極力合理的運航に努めて居つた、この外魚積取船、罐詰積取船、原船、滿洲特産物船、硫黄積取船、人造肥料積船が臨時船として相當旺盛であつた、又外國貿易は開港以來の活況を呈した(青森港外國貿易を参照)斯くの如き景況にあつて青森港は如何なる動向を辿つてゐるか青森港の第二期築港工事は昭和八年着手して以來更に工事が進捗(土木工事の欄を参照)した事と北鮮航路の實現、青森港に海軍部設置の確實化等、將來の發展への素地が着々築かれてゐる事が感ぜられた、又反面に於ては航送運賃の引下問題で青森港回漕業者の阻止運動の起つた事はさびれ行く對北海道中繼港の價值減退を防止するの現はれであるが、然しこの中に青森港が新開拓地を目指して居

十二圓、計八萬六千八百圓交付されたので繰越欠損は八年末七萬五千圓あつたものが、九年度上半期末七萬三千圓、下半期二萬圓に償却された、又同社では金木、中里間の自動車路線及び金木、五所川原、大釋迦線の路線權利を買収した、尙十年五月下旬には五所川原、津輕飯詰間に一野坪停留場を新設する豫定で所有車輛は機關車三輛、客車二十五輛、ガソリン車二輛、貨車二十五輛、雪掻ボギー車一輛、乗合自動車一輛である。

旅客運送

Table with columns for '乗客' and '降客' listing stations like 五所川原, 津輕飯詰, 下岩崎, etc.

貨物運送

Table with columns for '發送應數' and '到着應數' listing stations like 五所川原, 津輕飯詰, etc.

交通通信—五戸電氣鐵道—田名部運輸軌道—森林鐵道—青森港

五戸電氣鐵道

(本社 五戸町) 同社は鐵道業、自動車業、運送業を兼營してゐるが未だ創業時代の苦難から脱し切れず、上半期末十五萬八千九百九十二圓の繰越欠損があつた、同鐵道の閉業は七驛、所有車輛はガソリン客車四輛、四輪客車二輛、貨車二輛、有蓋貨車二輛、機關車二輛である、尙上半期の政府補助金は一萬九千二百七十四圓である。

田名部運輸軌道

本邦唯一の馬車鐵道として珍

森林鐵道

青森營林局管内青森縣内の森林鐵道延長は幹線十五萬三千五百二十一米、附屬軌道九萬五千二百二十四米、其他の軌道二十七萬五千九百二十六米である。

青森港

昭和八年に於て漸く活氣が蘇つて來た青森港は九年に入つて更に好轉の途を辿り、港灣關係業者は昭和七年迄の數々年間の苦境から完全に足を洗つた形となつた、即ち出入船舶數に於ても實際貨物輸移出量に於ても増加して居り、而も一隻當りの積卸量は前年より遙かに多くなつてゐる傾向を見せ、回漕店として繁忙を一ケ年であつた、これが概況を顧るに、年來の懸案であつた北鮮航路は青森市で寄港補助金を出す事に依つて解決北鮮よりの金鑽石、大豆、豆粕新湯よりの白玉粉、石油、輪竹等が相當の移入量があり、大いに囑目されて居り、大連航路は青森港は臨時寄港地となつて居

つた事を見逃しが出来ないもの... 昭和九年は堅實な歩みを續けたと見てもよいだらう、尙九年中の青森港内國貿易は青森商會議所の調査に依れば貨車航送を除いて移入は五十五萬三千噸、移出二十九萬六千噸で、内務省の昭和七年度調査では青森港は輸出で外國貿易二萬七千噸、内國貨物五十六萬四千噸、輸入では外國貿易十三萬七千噸、内國貨物九十二萬八千噸で、全國港灣中第十三位を占め、新潟港(二十位)よりも上位にあり、東北港灣中第一であるが、然し之には青函貨車航送量も含まれてゐるからこれを除くと恐らく新潟港の下位にあるものと見られる。

青森港外國貿易

昭和九年中の青森港外國貿易は輸出貿易六百三十三萬二千圓、輸入貿易五百三十九萬九千圓、合計一千一百七十三萬二千圓で、昭和八年に比較して輸出百六十四萬四千圓の増加、輸入百三十七萬二千圓の増加、合計で二百七十八萬六千圓の激増で、從來の最高記録たる昭和三年の一千三百十八萬圓を凌駕し、斷然九年貿易は開港以來の新記録となつた、即ち昭和三年以來の貿易額

を示すと左の通りである。

Table showing trade statistics for various goods like 乾魚, 漬物, 林檎, 鮭, 鱈, etc., comparing 昭和九年 and 昭和八年 with columns for quantity and price.

昭和九年青森港貿易

Table showing export trade statistics for goods like 乾魚, 漬物, 林檎, 鮭, 鱈, etc., with columns for quantity and price.

輸入貿易

Table showing import trade statistics for various goods like 蜀黍, 大豆, 花生, 乾落, etc., comparing 昭和九年 and 昭和八年 with columns for quantity and price.

青森港との取引

Table showing trade statistics for various regions like 九州, 關東, 關西, etc., with columns for quantity and price.

關稅收入と噸稅收入

Table showing tax revenue statistics for 關稅收入 and 噸稅收入, including details about ship taxes and other fees.

青森港曳船専用ランチ及艇數

△ランチ 青森郵船合資二隻、田村回漕店一隻、磯野回漕店二隻、船給水所二隻、青森運輸會社一隻、橋本組一隻、國際通運一隻、丸共回漕店一隻、丸は林兼二隻、今村大吉一隻、合計十四隻

交通通信

青森港との取引 關稅收入と噸稅收入

青森港曳船専用ランチ及艇數

主要汽船代理店

△佛蘭西M汽船、川崎汽船、國際汽船(遠洋)、鳥谷汽船、藤山汽船、大同海運、以上磯野回漕店
△英國P・O汽船、英國ブリュスター汽船、山下汽船、國際汽船、大連汽船、日の出汽船、以上青森運輸株式會社
△英國ブリュスター汽船、以上青森運輸株式會社
△三井物産青森出張所
△大阪商船、藤林回漕店
△近海郵船は國際通運青森出張所に併置される近海郵船青森事務所に於て取扱
△北日本汽船は同汽船青森出張所で事務取扱

青森港海運回漕業者幹部

△青森運輸株式會社 社長若井由五郎、常務取締役淡谷平造、磯野回漕店 店主小樽市磯野進、支配人田沼敬三、國際通運青森出張所(近海郵船青森事務所併置)主任宮下次郎、東洋海運株式會社 常務取締役板倉常松、青森郵船會社 社長田中勇三、支配人阿部梅藏、田村回漕店 店主田村善治、支配人津幡實、小倉回漕店 代表者工藤民五郎、東北商船株式會社

船舶給水料金

△清水(養鰯飲料)百噸以上(一回運搬積)一噸に付五十錢、同以上五十噸以上五十五錢、同以上六十錢、同以上七十錢、同以上八十錢、同以上九十錢、同以上一百錢、但し港外及び遠距離碇泊の場合には割増となる。

青森港中心の各定期航路

○灣内航路
十月四日一日よりは東北商船の第五當別丸も加はり、運賃競争は相當激化されてゐる
△下北上磯線
就航船 東北丸(一一九噸)第五當別丸(五十一噸)陸奥丸(一三四噸)東北商船所有船、直接經營、下北行、上磯行共毎日一航海、寄港地は上磯行(青森、後湯、蟹田、二ツ谷、平館、宇

就航船 東山丸(三七〇噸)、第二高運丸(六〇六噸)、金森商船所有船、青森運輸會社取扱、北海道廳命令航路、月三航海、寄港地根室、斜古丹、入里節、具谷、丁寧、年蒔、小田蒔、内保、留別、紗那、別飛、藥取、茂也路、白糠泊、乳呑路

就航船 笠戸丸(二、〇〇〇噸)尾、富山縣灣内、新潟、酒田、土崎、船川、函館、青森、釧路、厚岸、霧多布、根室、月二航海
○北鮮航路
就航船 笠戸丸(二、〇〇〇噸)鳥谷汽船、磯野回漕店取扱、寄港地往航小樽、函館、新潟、伏木、新潟、酒田、船川、青森、函館、小樽、命令航路の授命地は青森市、朝鮮總督府、選信省、新潟市、酒田市、山形縣、秋田縣、船川町、函館市、一ヶ年二十航海

就航船 魁丸(五八噸)、常盤丸(六〇噸)、丸共同漕店所有船、取扱店同上、毎日一航海、寄港地青森、函館
○伏木根室航路
就航船 佐川丸(一、七五〇噸)常盤丸(一、七五〇噸)、鳥谷汽船所有、富山縣、伏木町、七尾町、北海道廳、函館市命令航路、磯野回漕店取扱、寄港地伏木、七

就航船 遷信省命令航路船芝園丸(一、八二九噸)弘前丸(一、五八七噸)、近海郵船所有船、國際通運青森出張所回漕店取扱、寄港地往航函館起點青森、小樽、大泊、眞岡、本斗、復航本斗、眞岡、大泊、小樽以後弘前丸は青森先航、芝園丸は函館先航、四月より十二月迄月六航海、樺太航路は樺太不漁の爲海産物が著増した

の移入扱はず、一般的にも移入貨物は不足であつたが、移出貨物に於ては果實は林檎豊作に依つて激増、其地も農工品は、減退傾向にあつた外何れも好調、乗降船客に於ては乗船千四百五十八人、降船三千二百六十六人で前年より好成績であつた。
○室蘭航路
就航船 遷信省命令航路船、鐵道省線連絡航路、三國丸(九八五噸)、豐原丸(一、四〇〇噸)北日本汽船所有船、同社青森出張所事務取扱、青森郵船合資會社毎日一航海
同航路の昭和九年度の成績(八千五百八十七人)前年度より乗客千二百六十二人増、降船客六百八十八人増となつた
船は八百八十六人増となつたが、貨物取扱量に於ては左の通りで下り貨物は米麥が減少した外、農工品をはじめ全般的に増加、上り貨物では石炭が減少した、魚類、雜穀、燕麥、牧草等が著増した

Table with 2 columns: 上り貨物 (Upward cargo) and 下り貨物 (Downward cargo). Lists various goods like rice, wheat, and other commodities with their respective quantities.

交通通信——青森港中心の各定期航路——海事部設置問題

海事部設置問題

青森市に海事部を設置して貰ひたいと言ふのは數年前より地元の青森市、商工會議所、船舶業者其他から要望されてゐたものであるが、其後八月市にも海事部誘致説が擡頭し、競願の形になつて居つた、然るに選信省では十年度に青森縣に一ヶ所設置する事になり、議會の協賛を經

交通通信

青森市設魚市場問題—青森築港年限短縮と國庫補助増額運動—

十年度中に實現せしめる事になつた、この設置場所は青森市に殆んど確定し、地元には...

青森市設魚市場問題

青森市では税外収入を得る爲中央市場設置の第一歩として...

青森築港年限短縮と國庫補助増額運動

青森港第二期修築工事は工費三百五十萬圓を以て昭和七年度より昭和十六年度に至る十年...

鮮満出荷組合

北鮮定期に對して青森市が寄港補助を爲したのを契機にして...

堤川活用計畫

青森市堤川をもつと活用する必要がある事は夙に識者間に唱へられてゐるが、九年に入つて...

八戸港

八戸港の漁港施設は完成を告げ表日本有数の漁港として認められ、九州、四國其他の他府縣...

八戸港の海運業者

八戸港運輸株式會社(鮫町)佐々木回漕店(湊町)共立組(同町)...

△ランナチ及船數

一、ランナチ(發動機船)七艘六十五噸、一日平均船能率一千噸...

△海運業者別所有荷捌倉庫坪數

八戸市營保税倉庫(二棟、二百十五坪、二千噸) 磐城セメント會社專用倉庫(四棟、七百四十五坪、五千五百九十噸)...

△主要汽船會社代理店

北日本汽船會社、大連汽船會社、三陸汽船會社代理店、八戸港運輸株式會社...

八戸港重要港灣問題

八戸港の重要港灣問題は港灣施設着工以來の懸案で神田市長は縣議に港灣協會を動かし...

昭和八年度縣下各港移出入貨物

(單位圓) 外國貿易は除く

Table with columns for region (青森, 八戸, 東郡, 西郡) and rows for '移出' (Export) and '移入' (Import) with numerical values.

斗三奥藤相國深岩七尻田斗目

交通通信——傳書鳩

Table with 2 columns: 交通通信 (Communication) and 傳書鳩 (Pigeon). Rows list various locations and their corresponding pigeon counts or status.

傳書鳩

本邦の傳書鳩界は最近著しく發達し昭和九年六月末現在著しく...

青森縣傳書鳩聯盟 創立 昭和八年九月三日 役員 會長 山田金次郎...

航空

本縣航空界概況

昭和九年から十年にかけての我が航空界は、前年にも増して愈々發展の進歩を見せ、既設の大湊航空隊は専ら海軍機の根據となつて霞ヶ浦青森間、霞ヶ浦...

航空——本縣航空界概況——大湊海軍航空隊

青森縣飛行獎勵會を設置し、それが主體となつて模型飛行大會として航空座談會を開催し、...

大湊海軍航空隊

昭和八年二月所轄大臣訓令に依り開設工事施行、内港飛行場の竣工を俟つて同年十一月一日...

昭和九年四月までの主なる出来事は、北洋號遭難、二月十二日午前...

Table with 2 columns: 仙臺競翔大會成績 (Sendai Race Meeting Results) and 日本傳書鳩協會主催の東部長...

四月三日、北洋號遭難、二月十二日午前...

Table with 2 columns: 日新社内 (Nishinichi社内) and 弘前はとの會 (Hirogaki Hato no Kai).

四月三日、北洋號遭難、二月十二日午前...

助され事なきを得た。五月一日
 △オミ一三二號墜落 五月一日
 午前十時十分頃水上偵察機オミ
 一三二號は約千米上空に於てフ
 ラット・スピに陥り大湊町大
 字城ヶ澤沖合に墜落、機體大破
 操縦者中村兵曹長は絶命、偵察
 者西橋一空曹は落下傘脱出を試
 んみて成功無事なるを得た。
 △報國北海道號配屬 北海道民
 の献納による水上偵察機報國第
 五十七號(北海道號)は五日小
 樽市で命名式舉行、七日大湊に
 飛來首尾よく大湊航空隊に配屬
 した。
 △開隊祝賀式舉行 六月七日鹽
 澤航空本部長、中村八師團長以
 下縣内外の名士無慮八百を以て
 午前十一時盛大な開隊祝賀式を
 挙げたが、飛行ベージュメントを
 はじめ種々催し物が人氣を呼び
 數萬の參觀者を數ふる空前の賑
 ひを呈した。
 △基本演習參加 六月十五日よ
 り廿二日迄の横須賀鎮守府、大
 湊要港部連合の基本演習に參加
 のため中島飛行長以下約二十名
 が十五日午前八時釧路市上空に
 出發、演習終了後釧路市上空に
 於ける空中分列式に參加し二十
 四日歸還した。參加機中オミ一
 ○三號は二十日午前九時四十分
 頃濃霧の中を飛行機離陸故障
 を生じ不時着、機體を大破した
 が搭乗者三名は附近の漁船に救
 助された。
 △樺太飛行決行 九月四日樺太
 大泊を基地とする場外飛行演習
 を實施すべく水上偵察機三機を
 以て中島飛行長以下勇躍翔破決
 行、航程四百四十哩を飛んで二
 日間演習、七日午後四時半大湊
 歸還大成功を収めた。
 △下北大防空演習 九月二十六
 日より二十七日拂曉にかけ大湊
 要港部を中心とする郡下舉げて
 の防空演習が行はれたが、此の
 間各所屬機は全く不眠不休の活
 躍を續け縣下防空演習史上エ
 ボックを劃した。
 △小樽飛行決行不時着して一機
 大破 十月十八日大湊小樽間往
 復飛行を決定して午前七時四十
 分水上偵察機三機出發したが北
 海道福山沖上空に差違つた際、
 一機機離陸故障を生じ不時着の
 際、機體大破再び使用不可能とな
 った、搭乗者は何れも無事なる
 を得た。
 △難澁を重ねた小樽往復飛行
 十八日小樽往復飛行に失敗した
 大湊航空隊では二十日再び決行
 したがこの日もオミ一〇一號の
 故障より北海道福山郡須根子岬
 に不時着して、失敗を重ねたの
 で二十一日雪辱の意氣物連く三
 度目を決行遂に成功して歸還、
 翌二十二日は更に四度目を決行
 して之も亦易々成功し完全に雪
 辱はなつた。
 (昭和十年)
 △一〇五號大畑海岸に不時着
 一月十日訓練飛行中のオミ一〇
 五號機は正午頃下北郡東通村入
 口上空で機離陸故障を生じ大畑
 町海岸に不時着したが機體並
 搭乗員三名とも無事。
 △報國北海道號墜落、搭乗者負
 傷 一月三十一日午前九時頃
 訓練中の報國北海道號は機離陸
 故障から隊飛行場南西海岸松林
 に墜落し操縦者三浦中尉は重
 傷、中村一空兵は輕傷を負うた
 が何れも生命に別條なかつた。
 △霞ヶ浦長距離飛行決行 三月
 十八日午前八時水上偵察機二機
 は大湊霞ヶ浦間長距離飛行を敢
 行したが、宮城縣上空より悪天
 候に妨げられ引き返した候回復
 をまつて二十日に延期往航は上
 田大尉指揮復航は溝端中尉指揮
 二十一原隊に着水した。
 △オミ一三一號墜落、高橋一空
 絶命 四月廿三日午前九時半頃
 オミ一三一號を高橋實一空操
 縦上田大尉同乗で外港飛行場よ
 り離水訓練に入らんとして十米
 程上昇した際突如機離陸故障を
 生じ原隊の南西約五百米沖合に
 墜落し海底に沈没、上田大尉は
 輕傷を負うたのみだつたが、高
 橋一空は後頭部を強打して機體
 より脱出なし得ず、遂に殉職死
 亡廿五日しめやかな海軍葬儀が
 施行せられた。

大湊に飛來した各航空隊飛行機

本縣は内地と北海道とをつな
 ぐ所謂北門の要地を占めてゐる
 關係上從來も屢々他航空隊より
 の飛來機を迎へて來たが、殊に
 大湊に航空隊が出來てからは一
 層その度數を増すに至つた。九
 年四月以降十年四月末迄のそれ
 を摘記すれば概略左の通りであ
 る。
 (昭和九年)
 △四月十七日 霞ヶ浦より水偵
 三機着、翌日歸還
 △同二十六日 佐世保飛行艇二
 機横須賀より着、一泊の上翌日
 舞鶴に向ふ。
 (昭和十年)
 △三月二十一日 佐世保飛行艇
 二機舞鶴より着、給油休憩の後
 午後横須賀に向ふ。
 △四月八日 館山より日本一周
 飛行の飛行艇二機着、翌日佐世
 保に向け發、途中悪天候を征服
 して壯圖を完成。
 △同月十日 館山より飛行艇二

機水偵二機相前後來着、之が歸
 還飛行は翌十日行はれたが、飛
 行艇一機は故障のため十一日大
 湊發歸還となつた。
 △同月二十三日 佐伯飛行艇が
 朝鮮羅津より日本海を横斷して
 飛來翌日舞鶴に向ふ。
 下北郡田名部町樺山にあり。
 自然の地態に恵まれ館山機、霞
 ヶ浦機など飛來してより通稱樺
 山飛行場を以て開えてゐるが、
 大湊航空隊の大飛行場を附近に
 控へてゐる關係上、目下殆ど使
 用されてゐない状況にある。不
 時着地として頗る恰好の場所
 あるから樺山の利用價値は北方
 航空路に於ける航空機往來が頻
 繁になるに連れ充分高まること
 疑ひない。

樺山海軍用地

八式偵察機六六五號は淋代
 空でガソリンコックに故障を生
 じ附近廣澤牧場に不時着、翌十
 三日出發したが濃霧の爲再び青
 森飛行場に不時着した。
 △オミ一〇二號翼を大破 大湊
 航空隊所屬一四式水上偵察機オ
 一〇二號は九年七月十二日午
 後九時頃夜間飛行訓練を終つて
 着水の際、浮標に機體を引かけ
 翼を大破したが搭乗者は無事で
 あつた。
 △大湊航空隊黎明飛行 大湊航
 空隊では九年八月二十九日深更
 午前二時から朝五時半まで來
 べき九月末の防空演習の豫備訓
 練として水上偵察機オミ一〇一
 號以下三機で尻屋岬から太平洋
 に出で黎明飛行を行つたが頗る
 勇壯なものであつた。
 △大湊機函館へ 九年九月十八
 日の函館防空演習に大湊航空隊
 から水上偵察機一〇五號が一
 機參加した。
 △濱松爆撃機飛來 濱松飛行學
 校所屬重爆撃機第三號(門岡大
 尉外四名搭乗)は十月九日午前
 八時濱松を發し、同午後一時十
 分頃青森飛行場着、また同午後
 二時三十分には第十五號機(山
 田大尉操縦四名搭乗)が到着
 したが、所期の訓練飛行を終へ
 たので十日朝濱松に向け歸還し

本縣關係の主なる飛行記録

△秋季演習に大湊機參加 十月
 十五日から十七日まで上北郡の
 原野で行はれた第八師團秋季演
 習聯隊對抗演習第二日の十七日
 には大湊航空隊所屬の水上機が
 三機參加して演習地の上空を飛
 翔した。
 △霞ヶ浦機青森札幌間練習飛行
 霞ヶ浦航空隊では九三式中間練
 習機七七號、七〇二號、七〇四
 號、七〇六號の四機で青森、札
 幌間練習飛行の爲九年十月二十
 二日朝來青し、二十四日まで練
 習飛行をなし二十五日歸還。
 △聯合艦隊艦上機飛ぶ 帝國聯
 合艦隊第二艦隊が九年九月一日
 青森港に入港したが、三日出港
 の時には各艦上機が赤い機尾を
 輝かせて青森市の上空を惜別旋
 回をなした。
 △大湊航空隊の初飛行 大湊航
 空隊では十年一月八日午前九
 時、前日の發動機點検も好結果
 を得て香田飛行長指揮で水上偵
 察機三機を以て初訓練飛行を實
 施、大湊上空で飛行一段落後、
 九〇式偵察機は正午頃まで高等
 飛行を演じた。
 △大湊佐世保間飛行完成 館山
 航空隊の大湊、佐世保間無着水
 飛行は十年四月九日を期して決
 行された。館山航空隊勝田大尉
 指揮で最新式中型單葉、複葉飛
 行艇二機が八日大湊に至り、九
 日午前六時四十分大湊を離水
 し、途中裏日本の悪天候に悩ま
 され乍らも、全コース八百哩を
 八時四十分の耐空記録を残して
 無事佐世保に到着した。
 △所澤飛行學校訓練飛行 所澤
 飛行學校で同校將校操縦學生の
 野外空中航法訓練の爲昭和九年
 七月三日午後四時二十分、偵察
 機七機が翼をつらねて青森飛行
 場に飛來した。演習指揮官は岡
 本大尉で八八式偵察機五二七號
 機、九二式偵察機六七號機、同五
 七號機、八八式偵察機五〇二號
 機、同五一八號機、同五六七號
 機、八八式偵察機九號機の七機で、
 四日から十日まで七日間青森を
 中心にして酒田、能代、函館、
 根室、三本木等と往復飛行をす
 ることにし、
 第一日目の四日は雨交りの曇
 天である爲青森市の上空を飛翔
 しただけ。
 第二日目の五日は好天に恵ま
 れ、午前八時から野外空中航法
 訓練をなし、三本木方面へ三回
 往復、秋田縣能代にも一回往復
 飛行をなした。
 第三日目の六日にも函館との
 往復飛行に成功し、豫期以上の

航空——樺山海軍用地——本縣關係の主なる飛行記録

航空——本縣關係の主なる飛行記録

成績をあげたので豫定を繰上げ、七日午前十時一路所澤へ空

搭乗者山崎中尉、同五六〇號機

午前十時三十分札幌から飛來

號五〇六號は津輕一週飛行をな

雪上飛行と本縣の關係

中止、十五日午前八時一路下

陸軍航空本部で本縣に於て既

出で青森を経て秋田に向つたも

向つた

航空——雪上飛行と本縣の關係——縣出身飛行士並に航空關係者

十六日は航空本部長堀中將來青

昭和十年一月青森飛行場で行

△ライオン機飛來

△小栗飛行學校

工藤 文吾 西郡三村

航空——縣出身飛行士並に航空關係者

- 千葉小十郎 北郡五所川原町
- △逓信省航空局
- 二等飛行機操縦士、二等航空士
- 野呂忠三郎
- 同 藤田榮三郎
- △東京帝大航空研究所
- 同所官吏 大村稻三郎(鯉ヶ澤町)
- △日本航空輸送株式會社運航課
- 豫備役陸軍航空兵少尉 一等飛行機操縦士 二等航空士 正五位子爵 井上正鑑(舊姓南郡信鑑)八戸市八幡町
- △滿洲航空株式會社海拉原出張所長
- 豫備航空兵少尉 福士柁一 弘前市
- △朝鮮總督府
- 逓信技手 村井定一 八戸市鹽町
- △東京石川島飛行機製作所
- 設計係 千葉實 八戸市
- 陸軍
- △濱松陸軍飛行學校
- 航空兵軍曹 太田利幸 三戸郡上長苗代村大字大佛字中崎
- △陸軍航空本部
- 航空兵大尉 藤田雄藏 弘前市瓦ヶ町
- 陸軍技手 黒瀧勇吉 西郡稻垣村大字紫田
- 陸軍屬 高橋倉吉 東郡濱館村大字松森
- 氣象學生航空兵大尉 一
- 北郡中川村大字櫻田
- ◇東京飛行場々長
- 航空兵少佐 福士剛 南郡藤崎町
- △飛行第三聯隊
- 航空兵一等兵 加藤英三 八戸市中野町新地
- △所澤陸軍飛行學校
- 職員 高橋鐵三郎 三戸郡五戸町字博榮町五
- 航空兵曹長 鳥谷部松次郎 上北郡七戸町七戸二六九
- 同 佐藤仁平 東郡新城村大字戸門一四
- 操縦生徒 小杉慶造 弘前市茂森新町一三
- 同 齋藤正午 中郡藤代村大字字平岡三七
- 技術生徒 福眞吉美 弘前市西大工町四五
- 同 鹿内要司 青森市榮町九六
- 筆生 伊原榮三郎 青森市造道字浪打六二〇
- 職工 奥寺熊吉 三戸郡五戸町字川原町
- △飛行第七聯隊
- 工兵一等機工長 安藤貞治 弘前市上輪町一六
- △飛行第八聯隊
- 航空兵少佐 奈良儀助 弘前市住吉町
- 同曹長 工藤健吉 東郡後湯村
- 大字小播富川二四
- 同軍曹、三浦武太郎 南郡六郷村大字二双字村元六
- △飛行第六聯隊
- 航空兵軍曹 鳴海八郎 中郡裾野村
- 同 吉崎 由雄 北郡嘉瀬村
- 同 吉崎文之助 中郡西目屋村
- 同 長坂本 勇 南郡大杉村
- 同 杉山 良雄 上北郡野邊地町
- 同 梅村忠四郎 三戸郡三戸町
- △飛行第五聯隊
- 軍屬 佐藤一郎 東郡新城村
- 航空兵中尉 佐藤一郎 東郡新城村
- 二等兵 西村敏英 青森市古川
- 同 苦米地吉榮 上北郡藤坂村
- 同 大字相坂 下北郡佐井村
- 同 飯田 清一 下北郡佐井村
- 同 大字佐井七九
- 同 川村喜代志 三戸郡五戸町
- 同 鳴谷 末男 北郡嘉瀬村
- 同 熊谷 三郎 北郡野邊地町
- 同 工藤 善作 西郡鳴澤村
- 同 工藤 良雄 西郡稻垣村
- 同 久保 清 三戸郡倉石村
- 同 松橋 留藏 東郡油川町
- 同 國分 義雄 上北郡藤坂村
- 同 江刺家忠信 三戸郡野澤村
- 同 水梨 孫助 三戸郡三戸町
- 同 四戸 榮三 三戸郡久井村
- 同 青山 武次 北郡板柳町
- 同 齋藤勇太郎 南郡光田
- 寺村 笹渡正太郎 上北郡三澤村
- 一等兵 白取重作 弘前市本町
- △下志津飛行學校
- 陸軍技師 五等九級小野孝一 弘前市藏主町一六
- △關東軍飛行第十大隊
- 航空兵特務曹長 澤目善作 上北郡大深内村大字深持森
- 海軍
- △大湊航空隊
- 一等主計兵曹 横濱長助 上北郡野邊地町大字馬門
- 三等航空兵曹 松江由五郎 北郡梅澤村瀨良澤
- 三等機關兵曹 金澤保光 弘前市大工町
- 一等水兵 田中秀夫 東郡小湊町大字東田澤
- 同 下田五八郎 上北郡六戸村大字犬落瀬
- 二等水兵 古川貫造 青森市浦町野脇
- 三等水兵 坂本市助 上北郡六戸村犬落瀬
- 二等航空兵 千葉新吉 青森市新町
- 三等航空兵 名久井兵一 八戸市大字柏崎新町
- 同 葛西 久志 西郡稻垣村
- 同 和山 益 三戸郡島守村
- 同 力哉 下北郡大湊町

航空法施行細則公布

防空上極要地となつた本縣では航空法施行の細則の必要に迫られ九月十九日縣令で公布した。

九六 福眞吉美 弘前市西大工町四五

同 小杉慶造 弘前市茂森新町一三

同 齋藤正午 中郡藤代村大字三七

青森縣飛行獎勵會

東奥日報一萬五千號記念事業

本社は昭和九年五月を以て本紙が一萬五千號に達し、時恰も我が國内外共に非常時を叫ばれて國防の重大時期にある點に着眼し、本縣から出来るだけ多くの航空關係者を出し、郷土に航空思想を根強く植付けて、空からの國防を強固せんとして、青森縣飛行獎勵會を設立、此の計畫に對しては各方面の賛成を得、特に本縣出身海軍艦政本部長中村良三大將、陸軍では男爵淺田良逸中將、毛内靖胤中將の三將軍を顧問に戴くを得た、かく軍を顧問として十年四月第一回事業として十年四月

青森縣飛行獎勵會規則

- 第一章 總則
- 第一條 本會は青森縣に於て若くは青森縣民に對し航空に關する諸般の進歩發達を獎勵し且その思想知識趣味の普及を計ると共に優秀なる飛行家の輩出を企圖するを以て目的とする。
- 第二條 本會は青森縣飛行獎勵會と稱し事務所を青森市長島東奥日報社内置く。
- 第三條 本會は昭和九年五月二十四日東奥日報一萬五千號發行を記念し設立したるものにして昭和十四年五月二十三日に互つて、本縣出身であり、空の名バリエットとして國內ばかりではなく、諸外國にまでその勇名を馳せてゐる陸軍航空本部技術部藤田雄藏大尉を招聘し、縣下三市三町に於いて航空講演會を開催し、終つて、獎勵會の名に於て空の勇者に對し感謝狀並に記念品を贈呈した、また五月十二日には第二回模型飛行競技大會を開催したが今後、昭和十四年五月まで向ふ五ヶ年間に、航空に關する種々の催しをする筈であるが、本會規則は左の通りである。
- 第二章 事業
- 第一條 本會は第一條の目的を達する爲め左記の事業を行ふ。
- 一、講演會、座談會、見學會。
 - 二、映畫會、展覽會。
 - 三、飛行會、模型飛行機競技會。
 - 四、パンフレットの發行。
 - 五、少年航空兵の獎勵輪旋後援。
 - 六、青森縣出身飛行家の獎勵後援。
 - 七、青森縣内に於ける軍事又は民間航空事業並に其の關係者の獎勵後援。
 - 八、其の他第一條の目的を達成するに有効なる施設。
- 第三章 經費及決算
- 第五條 本會は自發的寄附金を受領することを得。
- 第六條 本會の經費は第五條、第八條に依る外東奥日報社に於て之を負擔す。
- 第七條 本會の決算は毎年五月二十四日發行東奥日報紙上又は報告書に之を發表す。
- 但、東奥日報社負擔にかゝる經費に就ては之を省略することを得。
- 四四七

- 水戸 芳松 上北郡六所村
- 同 庭田 幸一 三戸郡地引村
- 同 奥山辰五郎 上北郡十和田村
- 一等機關兵 工藤清治 西郡十三村
- 二等機關兵 長尾茂治 北郡三好村鶴岡
- 同 中村 徳松 三戸郡館村
- △吳航空隊
- 大尉川島 忠一 弘前市土手町
- △海軍航空本部
- 本部出仕海軍機關大尉 平出貞夫 上北郡三澤村字北山
- △大村海軍航空隊
- 中尉 川村匡 北郡五所川原町
- △霞ヶ浦航空隊
- 二等飛行機操縦士 山内保三
- 西郡柏村大字稻盛
- 飛行第十一大隊入隊者
- 昭和九年本縣壯丁中關東軍飛行第十一大隊入隊者氏名左の通り
- △上北郡大深内田中和夫△東郡横濱杉山勇一△下北郡大畑新田正治△同大湊石川清△上北郡野邊地鈴久名政雄△三戸郡大館八森辰之助△同三戸町久保田實△同五戸町中村源太郎△同田中梅吉△西郡稻垣工藤秀俊△北郡藤元竹谷秀徳△同鶴田坂本龍治
- 昭和十年度所屬飛行學校
- 少年航空兵採用者
- 技術生 鹿内要司 青森市榮町

航空——青森縣飛行獎勵會——青森縣飛行獎勵會規則

航空—働いた金でグライダーを作る八日市飛行聯隊—大湊航空隊見學

から航空兵に合格、立川飛行第五聯隊に入隊。△陸軍航空本部技術部今川少佐、藤田大尉の講演を聞き兼ねて、激勵される。△航空兵を會員中から出し、今後航空兵合格者には奨励金五圓を贈呈に決す。△創立四年にして會員中よりグライダー製作者を出だせり。△昭和九年八月十日迄に競技會を十四回開催。

働いた金でグライダーを作る

青森模範飛行機研究會員青森市浦町建具師稲田秀吉、同榮町模範飛行機職工千葉慶孝、同青森商業卒業生柳澤精太郎の三君は模範飛行機製作には嫌らず、グライダー製作を思ひ立ち、九年一月から計畫をはじめ二月から設計に着手、八月末細部の設計完成して製作にかかり、十月廿五日完成、十月三十一日南浪打の廣場で組立てた、大きさは普通の飛行機なみで、イト・スターと名付けた、費用は四十七圓、その金は柳澤と千葉が大東鐵道で働き、また稲田と千葉が青商バザールで模範飛行機を賣つた金である。

八日市飛行聯隊 十二機飛來

八日市飛行第三聯隊八八式偵察機十二機は八日市、青森間八キロ無着陸訓練飛行を決定し、十月二十六日、午前八時十分八日市を出發、コースは福井、富山、新潟の上空を通つて、同日午後零時四十分無事翔破したが、十二機の大舉飛來は青森飛行場創設以來初めて、あ総指揮は近藤中佐で、同日夜は四億五千萬燭光のスペリと稱する照明燈を用ひて夜間離着陸の訓練飛行を行ひ、翌二十七日は、一機だけ故障の爲殘留し、他の十一機は北海道へ練習飛行を行った。二十八日歸還の豫定であつたが、天候に恵まれず七月一日午後三時歸還した。

大湊航空隊見學

青森縣飛行獎勵會主催 本社で一萬五千號記念事業の一つとして創設した青森縣飛行獎勵會では、その事業の一つとして少年航空兵志願者に航空思想を受験前に早くも根強く植ゑつける爲に大湊要港部航空隊見學會をせしむべく、一切の費用を獎勵會で負擔し、十月六月二十五日、六日の二泊の見學團

を組織し、左の見學者を推選により三十名だけ決定、山田本社長、竹内事業部主任等引率して見學したが、航空隊の好意により所期の目的を達し、見學者達に有意義な企てであつた。

- 東郡 (四名) 新城村 (操) 川村 平内 (一九) 奥内村 (技) 杉田 清芽 (七) 新城村 (同) 秋谷 壽二 (六) 筒井村幸畑 (同) 小泉 義彌 (六) 西郡 (三名) 赤石村 (操) 須藤 進 (九) 釜ヶ澤町 (技) 辻 正助 (五) 柴田村 (技) 盛 禮一 (七) 中郡 (一名) 大浦村賀田 (操) 米谷 雅巳 (九) 南郡 (四名) 淺瀬石村 (操) 北山 隆二 (九) 黒石町 (同) 山田 守 (八) 金田村金屋 (同) 小野 彦衛 (七) 野澤村銀 (操) 三上 惠輔 (九) 北郡 (二名) 七和村原子 (操) 勝浦字一郎 (六)

三好村藻川 (技) 川浪 勇 (八) 上北郡 (四名) 下田村古間木 (操) 奥瀬 喜一 (一九) 六戸村犬落瀬 (技) 佐藤 末 (八) 百石町 (同) 福田 操 (七) 大深内村深持 (同) 佐々木仁衛右 (六) 下北郡 (二名) 川内町 (技) 山田 鐵雄 (七) 同 (技) 加藤 慶一 (七) 三戸郡 (二名) 上郷村石龜 (操) 築田源三郎 (八) 五戸町筋 (同) 小坂 武次 (九) 八戸市 (一名) 小中野 (技) 三浦仁太郎 (八) 弘前市 (三名) 富田町 (操) 小野貞太郎 (八) 田代町 (技) 阿保 浩 (七) 茂森新町 (同) 工藤清四郎 (六) 青森市 (四名) 造 道 (操) 佐々木文二 (八) 松 森 (操) 間山豊三郎 (八) 長 島 (技) 木村 勇藏 (六) 榮 町 (同) 石塚 英吉 (七)

労働社會問題

本縣左翼運動概況

前年に引續いて國家主義運動が全国的に隆盛なためと、當局の取締が嚴重なためと、本縣左翼運動は衰滅の状態で、この傾向は實踐行動は勿論消費組合運動、文化運動等コミュニティズムを指導精神とする一切の運動にみられた、だがこれは表面に表はれた現象で昭和七年の十一月十四日の檢舉後残存した一部が再組織を始めたる。即ち佐藤多三郎一派が中央奪還全國會議派を支持して全農多數派の組織に参加し本縣委員會を組織し、組織を伸ばしてメンバー獲得につとめ、コツプ(科學同盟)の再建を圖つてゐたが、逸早く探知した縣特高課の手で九年十一月二十三日一齊に檢舉され壊滅の形となつた。この檢舉に於ては檢舉された者四十五名に及び中五名は弘高生で黨員は 佐藤多三郎(三)、鳴海静造(三) 鳥口重次郎(三)、宮崎辰治(三) 渡邊正吉(三) の五名であつた。

労働社會問題

本縣左翼運動概況—今年の同盟罷業 縣下の右翼團體—本縣農民運動概況

今年の同盟罷業

- △弘前前職工 五月十七日—同月二十一日 關係人員 事業主 二 職工 七八 要求 工資一割値上 解決 同上貫徹 △東郡一本木耕地組合 六月十七日—同日 關係人員 事業主 二 職工 二五 要求 未拂勞銀六百五十圓要 解決 土工の店借三百十二圓 三十五錢を支拂ひたる外土 工具百圓代提供 △西郡岩崎村松神開墾事業 七月四日—同月六日 關係人員 事業主 一 土工 六 要求 事業主山手勇之助の資 本金缺乏を聞き込んだ労働

社會民主主義的イデオロギイを持つ全農總本部派の青森縣全農縣聯は確實な歩みを進め合法的な闘争を續けたことは別項の如くである。

本縣右翼運動概況

者が即時賃銀支拂を要求 解決 要求貫徹 △青森造船業 十月二十六日—同二十八日 關係人員 事業主 一〇 職工 五〇 要求 一日金三十錢賃銀要求 解決 要求貫徹 滿洲事變を契機とする非常時の波に乗つて擡頭した右翼運動はその後政治、修養、啓蒙、思想等漸次色彩を明瞭にしてきたが十年二月十一日の紀元節には神武會(本縣では黒石、弘前、八戸に支部、青森に準備會があった)が解散され、その他の右翼團體も活動は稍不治済の傾向が見えてきた。一時は本縣に於ても神兵隊事件の呼應者を出したのであつたが、客觀狀勢の變化によつて、かゝる行動を企圖する餘地がなくなつたものとみられる。

縣下の右翼團體

- (十年四月現在) △明倫會青森支部(相馬武一)、同弘前支部(松本與三郎) △政黨解消聯盟青森支部(櫻田穂之助)、同八戸支部(佐川翁)

本縣農民運動概況

滿洲事變以來左翼彈壓の餘波で表面に出なかつた農民組合の運動が、農村窮迫のために大衆の生活に隠然たる勢力を持ち、昭和九年の凶作前後にその組織の擴大と強化をみた、凶作が決定的なものとなるや全國農民組合青森縣聯合會は九月二日五所

婦人・家庭

本縣女子教育の傾向

從來は何事も男子の力でのみ爲されるものと、斷定的に考へられて居た社會の改善振興に對して、その考へ方が車の一輪を失つたと等しい跛行であると實際に感ずる様になつた傾向が、最近著しく本縣の女子教育の中に取り入れられて來たことが發見される、殊に近時相次ぐ災害に疲弊困憊した本縣が、縣民の約半數を占める女性の協力を待たずに、恢復することの至難であることも悟つたものと云ふべきで、社會教育の對照が、成年男子から移つて、青年と婦女子に重點を置く様になつたことはさもあるべしとなづかれる處である。

指導に着眼した事は欣慶に堪へないもので、社會教育の普及進歩が非常な勢で女性群の水準を押しあげつゝあることを感受する僻村の女子の自己の生活する社會を正しく認識しようとする慾望が極めて旺盛で、彼女等が強く正しく生きようとするその眞摯さには驚かされるものがある。

我々は信ずる、女性の自覺と協力によつて農はやがて更生の曙光を見出すであらうと……そして、翻つて都市の婦女子が進歩、向上の機会を多く持ちながら、大都市の持つ悪と廢類の雰圍氣をのみ醸成して、惠まれた自己を生かさうと心がけない人の多いのを悲しむものである。

女子中等學校卒業者は、向ふ三軒、兩隣にざらにある、更に進んで専門教育を受けた女子が急激にその數を増してゐるにも拘らず、その與へられた財と暇と教養を大衆の爲に頌たうとする社會意識に醒めた人の餘りに少ない事は、未だに因循姑息な

過去の教から脱け切らない爲ではなからうか。

何れにしても、本縣の知識階級の婦女子が不活潑であることは争へない事實で、今後の教育に依つて、社會を見る眼と社會の中に飛び込む勇氣を培つたならば、本縣の隆昌、發達は期して見るべきものがあるだらう。

(縣社會課水野みさを氏)

女子體育の傾向

◆一般の傾向 「將來國家を存負つて立つべき青年」と一般に膾炙されてあるが、女子も亦一面から重要な立場にあると思はれる。女子にして若し健全なる青年たるべき子を生むに非ずんば之また意味をなさなくなることは明らかで、依つて國家の興隆は婦人の自覺に俟つ多きを知るべきである。我が青森縣は地形交通上の關係から文化に遅るると言ふが文化の弊風に染まぬ立派な健康の持主たる女子亦多しとす。然れども衛生思想の低きは何んとし汗顔の至りである。

乳幼児の死亡率は本縣は先づ横綱である。この乳幼児より若し育兒の知識と熱心あるならばかなり有爲なる人物を得らるるものをあたたら失ふ者の多いこと

は衛生思想の低級な悲みである然るに最近の婦人は漸次衛生的にも體育的にも自覺ある態度を示してあることは喜ばしい。

彼の種々なる競技會を眺むるに近時婦人の姿を見受けることが確かに多くなつた。殊に野球ファンは多い。夏の海邊の婦人達、冬季に至つては本縣として最も退嬰的ならしむる時季にあるにもかゝらず、スキーを持出してゲレンデに滑走する女子の多くなつたのは一つの遊戯と目覺められたくない、確かに體育にも若きより中年人が多く、而も若きより中年人が多く、子供連も相當出る様になつたことは我が青森縣を明るくすることである。

一般また彼の婦人を見て嘲笑することもなくなつた。これを解るも一般人の體育に對する理解の向上を證明して居るのであるまいかと考へられる。勿論運動するものを見ても決してお転婆でなく、日本婦人たるの態度を失つて居らない。吾々は此の氣運を大いに高めて體育への進出を願ひ我青森縣の振作更生に努めたいものである。

◆女學校の體育 更に女學校方面を見聞して見るに、和服に長袴の日本婦人の優雅さは今は殆

ど洋服となつて運動の自由な活動的能動的になつたことはよく知るところである。それが爲に自然の勢として各種運動の隆盛は見るべきものがある。女子競技會を見るも其の種類に於て、参加者數に於ても年々増加してあることは各女學校の體育運動の普及状況によつてもよくわかる。

最初女學校生徒の輕快なパンツのみの服装に對しては色々の風評もあつたが今では運動する者もパンツ一つで思切つて運動を續け、一般また惡評する者もなくなつた、これが事實からしても眞の體育に對する理解が高まりつゝあるを知る。

◆女子の健康状態 かく普及された體育運動の影響として女子健康状況を統計的に見るも昭和六、七、八年の三ヶ年を比較して見るに縣下女學校在學中の死亡も昭和六年より三年後には半減してゐる、病退、病休、病缺を見て三年間で半減又は三分の二減になつて居ることは我青森縣の前途に對して喜ばしい次第である。

最近精神教育より出發したものであらうが女學校の薙刀の指導が始つたことは時代の反響もあるが女子體育から見て誠に慶

婦人・家庭——

啓蒙的な團體の活動——青森縣婦人公論グループ

賀の至りである。

◆民衆の體育傾向 最後に一般民衆として健康に自覺しつゝある現れとしてラヂオ體操(國民保健體操)の普及は夥しい勢である。毎年夏季に開かるるラヂオ體操會の参加者の統計を見るに女子の一般人は前年に比して倍數の状況である、各家庭に於ても相當ラヂオに合して國民保健體操を實行する人が増加してあることが事實である。

かく一般女子體育の進展の年と共に發展し行く有様は我青森縣自力更生に預つて力あるを信する。縣民よお互の健康の爲めに我が郷土の爲めに大いに努めたいものである。(縣體育主事對馬助五郎氏談)

啓蒙的な團體の活動

災害に次ぐ災害に打ちひしがれ様とする本縣の更生は、女性の活潑な働きを自ら要求され、最近婦人團體の自力更生の催し、會合が種々行はれた、愛國婦人會、日本赤十字、若くは日本キリスト教婦人矯風會等の活動は全國的なものなので、主として本縣に生れたものでも、或は中央からの延長でも本縣の特別な活動として指導の婦人團體

殊な啓蒙團體としての活動振の例を擧げて見よう。

青森婦人公論グループ

これは九年九月十六日に婦人公論島中社長の來青講演を契機として生れたもので「女性の向上と福祉の増進に協力し、女性の短所を矯め、缺點を補ひ合ひ、親和修養に努めて明朗、睿智時代の婦人として完からんとす」の目的で作られた、事務所は青森市浦町字野脇一七水野みさを方に置かれ、毎月例會を開いてゐる、未だまとまつた基金がないので事業は出来ないが、しばしば各方面の權威者の講演を聞き、女性の福祉の更生運動のよき協力者たらんとし修養につとめてゐる。

友の會

青森、弘前、黒石等にある友の會の九年から十年にかけた活動はなか／＼活潑を極めたもので、友愛セール、料理講習、映畫會、家事講習等と家庭生活改善善につとめて來たが、東郡小湊町に開催したセツルメント(隣保事業)は非常に好評を博し、農村生活改善に大いに資する處あつた。

新城村更生婦人會

東郡新城村の自力更生委員會の主催で、九年九月十日組織された「家庭經濟の更生は婦人の手で」をスローガンとしてゐるが、これも凶作に刺戟されて生れた婦人の團體である。

縣下指導の婦人團體

これらの團體は縣當局が特に指導して縣下各市町に設立した婦人團體で、地方開發、知識交換等を目的としてゐるものである。

東郡

△今別村主婦會 創立は昭和五年一月廿一日、事務所は今別村役場に置く。

目的は教育勸語の聖旨に基き修身齊家の道を講ずるを共に地方の發達社會の偕和を圖り兼て相互の親睦を厚ふするものである。

主なる事業は(一)婦徳の修養及保健衛生に關する事項(二)家庭の改善、生活の向上に關する事項(三)良風美俗の助長改善に關する事項(四)社會事業の奉仕に關する事項(五)村經濟更生計

婦人・家庭——縣で指導の婦人團體

畫の實行(六)自力更生貯金實行等である。

△行啓記念筒井村婦人會 創立は明治四一年九月、事務所は筒井尋常高等小學校内に置く。

△蓬田村婦人會 創立は昭和六年九月二日、事務所は同村役場教育勸語の聖旨に基き修身齊家之道を講ずると共に地方の發達を厚ふ事を以て目的とし、主なる事業としては、農事改良講習會、移動式農事懇談會、料理講習會(燗加工に關すること)等、その他修養講習和會、廢物利用講習會等である。

△横内村婦人會 設立は昭和七年十月卅日、事務所は同村小學校内に置く。

△西田澤村婦人會 昭和四年九月廿六日の設立で事務所は同村小學校内に置く。

△濱館村婦人會 昭和八年二月廿四日の設立で同村役場に事務所を置く。

△原別村主婦會 設立は昭和四年九月廿六日、同村小學校内に事務所を置く。

△西田澤村婦人會 昭和四年九月廿六日の設立で事務所は同村小學校内に置く。

△蟹田村大字外黒山婦女會 設立は明治四三年一月四日、同村分教場に事務所を置く。

△細越婦人佛教會 昭和四年十月八日の設立で事務所は同村照明庵内に置く。

△細越婦人農事改良組合 設立は大正十四年二月十二日、事務所は同村小學校内農業補習學校に置く。

△油川町母姊會 設立年月日不詳、事務所は同町尋常高等小學校内に置く。

△濱館村大字松森婦人農事改良組合(濱館村大字松森字福田四三)小柳婦人農事改良組合(濱館村大字小柳)戸山婦人農事改良組合

なる事業は、農村として休日を利用して裁縫の練習をなし、又は有益なる講演會等を開催すること等である。

△北中野婦人會 昭和七年二月十四日の設立、事務所は同村小學校内に置く。

△藤崎町内婦人相互の修養並に親睦を圖ると共に社會奉仕の爲めに活動せんことを目的とし、主なる事業は(一)國防献金及出動兵慰問(二)罹災民救助義捐募集及慰問(三)染物、編物、料理、作法の講習(四)映畫會開催(五)名士の講演(六)總會開催等である。

△中郷村飛内母姊會 大正十三年二月廿六日の設立、事務所は飛内分教場内に置く。

南 郡

△深浦町一心會 明治四四年八月の設立、事務所は深浦町大字深浦。

西 郡

△三省主婦會 設立は大正八年十一月三日、事務所は藤代村三省小學校内に置く。

中 郡

婦人・家庭——縣で指導の婦人團體

△葛原村婦人會 設立年月日不詳、事務所は岩木村嶽崎小學校内に置く。

△五代村婦人會 設立年月日不明、事務所は嶽崎小學校内に置く。

△新岡村婦人會 設立年月日不明、事務所は嶽崎小學校内に置く。

△靜修主婦會 大正十二年七月

婦人・家庭——縣で指導の婦人團體

△北中野婦人會 昭和七年二月十四日の設立、事務所は同村小學校内に置く。

△藤崎町内婦人相互の修養並に親睦を圖ると共に社會奉仕の爲めに活動せんことを目的とし、主なる事業は(一)國防献金及出動兵慰問(二)罹災民救助義捐募集及慰問(三)染物、編物、料理、作法の講習(四)映畫會開催(五)名士の講演(六)總會開催等である。

△中郷村飛内母姊會 大正十三年二月廿六日の設立、事務所は飛内分教場内に置く。

△靜修主婦會 大正十二年七月

婦人・家庭——縣で指導の婦人團體

△北中野婦人會 昭和七年二月十四日の設立、事務所は同村小學校内に置く。

△藤崎町内婦人相互の修養並に親睦を圖ると共に社會奉仕の爲めに活動せんことを目的とし、主なる事業は(一)國防献金及出動兵慰問(二)罹災民救助義捐募集及慰問(三)染物、編物、料理、作法の講習(四)映畫會開催(五)名士の講演(六)總會開催等である。

△中郷村飛内母姊會 大正十三年二月廿六日の設立、事務所は飛内分教場内に置く。

△靜修主婦會 大正十二年七月

婦人・家庭——縣で指導の婦人團體

婦人・家庭——縣で指導の婦人團體

禮儀、作法、裁縫、刺繍(四)基
本金造成(積立金)(五)其他必要
なる事項。

△尾崎村婦人農事向上會 大正
十二年四月一日の設立、事務所
は尾崎村大字新尾字平野八六番
地ノ一號。

婦人智識の向上を計るを以て
目的とし、主なる事業としては
農事視察、農事講和、料理講習
等がある。

△東光寺母姉會 昭和八年一月
十八日の設立、事務所は東光寺
小學校内。

目的は教育勸語の御聖旨を奉
體し、子女教育に關し、常に學
校と連絡を保ち且つ婦徳を進む
るにあり、主なる事業としては

(一)常に學校と連絡を保ち學校
兒童及卒業兒童の教育又は誘導
に努むること(二)精神講話(三)
家庭衛生、育兒等に關する講話
(四)作法、裁縫、刺繍其他家庭
に必要な講習(五)互助及弔慰

(六)勤儉貯蓄(七)敬老保嬰(八)
篤行者表彰等がある。

△猿賀村日沼婦人會 昭和八年
一月十八日の設立、事務所は同
村日沼小學校内。

目的は通學區域内の婦人の智
徳の向上を圖り、常識の養成に
努め以て生活改善に資し、兼て
會員相互の親睦を圖るにあり、

事業としては講話會、説教會、
託兒所開設、學校教育と家庭教
育との連絡を圖ること等であ
る。

△山形村婦人會 昭和七年十一
月十五日の設立で事務所は同村
役場。

婦徳の修養及保健衛生、良風
美俗の助長家庭生活の改善向上
等を目的とし、事業としては毎
年一回總會を開催し、婦徳の修
養、保健衛生等に關する講演、
講話、家庭生活の改善向上の目
的を以て料理講習會の開催等が
ある。

△碓ヶ關主婦會 昭和四年十一
月十五日の設立、事務所は同村
小學校内に置く。

生活改善、修養を目的とし、
事業としては集會懇談して目的
の達成を期してゐる。

△黒石母の會 大正十三年一月
廿六日の設立、事務所は同町黒
石幼稚園内。

主婦の修養、親睦、相互の扶
助を目的とし、主なる事業とし
ては主婦修養の爲め例會の際名
士講演、講習會を開催し、滿洲
への出征兵及遺族を訪問し、金
員を贈呈し、又は三陸震災、函館
大火等の際は會員の同情を仰ぎ
衣類金員等の寄附を爲し、年末
には貧困なる町民は毎年救助を

し、其他會員中に家内に死亡者
のある時には必ず訪問弔慰金を
贈呈し會費、秋には會員の希
望を集め、遠足等を行ふ。

△畑中母の會 設立は昭和五年
十一月廿三日、事務所は同村小
學校内に置く。

母としての修養に努め兒童教
育、本村發展の爲めに貢献する
を目的とし、主なる事業として
は説教會、講演會、娛樂會、敬
老會等がある。

△六郷村母姉會 昭和七年十月
八日の設立、事務所は六郷村大
字赤坂字野崎五。

婦人の修養、親睦、相互扶助
を目的とし、主なる事業として
は料理講習會、視察見學、旅行、
講演會、映畫會等がある。

北 郡

△梅澤村主婦會 昭和八年六月
三日の設立、事務所同村小學校
内。

農村主婦の家庭生活の充實を
圖るを以て目的とし、主なる事
業としては梅澤村社會教育委員
會及び農會主催にて部落毎に農
談會又は講演會等開催して居
る。

△中川村婦人農事改良組合 設
立は昭和八年九月十二日、事務
所は同村役場内に置く。

四六四

目的は本村自力更生の趣旨を
體し組合員各自農事改良の實行
に努力し兼て修養の方法を講じ
組合員相互の利益を増進する爲
めである。主なる事業にしては

(一)農事改良に關する講習會、
講演會(二)農事試験場其他の實
地視察(三)品評會等がある。

△相内村主婦會 昭和四年九月
二日に設立し、事務所は同村役
場内に置く。

教育勸語の聖旨に基き修身齊
家の道を講ずると共に地方の發
達社會の偕和を圖り兼て相互の
親睦を厚くするを以て目的とし
主なる事業としては(一)婦徳の
修養及保健衛生に關する事項
(二)家庭改善、生活の向上に關
する事項(三)婦人に相應しき社
會的事業に關する事項(四)良風
美俗の助長に關する事項(五)其
他必要と認むる事項の實行。

上北郡

△天間林村坪主婦會 昭和九年
三月八日の設立、事務所は同村
坪小學校内。

目的は婦徳の向上を圖り、良
婦としての智識を興へる爲めで
ある。主なる事業としては講演
會、合同視察等である。

△下切田婦人會 昭和九年八月
の設立、事務所は三本木町大字
路の掃除等がある。

下北郡

△川内町銀杏木主婦會 設立年
月不明、事務所は銀杏木。
事業としては、神社佛閣へ奉
仕、講話會、部落風習の改善、
其他鐵カブト二個、慰問袋三十、
滿洲へ發送等がある。

△風間浦村蛇浦婦人會 設立年
月日不詳、事務所は同村慈觀庵
内。

事業としては講演會開催、共
同採藻等がある。

三戸郡

△館村大字賣市主婦會 設立は
昭和五年參月六日、事務所は同
村小學校内。

目的は教育勸語の聖旨に基き
修身齊家の道を講ずると共に地
方の發達、社會の偕和を圖り兼
て相互の親睦を厚くする爲めで
ある。主なる事業としては(一)
修身修養講話(二)衛生講話(三)
家庭經濟、料理の講習(四)火災
豫防講話(五)乳兒發育法講話
(六)農事講話等である。

△淺田村主婦會 大正拾二年三
月廿八日、事務所は淺田村大字

四六五

切田字下切田拾番地。

教育事業の發達後援、敬神崇
祖、生活改善、智徳向上、勤儉
貯蓄を目的とするものである。
主なる事業としては(一)托兒所
の發達を圖ること(二)小學校
の保護に努むること(三)青年團
處女會、青訓の後援(四)敬老會
(五)屑物整理講習(六)視察等が
ある。

△四和村傳法寺母の會 大正拾
四年一月五日の設立、事務所は
傳法寺本村。

目的は現代の世相に鑑み主婦
らしき公徳心の向上、自力更生
の爲めである。主なる事業とし
ては會員に見舞金、弔慰金贈呈
出征軍人六名に對し白絹千人結
を凱旋兵に對しては寸志贈呈、
其他海嘯地に同情金五圓、猶備
品を、會員は勿論一般要求に應
じて貸與等がある。

△六戸村折茂女子振興會 昭和
七年十一月三日の設立、事務所
は六戸村立折茂小學校内。

智徳を修養し、婦人としての
堅實なる志操を養ひ、青訓、處
女會を應援し、兼て備荒貯蓄を
なすを目的とし、主なる事業と
しては(一)青訓、處女會の應援
(二)敬老會開催(三)備荒貯蓄と
して貯蓄金を爲す等である。

△六戸主婦會 昭和六年八月廿
日、事務所は同村小學校内。

目的は修身齊家の道を講ずる
と共に地方の發達、社會の偕和
を圖り兼て相互の親睦を厚くせ
んとするもので、主なる事業と
しては(一)婦徳の修養及保健衛
生に關する事項(二)家庭の改善
生活の向上に關する事項(三)婦
人に相應しき社會事業に關する
事項(四)良風美俗の助長に關す
る事項等である。

△野邊地佛敎婦人會 大正拾年
九月三日の設立、事務所は同町
西光寺内。

其の目的とするところは、佛
教信仰、修養、技藝講習等で、
事業としては社會奉仕、技藝講
習、法話會、幼稚園後援等があ
る。

目的は修身齊家の道を講ずる
と共に地方の發達、社會の偕和
を圖り兼て相互の親睦を厚くせ
んとするもので、主なる事業と
しては(一)婦徳の修養及保健衛
生に關する事項(二)家庭の改善
生活の向上に關する事項(三)婦
人に相應しき社會事業に關する
事項(四)良風美俗の助長に關す
る事項等である。

△天間林村榎林附田主婦會 昭
和四年十二月一日の設立、事務
所は榎林小學校内。

目的は修身齊家の道を講ずる、
相互親睦、學校教育の促進等、
主なる事業としては(一)講話會
(二)經濟更生(三)講習會(四)座
談會等がある。

△木内々婦人會 昭和四年四月
五日の設立、事務所は同村小學
校。

教育勸語の聖旨に基き修身齊
家の道を講ずると共に、地方の

發達、社會の偕和を圖り兼て相
互の親睦を厚くするを以て目的
とし、主なる事業としては講習
講話會の開催、神社、墓地、道
路掃除の社會奉仕等がある。

△上切田小學校母姉會 大正拾
三年二月廿二日の設立、事務所
は小學校内に置く。

目的は相互の親和、就學兒童
の獎勵保護及各自の常識養成を
圖るにあり、主なる事業として
は(一)農事に關する講習會(二)
家事刺繍に關する講習會(三)定
期總會(四)會員の任意貯蓄(五)
其他有益なる事項等である。

△百石町法解婦人會 明治廿一
年の設立、事務所は同町法運寺
内。

目的は佛敎念佛主義に依る婦
人の向上家庭訓育にあり、主な
る事業としては毎月一回集會し
念佛、法話、讀經等を行ふ、又
は軍人慰問、寺院復興等である。
△藤坂町 相坂上通婦人會。相
坂下通婦人會。藤嶋婦人會。六
日町婦人會。設立年月日何れも
不明、事務所は各會長宅。
主なる事業としては、農談會
共同勞作、田草刈、出征兵慰問
留守家族慰問等がある。
△下田村古間木婦人會 設立年
月日不明、事務所は下田村字中
下田一八五。

婦人・家庭——縣で指導の婦人團體

婦人・家庭——最近の結髪化粧の傾向

浅水寶福寺内。目的は親睦を厚くする爲め、共同一致の精神を涵養し本村に於ける規約の實行を期する爲めである。主なる事業としては、修養、禮儀に關する事項、家事、衛生其他村に於ける諸規約の實行等である。

八戸市

○八戸市婦人修養會 設立は大正八年九月十五日、事務所は同市八幡町一。目的は相互の知識交換、地方發展の途を圖る爲めである。主なる事業としては家庭並に地方に適切な研究會がある。

最近の結髪化粧の傾向

て相互の親睦を厚くする爲めである。主なる事業としては(一)講演會(二)會員懇談會(三)會員家族の弔慰等がある。

弘前市

△陸海軍將校婦人會弘前支部 設立は明治廿九年十月廿日事務所は弘前市大字富田字大野弘前借行社内。目的は會員相互の親睦を教ふるに努め、和衷協同、隣保相扶けの向上を圖るためである。

出稼婦女郡市別

(昭和九年十月十日調)

Table with columns for municipalities (郡市別), gender (性別), and count (計). Rows include 青森市, 弘前市, 八戸市, etc.

第九回赤ちゃん展覧會

縣社會事業協會の第九回赤ちゃん展覧會。乳幼児愛護週間中の催しとして五月四日から六日まで縣下六ヶ所で行はれた乳幼児發育推獎會の参加者は千六百三十三名であつたが審査の結果三本木十一名、其他の五ヶ所は各三十名宛計百六十一名入選表彰に決し同月十五日午後一時から青森

は縣會議事堂、弘前公會堂、八戸市役所、三本木小學校、五所川原、田名部は各その公會堂で夫々表彰狀並に銅牌を授與され

- List of names and locations for the exhibition winners, including 浦野野、同野野、同野野、同野野, etc.

學藝・出版

文藝

縣文壇の現状

本年度(昭和九年五月より同年四月まで)の縣文壇は前年度の後を承けて依然として創作は活潑な動きを示し、殊に九年秋頃より長篇『囚はれた大地』で中央文壇へ乗り出し、以後毎月農村を主題とした好短篇を發表してゐる平田小六が東郡新城村、弘前市等に居を占めて郷土文壇に刺戟を與へ、創作勃興に拍車をかけた發表機關として有力な淡谷悠藏、竹内俊吉編輯の『作・評』は三號以來姿をみせなかつたが、東奥文壇及弘新學藝欄は創作を主として力作を多く載せた。

他の分野に於ては詩歌、俳句、川柳とも一般的に不振で、論評もなく淋しかつたが、詩壇では一戸謙三を主とする津輕方言詩運動が一つの流派を形成して作品の傾向からみれば昭和九年

年秋の凶作を契機として本縣作家の目が農村に向ひ、イデオロギツシユな高揚よりも農村の現實を微細に表す方法が知られてきた。中央文壇に於ては知識階級の不安より發して行動的、能動的の精神に終る一聯の論争が盛んだつたが、本縣に於てはこれに對する反應は殆どなく、それだけに觀點がはつきりし、何を書くべきかが明確になつてゐる。東奥日報の連載小説は竹内俊吉の『わかれ道』が終つて後、淡谷悠藏が『若き森』を書いた、本縣を舞臺に古い時代と新しい時代の相克を描いたものとなつてゐた。沙和宋一、林專太郎は沙和の『文學評論』に出たが、林專太郎は九年八月惜しくも長逝した。映畫批評をもつて中央に活躍してゐた南良三も十年一月中央では本縣出身の佐藤紅緑、八木隆一郎、菊谷榮、北村小松

石坂洋次郎、今官一、太宰治等夫々前年に引き続き活動を續けてゐる。演劇運動の方面では此處二、三年來の思想的重壓の下に左翼的傾向を持つプロット青森支部建設座は自然解消し、八戸地方の自由主義的な劇團もその後鳴りを静めてゐたが、青森地方では再び研究熱を盛り返して研究會『新興舞臺』の組織となつて、表れた責任者は淡谷悠藏で陣容を整備してゐる。文藝團體で活潑な動きを續けてゐるのは青森創作會(淡谷竹内その他)と弘前創作會(沙和宋一、伴信子その他)の二つが、他に『川柳のグルーブ』が別項の如く活動してゐる。

詩壇

今年の縣詩壇の活動は主として次の如き發表機關に依つた。東奥日報、弘前新聞、兩文藝府、無飢道、上北文藝、藝苑、この外『日本詩壇』に一戸謙三、椎の木、坂下十九時、草飼稔、太田貞造、坂下十九時、船水清、一戸謙三、坂下十九時、船水清、葡萄三、に對馬正、文藝汎論、

に草飼稔があつた、東奥及弘新は各一年間の縣詩壇を特輯したが、一年間の縣詩壇を特輯すれば九年に入つて『府』の創刊で稍々盛り返された縣詩壇は諸種の發表機關があるに拘らず再び往時の隆盛に返らず月並な歩みを續け、ただ一戸謙三を主とした津輕方言詩運動が九年末より十年初頭にかけて活潑な動きをみせたに過ぎなかつた。

詩作者は數に於ては多かつたがその中心となつて特色の鮮明だつたのは一戸謙三、笹森猛正、植木曜介、一戸謙三、船水清、山田諒三郎、和泉淳等で乏しいながらも高木恭造、竹内二郎、木馬知十、佐藤陸郎、鴨武治等の作品もみられた。

一戸謙三は佛蘭西象徴派の影響の濃い永い詩作生活を経て、本詞風の詩を書いてゐたが、九年末より津輕方言詩の創作に入り、茨の花コトより『亞童』に至る五冊のパンフレットを毎月發行、更に同志を集めて我が國最初の方言詩誌『芝生』を出版し、十二月には『推の木』に詩と地方語を一月には『東奥文壇』に詩言と方言の活動を發表して理論的にも大膽に活動した、その成果は今後に待たねばならぬが、

歌壇

歌壇は前年に續いて堅實な歩みをなしてゐるが、船水公明の主宰する青森市の樹木社、成田憲三、笹森壽子の弘前勤草社、稲垣碩土の八戸地上支社が中心となつてゐるものである。

樹木社は毎月『樹木』を發行して同人に和山蘭、丹羽岳原むつを、高田螢灯、和山蘭、林征次郎、三上智成、船水公明、館山吟字樓等の元老格より工藤金次郎、上見秀雄、松岡辰雄、清藤直子、山田玉枝等中堅女流、新人に至るまで賑やかに集ひ、中央歌壇の諸派より離れて、『青森縣の短歌』を歌つてゐる。

弘前の勤草支社には成田、笹森の外に木村順三、櫻庭誠四郎等があり、八戸の地上支社には稲垣浩の外に佐々木喜恵子、大谷繁雄その他があつて、前者は

『勁草』に後者は『地上』に夫々郷土の風景、人情を歌ひ、餘ケ澤短歌會は森山孤蘭の青森市轉住により和船の發行中止。彌富破摩雄の清澄なる感動と優美なる表現、布地一郎の健康なる調子の歌があつたが布地一郎は岩手縣へ轉任した九年の終りに横山武夫が縣歌壇を評して「自己陶酔と事象の記述に過ぎぬ」と喝破して注目された。青森縣歌壇會は九年十月に青森、短歌大會を開催して彌富破摩雄、和山蘭の講演や集つた縣歌人等の互選や選者選あり、更に東奥文壇は縣歌人誌を特輯し、たが、この二つは縣歌壇に清新な刺戟を與へた點に於て特記されるべきである。

俳壇

論争や批評は淋しかつたが中市絶壁、齋藤草村、八重樫味三、夫、佐藤小羊子、長内萬吟子、等の研究發表、『青森縣教育』には佐藤一三の縣句集讀後感があり、東奥日報は縣俳句號、俳句大會等催し縣俳壇を網羅してよき刺戟を與へた、句集は青森縣句集第五輯、群鳥第一句集等刊行され、新しい結社としては花田哲行の主宰する『ぼそみち』が結

柳壇

ばれたが、概ね青森市内の活動淋しい、俳句の行事には恵まれた年であつたがその反響は不足で、寧ろその成果は本年に求むべきであらう、次に現在活躍してゐる結社は左の如くである。

松濤社(青森)創立十二年郷土俳句を標榜して、『寂光』及縣句集を公刊、同人福土松濤、高松玉麗その他。

ほそみち社(青森)石楠の流を汲む、『ほそみち』を毎月發行、花田哲行、齋藤草村その他。

十和田吟社(大鰐) ホト、ギスの流を汲む、『十和田』を發行、前年まで活躍した同人矢野蓬矢は九年夏青森を去る、同人増田手古奈、長内萬吟子その他。

鷹の會(弘前) 萩原井泉水の系統『群鳥』を發行、同人柳田流矢、竹内竹童その他。

どんぐり吟社(青森) 郭公の指導を受く、『雁』發刊、同人木立貴山その他。

ゆかり吟社(青森) 中立派、雁の姉妹篇『海霧』を毎月發行、同人田邊天涯、石川清洋その他。

青森十和田會(青森) 大鰐十和田吟社の流れ、毎月『銀嶺』

縣柳壇は東京、大阪、京都に隆盛ぶりを示してゐるが、九年前より稍沈滞氣味だつたと、ころ九年七月東奥日報社主催の青森縣柳大會が青森市公會堂に開催されて會する縣下の柳人八十餘名、東京川上三太郎、前田雀郎、白河の大谷五花村、北海道神尾三休、龜井晟修等の一流所が來合して盛會を極め、柳壇は再び隆盛になつてきた。本年度に於て縣柳壇より東京、柳研究の長谷川霜鳥、工藤甲吉、奥昭二の三名で不浪人、有石、蝶五郎、よし丸等の元老格と共に縣柳壇を奮負つてゐる。

東奥柳壇 小林不浪人の選句十句、推薦句一句を毎月發表。

山田よし丸、後藤長五郎、長谷川霜鳥等が中心となつて、毎月『みちのく』を發行及句會をやつてゐる。

青森川柳社 田澤有石を中心、同人藤崎、田名部、八戸行の同人をもつて、『川柳隊』を發行、同人川柳社 岡田稻人、福士

學藝・出版—東奥文壇及弘新文藝の状況

磨石、藤田郭子等、みちのく系八戸川柳社、小泉紫蜂等。三戸川柳社、松尾馬齋、奥昭二、小林洋二等。北柳吟社、北部保養院内にあり雑誌「甲田の裾」に依る。油川七色吟社、鶴谷登佐森、西田空輪坊等。藤崎紫柳社、福井軟水等川柳隊系。みちのく鶴田支社、宮本夢一文。

東奥文壇及弘新文藝の状況

縣文壇を如實に反映して傳統的に指導的な役割をつとめ、且新人登龍門として活躍してきた東奥日報日曜夕刊第四面の東奥文壇は今年度も確實な歩みを續けた。特に本年は紙面の大衆化をはかるために啓蒙的文章、讀物、創作等を多く載せ、短歌、俳句、川柳、都々逸、詩、民謡等五十餘から一圓までの賞金をかけて毎日夕刊へ掲載してきた。原稿紙五十枚内外の甲種創作は十年より廢止したが九年五月以降の入選者は

の二篇だが此の方は書く人も不足で縣文壇では未開拓の地たることを示してゐる。九年の夏から秋にかけては詩和歌、俳句の各特輯號を出し、それら一萬五千號記念事業の一として開催した青森縣短歌大會、同俳句大會、同川柳大會の收穫を掲載して左の講演筆記を掲げた。縣歌人に語る—和田山蘭—本居宜長の古體近體歌論—彌富破摩雄—鑑賞と批判—中市謙三—選後感—増田手古奈—新開と川柳—川上三太郎、川柳する心—前田雀郎。啓蒙的文章としては九年春に「春の講義」同年秋には「秋の親照」を特輯したが

謙三、縣句集第五輯—佐藤小羊子、批評の男前—平田小六、林專太郎の遺稿を讀む、三木正、短歌に於けるリアリズム—川崎陸奥男。量は不足だったが充實してゐた、十年からは「壁評論」も新設した。研究には新制約歌について—鳴海要吉文藝作品について—宮川儀逸、俳句と言葉—八重樫味三夫、背徳者と女性問題—宮川儀逸、近代俳句—八重樫味三夫、詩言と方言—戸謙三、文學と日本精神—山田實、中山泰山の俳道—八重樫味三夫、殊等あり例年に比して寂しく、殊に中央文壇で問題になつてゐる問題の反響は殆どなかつた。創作は前年に引き続き、陸盛で既述の當選諸作の外に主なものは

實、秋風日記、秋と周吉」の四篇掲載された。隨筆も盛んで量に於ては創作よりも多かつたが、この欄は作品は不足であつた、この欄は船水公明、一戸玲太郎、吹田秀三、本多徳治、棟方寅雄、館山幸子、柴田あき、佐藤一三、伊藤勝藏、丹羽洋岳、淡谷悠藏、和田山蘭、齋藤善太郎、下山俊三、竹内俊吉、伴信子、笹森壽子、鈴木三郎等の名があつた(詩歌俳句及川柳は別項)

術展覽會のために奥羽美術界に覇を唱へてゐるが、昭和九年度に於ても依然この状態には變化なく中央に於ても地方に於ても作家達は夫々に郷土のために強い活躍を示した。本年度に個人展を開催したのは下澤木鉢郎、松本滿史、安藤正雄等で、結社展では夢人社、躍洋社、弘工、青師、自然木社、純羊社、山人社等があつたこの外書道展(北日本及全國)寫眞展(青森市營林局)もあり賑やかであつたが、個人では今純三が昭和九年で「青森縣畫譜」百枚を完成したのは劃期的な業績であつた。

本縣出身の主なる美術家

日本畫

野澤如洋—日本畫壇の先輩—東京市芝公園十號地二天陽院内鳥谷橋山—廣業、雅邦に師事、東京市小石川區白山御殿町一〇七。須藤尙義—帝展入選、龍岬門下東京市豊島區千川町三ノ四三二八。竹森節堂—龍岬に師事、東京市王子區上十條町一〇一〇。福田秀鳳—日本畫會入選、弘前

市龜甲町 工藤清藏—龍岬門下、東京市荒川區日暮里町旭町二ノ一五八加増方 中村健之助—雅號旭洋、中郡西目屋村川原平 高橋竹年—古畫研究、個展數度 大坂市西區粉濱町四ノ五七 大高弘陽—松林桂月門、東京在住 成田太古—個展數度、滿蒙支那踏破、札幌市南九條西六ノ四三 須藤聖馬—如洋門、弘前市袋町一五 吉田小南—南畫、東京市中野區増ノ山一六 羽賀蓬洋—土佐繪、東京市荏原町中延八八 工藤青山—山水佛畫、弘前市川端町 山口鴻業—廣業門、橫濱市外保土ヶ谷町峰二〇三一 山崎文淵—寛政門、青森市米町一 工藤仙來—佛畫、弘前市北川端町 七尾英風—圓山四條派、八戸市寺橋町 石橋玉儼—玉章、王淵門、在八戸 寺島仙岱—雅號天眞、翁春童、弘前市茶畑町一〇

竹森華堂—弘前市本町一ノ一三山上魯山—魯仙に師事、在弘前松山玉泉—魯壽、勝峯門、在鯉ヶ澤 望月玉泉—在八戸 八戸鶴壽—在弘前 前田慶藏—帝展、太平洋展入選 東京市中野區上高田二ノ三六八寺本方 棟方寅雄—二科、春陽會其他、東京市足立區島根町九四五 小林喜代吉—帝展、東京市中野區江古田町四ノ一五四五 松本滿史—國展其他、東京市外松田町玉川學園 棟方志功—帝展其他、東京市中野區大和町一八〇 鷹山宇一—二科展其他、東京市日本橋區吳服橋橫町ビル平凡社 田澤八甲—帝展其他、東京市大森區馬込町東三ノ八四六 今純三—帝展、青森市造道字澤田四五 七尾善之助—帝展、青森市松森町五八 關彦四郎—弘前市在府町 下澤木鉢郎—帝展國展其他、弘前市田茂木町 橋本はな子—帝展特展、東京市世田ヶ谷區代田一ノ六四四 四七三

美術

本縣美術界は中央に日本畫、洋畫、彫刻等にわたつて、大家中堅を輩出してゐるためと、毎年秋青森市に開催される東奥美

藝・出版—美術—本縣出身の主なる美術家

學藝・出版

本縣出身の主な美術家... 佐野克洲、阿部宣七、千葉正三、赤石岩太郎、小山内久蔵、山本定吉、伊藤定五郎、盛國雪、瀧谷新吉、工藤廣海、杉田市太郎、工藤順三、來小學校、齋藤賢吉、東興展特選、高橋一智、奈良金一、高田三三、石橋一貫、高山文堂、高山松堂、教諭、住所は文堂翁に同じ

四七四

本間靜山、故取山翁の長男、青森在住、和田山蘭、高藤、柴舟に師事、歌人、東京府立川町、谷山春窓、成章、姫路市在住、中山香雲、草山に學ぶ、在青森、宮川隆治、逸仙、青森教諭、福士健、木蜂、青森教諭、谷口雲泉、故英堂氏長男、雲山に師事、東京工藝校教諭、高橋閑鶴、日本書道振作會無鑑査、弘前市元長町、岩谷青海、春海に師事、東京府在住、小野東泉、文堂、建山に學ぶ、北郡在住、高木眞明、書道塾を開く、小樽在住

縣名勝地展

東奥日報社では一萬五千號紀念事業の一として青森縣名勝地二十數ヶ所を縣出身在京美術家及縣内在住の美術家を動員して指定し、美術家からみた本縣風景地をものした繪畫の展覽會を九月八日より五日間青森市松木屋ギヤラリに開催した。出陣作は

八甲田山、淺蟲附近、田澤八甲、東嶽見ゆ、合浦公園、棟方寅雄、十和田の夕、鷹山宇一、大鰐温泉、泣面山、早春

第四回東奥美術展

本社主催東奥美術展覽會は昭和六年十月開催以來、連年本縣美術界に缺くことの出来ぬ一大年中行事となつたが、第四回展は昭和九年十月十四日から四日間青森市公會堂(第一會場)赤十字支部(第二會場)、松木屋ギヤラリ(第三會場)の三ヶ所に開かれた。殊に今年には本社一萬五千號紀念事業の一つとして特別力を入れ、前回の繪畫、彫刻、寫眞餘技の外に種目に書道

大鰐の山、下澤木鉢郎、晩秋の十三湯、下澤文平、曇る小泊、松木滿史、奥入瀬、紫明溪附近、辰五郎、湧き附近、棟方志功、奥入瀬、種差、福田寛、横内村附近、秋のすかゆ、西川正男、燕島、種差海岸、福勢喜一、目屋風景、龍飛燈臺、から、黒瀧俊雄、大鰐風景A、B、七尾善之助、淺蟲、野内山、合浦公園小景、藤本賢三、淺蟲公園、淺蟲眺望、大川通平、龍飛岬燈臺、油川飛行場、長内敬之助、その他、成田一成、濱田英一、齋藤英太郎、で最初の試みではあつたが、非常な人氣を呼び、賣價もみな二十圓以下だつたので相當の賣約濟を見盛況裡に閉會した。

本間靜山、故取山翁の長男、青森在住、和田山蘭、高藤、柴舟に師事、歌人、東京府立川町、谷山春窓、成章、姫路市在住、中山香雲、草山に學ぶ、在青森、宮川隆治、逸仙、青森教諭、福士健、木蜂、青森教諭、谷口雲泉、故英堂氏長男、雲山に師事、東京工藝校教諭、高橋閑鶴、日本書道振作會無鑑査、弘前市元長町、岩谷青海、春海に師事、東京府在住、小野東泉、文堂、建山に學ぶ、北郡在住、高木眞明、書道塾を開く、小樽在住

繪畫、尋一「穂つき」、榮校木村シゲ、「私の先生」、七戸校井置明子、「尋二」庭、淺蟲校刈谷京子、「センタク」、古川校古川初枝、「馬のせり」、五戸校輕米孝繁、「尋三」お山參詣、「時敏校齋藤秀治、「カナリヤ」、五所校原成田鐵夫、「教室」、古川校梅田いく子、「尋四」西瓜、「五所川原校鳴海キヤ、「父と七面鳥と鶏」、尾上校葛西忠男、「假裝行列」、五戸校岩淵惠子、「尋五」火事、「八戸校鳴澤善次郎、「風景」、古川校貝瀬ヒロ子、「尋六」家、「八戸校和田亘理、「高一」アメリカ人形、「大間校南春雄、「風景」、城内校新藤清志、「高二」無題、「浪打校佐々木義光、「瀧乾燥場」、「三本木校島崎弘、「三橋のある風景」、向陽校山本傳藏、「風景」、男附校鈴木武美、書奥内校高二黒石良太郎、其町校尋六平田祐三郎、石川町尋五工藤政明、其町校尋四宮本正、男

學藝・出版——第四回東奧美術展

附校第一鳴海テル、青森新町校
第一、柿崎チヨジ、同佐々木ミ
キエ。
この中一展洋畫の田村倬、
彫塑の齋藤賢吉の兩君は今回で
特選二回を勝ち得たものである

東奥美術展の小學校展は例年
縣圖畫教育界の全貌を示し、且
その進歩を最も直接に反映
するものとして注目され、各小
學校ではその入選率増加に躍起
となつてゐるが、今回の校名別
入選點數は次の如くとなつてゐ
る。

- 浪打校十六點△橋本校十五點
△男附校二十六點△浦町校五
點△新町校二十點△長島校十
二點△女附校二十九點△古川
校三十五點△沖館校八點△箕
町校十六點△時敏校七點△八
朝陽校九點△長峰校七點△油
戸校二十點△小湊校三點△油
川校六點△三厩校七點△向陽
校五點△明誠校三點△六郷校
九點△浪岡校五點△尾上校十
四點△藤崎校五點△黒石校五
點△黒石女校四點△五所川原
校五點△榮校五點△板柳校八
點△五所川原女校十二點△城
内校十五點△三本木校五點△
野邊地新町校五點△七尾校十
四點△田名部校七點△大間校

十三點△五戸校十四點△三戸
校七點△白銀校、横内校、大
野校、淺蟲校、造道校、大歸
校、藏館校、後湯校、古間木
校、大湊校各二點△和徳校城
西校、富榮校、原別校、荒川
校、濱館校、野澤校、日沼校、
石川校、淺瀬石校、野里校、
名久井校各一點

かく嚴選された作品は青森市
公會堂、赤十字支部及松木屋ギ
ヤラリに陳列を終へ、愈々十四
日蓋あけとなつた。初日は秋晴
れ、一日目は曇り、三日目は細雨
四日目は晴れたが、何れの日も
落着いた觀賞にふさはしく、縣内
の各高官から實業界の人々、孫
に手を引かれた爺さん婆さん達
まで一日を心ゆくまで、書に畫
に、彫塑に餘技に酔ひ、各學校
團體また踵を接して相次ぎ、四
日間の會期中は深い感激と藝術
の醸す崇高な空氣を縣下に與へ
て十七日閉幕した、會期中の入
場者は

- 初日 一二二六名
二日目 二一四一名
三日目 四五一五名
四日目 一六八六名
計 九五六三名
で前回の總入場者七千七百八十
六名を遙かに凌駕し、一年まし

に東奥美術展がつくつてゆく美
術愛好者を數に於て如實に示し
てゐる。尙會期中
初秋の雲谷、野内風景、津輕
の秋、やな、金魚と子供、浪
打風景、風景
の六特選畫のブローマイドを作製
して一枚頒布したが何れも好評
を博して賣れ行き良く、十四日
午後五時から光畫藝術に關す
る寫眞座談會を三浦甘精堂に開
催した。

出品目録

- 依頼作家展
洋畫
（高原の秋、葛街道、葛林道）
（七尾善之助、禮文島風景、靜
物）
（下澤文平、伊豆風景、憩
ひ、肖像、靜物）
（松木滿史、
（八甲田山中、風景、ふるさと
の四月）
（下澤木鉢郎、山村、
花、曇日、婦人像）
（前田慶藏、
（初秋、秋郊、樹々、百日草）
棟方寅雄、（靜物、花）
橋本は
な

斧、（子供）
工藤敏三、（猿）
三國慶一、（よたか、犬）
工藤
繁造、（レアー、こゝろさき、かは
うそ）
古藤正雄、（軍鶏）
森
英之進、（牛、李園）
中野桂樹
餘技展
（不動尊王、山水）
鈴木三伯、
（秋深し、對牛、冬の夜）
野坂
十二樓、（五重塔）
大室勝四郎
（栢樹、藤の花）
成田貞藏、日
本畫三點
伊藤竹馬、（日本畫）
西脇新治、（書、秋水）
市田忠
竹三郎、（だるま二點）
市田忠
四郎、（だるま）
大平漁樵、（船
早春）
渡邊藏助、（ひまわり、
奥入瀨溪流）
越後谷都哉子、
繪皿五點
棟方寅雄、（合浦の
夏）
野呂匡

一般展

- （酒場、風景）
岡田武、（十三
湖風景、新田地方）
川崎正人、
（郊外風景）
田村清、（郊外風
景）
佐藤米次郎、（河岸、會堂
の朝、駒）
關野準一郎、（ねぎ）
大平邦夫、（雀A、同B）
元
木與志男、（自畫像、M氏の像、
蔬菜）
福島常作、（風景）
和泉
勇、（早春）
石川利一、（尻屋崎
風景）
本山映象、（變電所裏、
沙原、午後）
村林正藏、（松と
噴水）
有田勲、（風景）
淺見仁
平、（靜物）
櫻田志郎、（郊外）

◇日本畫

- （秋庭、牡丹）
杉田旭峰、（蟲の
聲）
福土まつゑ、（谿山泉韻）
中村旭洋、（山の夕ぐれ）
工藤
富雄、（牽中花雀）
一戸誠、（惜
春）
野呂匡、（都の聖堂）
齋藤
輝光、（境内）
平尾正三郎、（鶴
冠）
伊藤勝四郎、（夕景、花鳥）
佐々木俊雄、（やな）
森下善
作、（朝、レビニー）
高屋敷達
泉

◇彫塑

- （習作、座像、裕子等身像）
齋
藤賢吉、（農婦）
工藤順三、（お
やつ）
乘田善太郎、（鳥）
元木
與志男、（裸婦習作）
青木伸浩
（しゃばん玉、鴉栗鼠）
石川利
一、（猫を描ける少女）
村上文
雄、（童女とリナ）
福井健造、
（聲好）
千葉正三、（黎明）
長
谷川悟、（七面鳥）
工藤廣海、
（小鳥）
森保。

◇洋畫

- 青師、（風景）
河野賢一、（靜
物海へ出る、風景）
教賀練郎、
野内風景）
徳差健三郎、（農場
附近、靜物）
若佐勝榮、（海岸
跨線橋、風景）
工藤信吉、（夕
張風景）
根岸善藏、（花壇、赤
い屋根）
佐々木金一、（風景）
福田榮藏、（無題A、B）
神榮、
（新しい道）
花田忠吉、（町はづ

弘中

- （風景、坂道）
佐々木
四郎
野中、（郊外）
野坂伸夫、（小
路）
堀越義男、（風）
野村四郎
（樹の間）
鈴木榮、（靜物）
阿
部久雄、（野邊地風景）
沖田白
雄、（少女秋、綠樹）
鈴木一芳、
（無題）
阿部久雄、（寄宿舎）
佐々木一郎、（烏帽子岳）
小坂

學藝・出版——第四回東奧美術展

- 工藤良三、（少女立像、ブロード、
海邊のO氏夫人）
齋藤英太郎、
（花壇のある風景、緑の澗谷）
田向竹雄、（初秋の雲谷）
小泉
祥衛、（境内、御幸公園、山村）
黒瀧俊雄、（彌小屋）
秋元奇
弘、（少女像）
石岡透、（果物）
安藤金吾、（靜物）
川村精一
（林檎）
鈴木直太郎、（風景B）
加藤亨、（或日曜の午後、ばら）
齋藤英太郎、（若空）
高谷佐武
郎、（斜陽）
中村牧平、（橋のあ
る風景、五重の塔のある風景）
宮本千代一、（すいれん、裏通
り、花）
西川正男、（日ざかり
の庭丘の上の校舎）
進藤正一
郎、（曇日秋景、花）
奥村謹二
（島の唐黍、松林小松の群生）
八重垣逸郎、（風景）
若井節
子、（郊外風景）
玉熊正雄、（く
だもの籠）
藤本賢三、（橋下の
初秋）
高橋恒夫、（海邊の春）
大川通平、（靜物）
中澤英三、
（風景、起重機のある風景、花
壇）
木村六郎、（靜物、ウラシ
マ）
葛西喜十郎、（靜物、初秋
の村）
加藤勇、（桐の木、子供、
花）
佐藤まこと、（犬）
澤田文
比古、（白壁のある風景）
工藤
良吉、（女學生）
西澤俊藏、（池
ばた）
山根祐三郎、（祭典の日）
長内敬之助、（マリア像）
江
邊勇雄。

圭二。

青商 (奉安庫、縣廳、船) 西村敬一、(埋立工事附近、臨港倉庫附近、料理場) 若山善光、(小路) 柿崎繁、(公會堂附近、八戸風景) 成田武智男、(風景) 齋藤章、(花) 赤坂正、(岐路) 永澤一郎。

木中 (風景) 三上光淳、(風景) 1、2、3 高谷富夫。

弘工 (教會堂) 飯塚生、(風景) 鈴木正治、(風景) A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、AA、AB、AC、AD、AE、AF、AG、AH、AI、AJ、AK、AL、AM、AN、AO、AP、AQ、AR、AS、AT、AU、AV、AW、AX、AY、AZ、BA、BB、BC、BD、BE、BF、BG、BH、BI、BJ、BK、BL、BM、BN、BO、BP、BQ、BR、BS、BT、BU、BV、BW、BX、BY、BZ、CA、CB、CC、CD、CE、CF、CG、CH、CI、CJ、CK、CL、CM、CN、CO、CP、CQ、CR、CS、CT、CU、CV、CW、CX、CY、CZ、DA、DB、DC、DD、DE、DF、DG、DH、DI、DJ、DK、DL、DM、DN、DO、DP、DQ、DR、DS、DT、DU、DV、DW、DX、DY、DZ、EA、EB、EC、ED、EE、EF、EG、EH、EI、EJ、EK、EL、EM、EN、EO、EP、EQ、ER、ES、ET、EU、EV、EW、EX、EY、EZ、FA、FB、FC、FD、FE、FF、FG、FH、FI、FJ、FK、FL、FM、FN、FO、FP、FQ、FR、FS、FT、FU、FV、FW、FX、FY、FZ、GA、GB、GC、GD、GE、GF、GG、GH、GI、GJ、GK、GL、GM、GN、GO、GP、GQ、GR、GS、GT、GU、GV、GW、GX、GY、GZ、HA、HB、HC、HD、HE、HF、HG、HH、HI、HJ、HK、HL、HM、HN、HO、HP、HQ、HR、HS、HT、HU、HV、HW、HX、HY、HZ、IA、IB、IC、ID、IE、IF、IG、IH、II、IJ、IK、IL、IM、IN、IO、IP、IQ、IR、IS、IT、IU、IV、IW、IX、IY、IZ、JA、JB、JC、JD、JE、JF、JG、JH、JI、JJ、JK、JL、JM、JN、JO、JP、JQ、JR、JS、JT、JU、JV、JW、JX、JY、JZ、KA、KB、KC、KD、KE、KF、KG、KH、KI、KJ、KK、KL、KM、KN、KO、KP、KQ、KR、KS、KT、KU、KV、KW、KX、KY、KZ、LA、LB、LC、LD、LE、LF、LG、LH、LI、LJ、LK、LL、LM、LN、LO、LP、LQ、LR、LS、LT、LU、LV、LW、LX、LY、LZ、MA、MB、MC、MD、ME、MF、MG、MH、MI、MJ、MK、ML、MM、MN、MO、MP、MQ、MR、MS、MT、MU、MV、MW、MX、MY、MZ、NA、NB、NC、ND、NE、NF、NG、NH、NI、NJ、NK、NL、NM、NN、NO、NP、NQ、NR、NS、NT、NU、NV、NW、NX、NY、NZ、OA、OB、OC、OD、OE、OF、OG、OH、OI、OJ、OK、OL、OM、ON、OO、OP、OQ、OR、OS、OT、OU、OV、OW、OX、OY、OZ、PA、PB、PC、PD、PE、PF、PG、PH、PI、PJ、PK、PL、PM、PN、PO、PP、PQ、PR、PS、PT、PU、PV、PW、PX、PY、PZ、QA、QB、QC、QD、QE、QF、QG、QH、QI、QJ、QK、QL、QM、QN、QO、QP、QQ、QR、QS、QT、QU、QV、QW、QX、QY、QZ、RA、RB、RC、RD、RE、RF、RG、RH、RI、RJ、RK、RL、RM、RN、RO、RP、RQ、RR、RS、RT、RU、RV、RW、RX、RY、RZ、SA、SB、SC、SD、SE、SF、SG、SH、SI、SJ、SK、SL、SM、SN、SO、SP、SQ、SR、SS、ST、SU、SV、SW、SX、SY、SZ、TA、TB、TC、TD、TE、TF、TG、TH、TI、TJ、TK、TL、TM、TN、TO、TP、TQ、TR、TS、TT、TU、TV、TW、TX、TY、TZ、UA、UB、UC、UD、UE、UF、UG、UH、UI、UJ、UK、UL、UM、UN、UO、UP、UQ、UR、US、UT、UU、UV、UW、UX、UY、UZ、VA、VB、VC、VD、VE、VF、VG、VH、VI、VJ、VK、VL、VM、VN、VO、VP、VQ、VR、VS、VT、VU、VV、VW、VX、VY、VZ、WA、WB、WC、WD、WE、WF、WG、WH、WI、WJ、WK、WL、WM、WN、WO、WP、WQ、WR、WS、WT、WU、WV、WW、WX、WY、WZ、XA、XB、XC、XD、XE、XF、XG、XH、XI、XJ、XK、XL、XM、XN、XO、XP、XQ、XR、XS、XT、XU、XV、XW、XX、XY、XZ、YA、YB、YC、YD、YE、YF、YG、YH、YI、YJ、YK、YL、YM、YN、YO、YP、YQ、YR、YS、YT、YU、YV、YW、YX、YY、YZ、ZA、ZB、ZC、ZD、ZE、ZF、ZG、ZH、ZI、ZJ、ZK、ZL、ZM、ZN、ZO、ZP、ZQ、ZR、ZS、ZT、ZU、ZV、ZW、ZX、ZY、ZZ。

(初秋) 葛西ふじ、(郊外) 齋藤トミ。

東奥家政 (曇日の裏街) 工藤光枝、(風景) 畑井トミエ。

夜中 (寺院の裏) 藤林安榮

寫眞展

(秋雨にうたれて) 大山四郎、(山の朝、水温む) 牧田富藏、(雪陵) 笹森秀雄、(街頭スケッチ、水と遊ぶ) 窪田完三、(夕雲、海邊、冬) 小館善治、(碓泊、出港) 西塚政武、(川の冬、郊外風景) 三浦敬三、(眞夏の川邊) 堀川永作、(T氏の像) 松田精一、(遠望、渚) 安田正、(スケッチ) 松田精一、(夜習) 末次南陽、(斜影、朝の河面) 金澤五六、(波) 柿崎勇治、(無題) 寺島克朗、(國の光) 後藤惣吉、(タンクの印象) 廣谷友吉、(埋立工事) 柿崎勝光、(燈臺、秋深し) 鎌田彦一、(作業、牡丹) 久富榮次郎、(夕暮、水影、午砲臺と子供) 佐藤淨、(冬) 高橋孝至、(廢鐵、湖の春) 山山作一、(炭燒の朝) 福岡基善、(笑顔) 金坂大三郎、(湖) 春山通正、(機關車) 山内勝榮、(山口) 奈良春芽、(無邪氣な愛兒) 三浦秀造、(海邊の

風景) 川口稔、(日影) 成田善三郎、(無題) 齋藤華、(雨後の十和田湖) 金川鐵男、(冬の風景) 榮元喜八郎、(八甲田) 西川榮一郎、(山村風景) 高橋耕二、(磯の朝) 三國精一、(郊外) 中西幹七、(秋の暮れ) 菊池孝次郎、(街頭スケッチ) 佐々木梯三。

特別出品 (廣告寫眞、無題) 石川定義、(お祭情趣、港風景) 小島平八郎、(梵珠山の秋、遠足) 淡谷良一。

學術

本縣湖沼に新説

恐山湖成層の特殊性 東京文理科大學講師吉村理學士は昭和九年八月下北郡恐山湖實地調査をなしたが、その結果恐山湖の成層状態は普通湖沼の成層と相反する現象を呈してゐることを発見した。即ち吉村氏の研究によれば、恐山湖の特殊性は、一、無機酸の酸性湖であつて、斯種の湖沼は全國に多くないから有機酸の湖沼との比較研究上興味が多いこと。

二、酸性湖に拘らず生物が比較的三、酸度が割合に一定してゐる

四、水色並に透明度に差異が認められる

等であるが、特に注目すべきは同湖の成因が噴火口である故に、湖底から冷たい淡水は絶對にないものとされてゐたが、それを裏切つて、周圍に無数の温泉が湧いてゐるのに湖底からは多量な淡水の冷泉が湧出してゐる。例へば湖内のある個所の如きは深度十五米位の湖底に、淡水が湧出して、深度十二米乃至十三米を境に上下の層が水温酸度鹽分に於て全く異なつてゐる。即ち上層は温度も高鹽分酸度をふくみ生物棲息するに對し下層は冷泉と上から流れ来る温泉と合して中性になつてゐる。泉と合して中性になつてゐる。泉と合して中性になつてゐる。泉と合して中性になつてゐる。

によつて提起され、學界の好トピツクとなつた。水河否定説をとるに至つた吉村理學士は昭和八年十二月の實地調査をなした。九年に入つては今村理學士と前後し七月初再調査研究をなしたが、その結果十二月湖は削痕を有してゐるので、之によつて水河の遺跡の證據とも見られるが、水河説を強固にする他の證據はなく、又削痕も水河に起因するかは疑はしい、然しその成因は何であるかについては未だ發表することは出来ないといふ。兩學士共一致したが、吉村理學士は實地調査により十二月湖の成因を湖盆形態に置く新説を發表し、九年末著書として發表したが之に對する水河説論者の態度が注目されることとなつた。

「うぐい」は棲息出来ないといはれてゐるので、その研究は學界の注目を集めてゐる。

海猫の移動棲息を發見

八戸高女校教諭小松正男氏は農林省依託により天然記念物として指定されてゐる八戸市燕島に棲む海猫の生態の研究に從事してゐたが、昭和七年七月燕島といふ新事實を發見した。これは即ち昭和二年以來鮫町青年團が農林省依託により海猫の飼育標識を附して放してゐたことにもとづき實證を得たもので、それによつて燕島は、東京、福岡、長崎、鳥取、神奈川、北海道の各地に移動棲息してゐるが、判明した限りでは故郷燕島棲息が最も多いことが明らかとなつた。

上の重要な位置にあること、上計を中央水産試験場に委嘱出來上つたが、落成の晩は淺虫水族館と共に水産青森縣を象徴する文化機關として一般に喜ばれることであらう。

青森縣恩會學術研究補助

仙臺市財團法人青森縣恩會は昭和十年三月五日夜評議員會を開き、青森縣の學術研究を促進するに努め、その補助を發見したが、その中本縣關係者及研究題目、補助金額は左の通りである。

弘前高女校教諭小岩井兼輝 (研究題目津輕泥炭構成百圓)

同校長谷川誠治 (同源氏物語の語學的九百圓)

青森縣立教諭荒川謙治 (同青森縣下北より秋田縣に至る地震帶に添ふ層層の分布に就いて百圓)

八戸高女校小松正男 (同青森縣八戸市鮫町燕島に於ける海猫の發生學的並に生態學的的研究百圓)

青森縣博物館開館

本社は、本紙一萬五千號に達したるを記念し、青森縣の文化にいさゝか貢獻したい意金より種々の事業に平行して青森縣

博物館開館を計畫した。同博物館の目的は、青森縣に棲息する、また自生する動植物並に石、化石類、及びその標本類を一堂に集め、以て博物知識の普及、之によつて愛護の思想を涵養し、之を以て一層吾が郷土に對する認識を新にし、延いては各種産業の發達助長と縣民の福祉健康増進に資することにあつた。而して縣警察部、學務部、水産試験場、青森縣林局、縣博物館研究會の援助の下に各種資料の蒐集に努め、殊に動植物資料は縣下一般に出品を勧誘した。

大會は昭和九年九月七日より十日間青森公會堂に開催多大会結果を収めて閉會した。大會展覽點數内譯は左の通りである。

動物 △哺乳類 二十點 △鳥類 四十八點 △魚類 二十六點 △兩棲類 十三點 △甲殼類 五點 △貝類 十點 △爬虫類 九點 △昆蟲類 百二十六點

植物 △歸化植物 三十一點 △森林植物 百八點 △水生植物 二十點 △菌類 四十八點 △其他 四十點 △有毒植物 三十三點 △高山植物 二十九點

植物 三十一點

學藝・出版——主なる縣人刊行物——縣下發行新聞雜誌調

Table listing various publications, authors, and publishers. Columns include title, author, publisher, and date. Includes titles like '青森縣木村時報', '青森縣土木公論', '青森縣支那部', etc.

縣出身彫刻家入選 狀況

Table listing sculptors from Aomori Prefecture who were selected for an exhibition. Columns include name, birth date, and location. Includes names like '杉田市太郎', '千葉正三', '古藤正雄', etc.

學藝・出版——主なる縣人刊行物——縣下發行新聞雜誌調

趣味娛樂

演藝

九年度の青森演藝界

昭和九年度の青森演藝界は相當賑やかなものがあつた、殊に此の一年間を通じて最も我々の印象に残つてゐるのはレコードで馴染を有してゐる連中が續々で青森を訪れたことである、浪曲では人氣者の壽々木米若が二、三回やつて来た、又舞踊の石井三郎も三回訪れた、青森縣が生んだ舞踊家江口隆哉夫妻、アメリカ歸りの川畑文子、小唄勝太郎、徳山穂等續々青森に公演し又水谷八重子、梅村蓉子、澤村宗十郎一座が來演して演藝界に刺戟を與へた。

青森演藝界に二十餘年の馴染を有する遊樂座が種々の事情から演藝界より姿を消したことは淋しい、昭和九年春歌舞伎座が映畫常設館へ轉向し一沫の淋しさを與へてゐるところへ又復遊樂座の立ち消えとなつて、青森から純演劇場が無くなつた。

- 五月 壽々木米若(浪曲、遊樂座)、石井漢一行(舞踊、同)
- 六月 江口隆哉、宮操子(舞踊、遊樂座)、松旭齋天勝(奇術、同)、竹澤龍造一座(娘歌舞伎、弘前座)
- 七月 水谷八重子(歌舞伎、遊樂座)、水藤錦穂(琵琶、同)、川畑文子(舞踊、同)、敷島大藏(浪曲、同)
- 八月 澤村宗十郎、澤村田之助(演劇、弘前、五所川原、青森)
- 九月 福井巖、福井茂一行(舞踊、歌舞伎座)
- 十一月 梅村蓉子(歌舞伎、遊樂座)
- 四月 石井漢、崔承喜、石井みどり(舞踊、歌舞伎座)、川畑文子、古賀政男(歌劇、歌舞伎座)

映畫

九年度の青森映畫界

昭和九年五月から十年四月にかけての青森映畫界は邦畫に洋畫に宛然トキーキ氾濫の一年であつた、眞正面から吹き捲くる

凶作の風をも物ともせず各館夫々秘策を練つて強力陣容を据ゑて頑張り通した、その結果秋の終り頃に入つて幾分ツカレを見せたが一般に物凄しい向上を示した、観客の映畫を見る眼も著しく肥えて今ではどんな宣傳にも決して乗らないといふところまで進んで来た、料金の如何は問題でない寫眞の質の善悪を吟味した後ならどんな高い料金でもどしどし出掛けるといふまでになつてゐる、観客の映畫の眼が肥えると共にサイレントからトーキーへと移つてゐるが之が興行者に「トーキーなら何んでも客を呼べる」と誤認された、め單に「音を出す寫眞」に過ぎぬ様な極く質の悪い寫眞さへも「トーキーなり」としてヒットされたりした、その結果は多くは見事に失敗したが中には日活の「佐渡情話」の如く浪曲吹込みの壽々木米若の名で意外の人氣を呼んだりしたのもあつた。

先づ九年度の邦畫と洋畫について素描して見よう。

洋畫界：観客心理を巧みに捉へて作られてゐるアメリカ映畫は青森に於ても相當喜ばれてゐるが鋭い観賞眼を持つ客の多くなつた最近ではガチャツいた氣分を多分に持つアメリカ映畫よりも、幾分暗い感じはするがどことなく地味なそして何かしら我々の胸に迫る力を持つ歐洲モノの方が段々喜ばれる様になつた、勿論アメリカ物にしたところで、迫力の強い寫眞も入るが、これまでの統計によると我々の實際生活から遙かにかけ離れた寫眞が多い、最近氣持ちよく見られたのはアメリカ映畫では「午後」の「生活の設計」コ社の「夜の出来事」、歐洲物では「ロ」の「狂亂のモンテ・カルロ」、「激情の嵐」、ヴァンダルの「にんじん」、ブリテッシュの「朱金昭」位のものだらう。

邦畫界：外國映畫に較べると技術の點に於て相當のハンデキヤップが附されてゐるため洋畫のよく分る様な客にとつては幾分の物足らなさを感ぜざるが外國映畫のそれに較べると言葉がよく分るといふところに強味を有する譯である、日本映畫も最近では非常によくつて來て青森で封切られた中でホンの二、三ではあるが洋畫のどれよりも劣らないといふ傑作さへ出てゐる、たゞ「トーキー時代」の波に乗つて我れ先きにと狼狽して製作し出した映畫社の寫眞

は見るに堪へないものが多い、「ムツツリ右門」で人氣のある寛壽郎までが遂に口を開いてトキー界に乗り出して來る始末なので之等が競争的に青森でヒツトされるんだから一寸顔負けがする、無闇にトキーを振り廻したところでは青森の観客は昔の程幼稚ではない、九年度の邦畫で見應へたものといへば蒲田の「隣りの八重ちゃん」、新興の「月よりの使者」といふところだらう。

主なる上映々畫

(括弧内の青は青森館、文は文藝館、歌は歌舞伎座、常は常設館、電は電氣館、中は中央座)

◇昭和九年五月

長二郎、林敏夫、下加茂音響「初陣」(青)、カンター、ユナイ「ト日本版」(カンターの闘牛師) (同)、鈴木澄子、健次「俠艶録」(文)「コラス、ムーア、RKO」(文)「世界大洪水」(青)、傳次「日本版」(世界大洪水) (青)、國太郎、日活發聲「丹下左膳」(中)「常」ヤング、フオックス「日本版」(アダベストの動物園) (文)「入江、森」(春告鳥) (同)、海江田、妙子「街の灯」(電)「栗島、大日方、松竹音響」(歡樂の夜は更けて) (青)「竹内、坪内、松竹音響」(街の流れ鳥) (中)

- (同)、水久保、蝶子、松竹發聲「嵐の中の處女」(同)、ゲイブル、メトロ日本版「紅塵」(常)、クライプ、ブルック、フオックス「日本版」(カヴァール・ケード) (文)
- ◇六月
- 好太郎、松竹發聲「さくら音頭」(青)、長二郎、敏子、松竹發聲「鯉名の銀平」(同)、五十鈴、千惠藏「武道大鑑」(常)、入江、小杉「神風連」(文)、澤蘭子、松竹發聲「想出の唄」(青)、小杉、かほる「心の波止場」(文)、水久保、竹内「或る母の姿」(青)、國太郎、百々之助「淺太郎赤城風」(常)、森、由利「夜光珠」(文)
- ◇七月
- 水久保、伏見、松竹發聲「玄關番とお嬢さん」(青)、アルバリス、ステン、ウファ「日本版」(狂亂のモンテ・カルロ) (同)、岡田、及川「ラ・ムール」(同)、阪妻、河内山宗俊「文」、寛壽郎「劍鬼三人旅」(電)、ラフト、バ「社日本版」(ボレロ) (青)
- ◇八月
- 岡、絹代、松竹發聲「婦系圖」(青)、エノケン、早智子、PCL發聲「エノケンの青春醉虎傳」(同)、千惠藏、高津、日活發聲「直八子供旅」(常)、入江、高田「月よりの使者」(文、電)、阪妻「天狗の安」(文、電)、マーシユ、

アイラリス、フオックス「日本版」(オーバ・ゼ・ヒル) (青)、シドニイ、バ「社日本版」(ジエニイの一生) (文)、岡、絹代、松竹發聲「東洋の母」(青)、傳次郎、千惠藏、日活發聲「忠臣蔵」(常)、ボイド、RKO「日本版」(幸運の悪魔) (文、電)、阪妻「青年」(同)

◇九月

藤井、松竹音響「大學の若旦那武勇傳」(青)、ヤニングス、ステン、ウファ「日本版」(激情の嵐) (同)、大二郎、春代「三家庭」(常)、千惠藏「珊瑚重太郎」(同)、高田、森「鐵の街」(文)、ロベル、リナン、ヴァンダ「ル發聲」(にんじん) (青)、傳明、五十鈴「潮」(常)、ハワード、ワーナー「日本版」(戦線の嵐) (文、電)、プリンシパル音響「メキシコの嵐」(青)、千惠藏、五十鈴「風流活人剣」(常)、パーセル「メス、ギッシュ、ユナイ」(音響)「東への道」(文、電)、スチユアート、ヴァーサル「日本版」(透明人間) (歌)

◇十月

絹代、岡、松竹音發「地上の星座」(前後) (青)、クーパー、バ「社日本版」(或る日曜日の午後) (同)、傳次郎、日活發聲「唄祭三度笠」(常)、マルクス兄弟、バ「社日本版」(我輩はカモである) (中)、クーパー、ホプキンス、

パ「社日本版」(生活の設計) (同)、ハイヴエイ、ウファ「日本版」(會議は踊る) (青)、レニ、リフエン「SO氷山」(中)、バラマウント「日本版」(不思議の國のアリス) (同)、キープラ、トビス「日本版」(南の哀愁) (青)、ウィーク、バ「社日本版」(ゆりかごの唄) (中)、プレジヤン、パテナタン「日本版」(ト) (同)、ピアリイ、クーパー、二十世紀映畫「バワリイ」(青)、鳥耕二「消防手」(文)、ピアリイ、メトロ「日本版」(酔ひどれ船) (青)、大二郎、五十鈴、日活音響「愛憎峠」(常)

◇十一月

好太郎、敏子、松竹發聲「冬木心中」(青)、鈴木澄子「おせん」(文)、ホプキンス、バ「社日本版」(暴風の處女) (歌)、クロスマン、フオックス「日本版」(戦争と母性) (電)、カローフ、バーサル「日本版」(黒猫) (常)、小杉、高田「河の上の太陽」(文)、逢初、大日方、松竹發聲「隣りの八重ちゃん」(青)、ウインク「ハウス、ウファ」(同)、菊太郎、絹枝、日活發聲「槍供養」(常)

◇十二月

クロフオード、メトロ「日本版」(今日限りの命) (青)、杉、山路、

趣味娛樂——聯珠——麻雀——將棋

阿部義雄、荒關豊七、蛭名直太郎、野呂專吾、傍島正守

上北郡

△三木木園棋研究會
事務所 細川志郎宅△行事 毎週日曜日例會、年一回乃至二回大會開催△會員 三十五名△師範 二段菅原一△世話役 細川志郎、渡邊健、馬場安太

下北郡

△田名部圍碁會
事務所 田名部町明神町十七番地△役員 關信應、吉川喜三郎、山中眞雄△會員 二十名
△田名部圍碁俱樂部
會員 十五名△幹事 關信應、吉川喜三郎、山中眞雄△創立 大正七年十月

三戸郡

△三戸圍碁研究會
事務所 三戸町二丁目立花甚四郎宅△設立 昭和七年五月△會長 三級堀口留吉△副會長 九級大垣俊雄△常任幹事 六級高井末太郎△會員 十八名

聯珠

青森市

△東北聯珠社青森支部
事務所 古川猪股孫太郎方△創立 昭和九年二月十日△會員 四十三名△顧問 鈴木敬一、赤平平之進、須藤信一△師範 四

事務所 市ノ町政友會南郡分所内△會員 三十餘名
△大鰐將棋同好會
事務所 大鰐町増田義男方△會員 四十三名△會長 増田義男、副會長 山本多作△創立 大正十五年六月

△本郷將棋愛好會
事務所 五郷村本郷林乙次郎方△會員 三十七名△會長 津島義江、副會長 林乙次郎△世話係 津川松五郎、小野龜春、林恒雄、小笠原仁三郎

△小泊將棋研究會
事務所 大和田初太郎方△會員 十八名△指導者 准初段大和田初太郎

△嘉瀬將棋俱樂部
事務所 須崎由次郎宅△設立 昭和三年八月十七日△會長 原田耕造△副會長 鳴海忠藏△會計 須崎由次郎△指導者 野呂喜五郎、櫛引藤吉郎、山中福次郎、會員 三十八名

△三本木天狗俱樂部
事務所 一丁目柴田雅通方△行事 一ヶ年春秋大會開催△會員 四十五名△會長 柴田雅通

△田名部將棋俱樂部
事務所 田名部町本町四十八番

趣味娛樂——音樂——音樂の團體——ラヂオ

段高橋昭山、二段横岡信夫△會長 林豊次郎△幹事 間山義佐男、鈴木寛、澤田正國、猪股孫太郎、井上平治△會計 猪股武雄

青森縣

△青森縣棋俱樂部
事務所 古川山田澄月方△設立 昭和六年八月△役員 山田澄月、眞崎梅石、間山義雄

弘前縣

△弘前縣棋俱樂部
事務所 新田川町兒玉幽石方△行事 毎月五日、十五日、二十五日例會開催△會員 二十名△會長 小川雪山△有段者 八段木村弘石、四段相澤伊水、初段小川雪山、兒玉幽石、大和田弘州、花田沈月

南津輕郡

△黒石聯珠會
會員 二十餘名△役員 境敬藏、木村重雄、長谷川忠藏、工藤親作、高橋六郎

上北郡

△三本木聯珠會
事務所 一丁目高山亘石方△行事 毎月十七日例會、二月十日、三月十日例會、三月十日、四月十日例會△會員 三十餘名△會長 江渡梅三郎△副會長 奔駝聯心△相談役 菅原光昭△幹事 堀地彌平、三浦美登、鳥谷部松四郎

△田名部將棋クラブ
會員 二十名△役員 笹澤善八、飯田文次郎

△三戸將棋同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

△三戸町同好會
事務所 三戸町八丁目米田起六氏宅△設立 大正元年△會長 三級格米田起六△副會長 初段格森田瀧三郎△常任幹事 三級佐藤常太郎、二級照井友太郎、一級佐々木金次郎、二級若松幸司、一級川村久四郎△會員 數四十三名

東津輕郡

△油川町麻雀クラブ
事務所 油川町木村キヲ方會立 昭和九年十一月三日
△田名部麻雀俱樂部
會員 十五名△役員 山中眞雄、相馬謙次、杉山伊三郎△創立 昭和五年八月一日

將棋

各地の團體及有段者
大會記録
△青森棋友會
事務所 旭町鈴木莊方△創立 昭和九年一月二十五日△會員 十六名△會長 大川熊五郎△副會長 大瀨忠助△幹事 鈴木莊、藤林英祐、阿保長藏、山澤鶴松
△青森將棋俱樂部
事務所 浦町須藤久次郎方△會員 百十餘名△行事 毎月第二日曜例會開催、浅虫及野邊地に支部置く△會長 寺井俊夫△顧問 杉野岩太郎△會主 須藤久次郎△有段者 六段杉野岩太郎、三段伊藤友太郎、武田彌一郎、四段川村東平、石井萬之助、二段須藤久次郎、藤林兼吉、鶴岡勝太郎、初段大川直藏、鳴海正雄、岡井高治、大村邑吉、鈴木稔

青森市

△山本ハローモニカバンド
會員 三十七名△指揮者 山本兵三、(青森)竹内清三(弘前)△會長 山本兵三△幹事長 竹内清三△幹事 安保義雄、福川亭、橋本平吉、木村福一、高田竹太郎、平山正治、村上專助、加藤勇三郎△昭和九年十月五日青森公會堂で關西風水害義捐金募集の題で第一回演奏會を開催した。

△八戸市
△オーケストリーナ・ア・プレットロ・デ・ハチノヘ
會員 數 二十一名△指揮者 永田讓△代表者 大久保幾次郎

△西津輕郡
△木造マンドリン俱樂部
會員 二十五名△會長 松本静四郎△創立 昭和八年四月一日

△下北郡
△半島リードバンド
事務所 田名部町小川町△創立 昭和八年六月△役員 山本省一、中村力太郎、木村健次△會員 十名

△八戸市
△オーケストリーナ・ア・プレットロ・デ・ハチノヘ
會員 數 二十一名△指揮者 永田讓△代表者 大久保幾次郎

△西津輕郡
△木造マンドリン俱樂部
會員 二十五名△會長 松本静四郎△創立 昭和八年四月一日

△下北郡
△半島リードバンド
事務所 田名部町小川町△創立 昭和八年六月△役員 山本省一、中村力太郎、木村健次△會員 十名

△八戸市
△オーケストリーナ・ア・プレットロ・デ・ハチノヘ
會員 數 二十一名△指揮者 永田讓△代表者 大久保幾次郎

△西津輕郡
△木造マンドリン俱樂部
會員 二十五名△會長 松本静四郎△創立 昭和八年四月一日

△下北郡
△半島リードバンド
事務所 田名部町小川町△創立 昭和八年六月△役員 山本省一、中村力太郎、木村健次△會員 十名

△八戸市
△オーケストリーナ・ア・プレットロ・デ・ハチノヘ
會員 數 二十一名△指揮者 永田讓△代表者 大久保幾次郎

△西津輕郡
△木造マンドリン俱樂部
會員 二十五名△會長 松本静四郎△創立 昭和八年四月一日

△下北郡
△半島リードバンド
事務所 田名部町小川町△創立 昭和八年六月△役員 山本省一、中村力太郎、木村健次△會員 十名

△八戸市
△オーケストリーナ・ア・プレットロ・デ・ハチノヘ
會員 數 二十一名△指揮者 永田讓△代表者 大久保幾次郎

△西津輕郡
△木造マンドリン俱樂部
會員 二十五名△會長 松本静四郎△創立 昭和八年四月一日

△下北郡
△半島リードバンド
事務所 田名部町小川町△創立 昭和八年六月△役員 山本省一、中村力太郎、木村健次△會員 十名

△八戸市
△オーケストリーナ・ア・プレットロ・デ・ハチノヘ
會員 數 二十一名△指揮者 永田讓△代表者 大久保幾次郎

△西津輕郡
△木造マンドリン俱樂部
會員 二十五名△會長 松本静四郎△創立 昭和八年四月一日

ラヂオ

本縣のラヂオ界
我が國のラヂオを均等に分布せしめるためにも本縣に放送局を設置することが必要とされ故

ラヂオ

四八九

ラヂオ

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

四八九

趣味娛樂——各地のラヂオ聴取者レコード

送協會に於ても種々考慮してゐる、放送局を設置する場所として、青森をはじめ弘前、八戸も非常な熱心さで運動してゐる。未だ確定的なことは言はれないが地理的に見て又加入者の最も多い點から見て青森が有望視されてゐる、青森には現在有利加入者が一千二百名餘あるが此の外にもモグリがこれと同數位ありものと見られてゐる、近年エリミネター式受信機の普及からアンテナを必要としないので、聴には極めて便利であるが、これ等不法聴取者に對しては警察當局に於て嚴重取締りを行つてゐる、此のモグリが有利加入者となる時は放送局設置も早まる譯である、要するに本縣に於けるラヂオも一般家庭に深く食ひ入つてゐることでもあるし放送局設置も最早や時期の問題であるから、無料聴取者は心して盗聴を止め明るい氣持ちで聴ける様正式加入されたいものである、それが本縣に放送局を設ける一つの動機ともなれば本縣のためにも喜ばしいことである。

各地のラヂオ聴取者

市郡別 昭和九年四月一日現在 昭和十年四月一日現在 増減

Table with columns for city/county (e.g., 青森市, 弘前市, 八戸市) and radio listener counts for April 1929 and April 1930, along with net change.

本縣のラヂオ放送

仙臺放送局 昭和九年一月十四日、「非常時日本の青年としての覺悟」全國ラヂオ雄辯大會東北代表、西郡森田村青山慶一

△同八月十五日、俚諺「青森鶏舞」三戸郡下長苗代村下村圓次郎外十餘名
△同十月二十一日、「奥州菊についで」八戸市橋本正次
△同十一月八日、「東北地方の職業紹介事業」青森地方職業紹介事務局長木田徹郎
△同十年三月三日、俚諺「あいやぶし」八戸市上野翁桃外二名
函館放送局
△昭和九年七月十二日、琵琶「小敦盛」青森市浦町小田川稻洲
△同七月二十四日、長唄「執着獅子」青森藝妓見番連中、唄海老藏、勝美
△同八月十一日、「童謡とピアノ」女師附屬小學校六年生田村喜美
△同八月十一日、同校高等二年伊藤美代
△同八月三十一日、詩吟「陣中彌千代」弘前市富田新町古川健藏
レコード化した本縣の唄
昭和九年五月から翌十年四月にかけての此の一年間に民謡、流行歌或は軍歌としてレコードに吹き込まれた本縣の唄は相當あるがその中主なるものを挙げると左の數種である。

ハア年寄り、若者
こゝろそれでソレマタジツサ
イダ
稼げや、寶宮も、盆も来る
ラツセ、ラツセ、ラツセ
ハアネブタ流れる、豆の葉コと
まれ
笛に、太鼓に、花の笠
(以下囃子略)
ハア勇む、えんぶり、夜も日も
踊る
今年ア豊年、満作だ
ハア林檎鈴なり、稻の穂ア實る
狐面コで、參詣もどり
青森甚句
(相馬重一作詞
田村しげる作曲
ニットー吹込)
一 鯨船来りや、青森ア春だ
ヨイトセ、ヤットセ、ヨイト
ヤットセ
甲田あたりは、ヨイト、ヨイト
月おぼる
武動輝く、師團の都

城下弘前花が咲く(囃子略)

三 伸びる八戸、鷗の港
出船入船にぎやかに
四 目屋の釣橋、月夜に行けば
遠く鳴る鳴る、乳穂ヶ瀧
五 温湯、板留、青葉が匂ふ
浅瀬石、川波さらさらと

第八師團熱河作戦の歌

(第八師團司令部作詞
陸軍戸山學校軍樂隊曲)
ニットー吹込

(一) 皇道宣布の大業に
刃向ふ熱河の敵軍を
討つ聖戦は興されぬ
滿洲國礎固むべく
(二) 奇襲の手並鮮やかに
北票沿線敵姿へて
白雪光る朝陽の
城頭高し日の御旗
(三) 入るや虎穴の奥深く
承德さしてつき進む
挺進隊の勳しは
世に類なき譽ぞや
(四) 長山谿も一押しに
始皇の築ける長城も
陸軍紀念の祝日に

趣味娛樂——レコード

奪ひて進む古北口

(五) 樂東地區の激戦は
協力部隊と手を握り
わが傳統の誇りたる
犠牲の精神發揮せり
(六) 三つ望樓の強襲や
夜間の一撃南天門
將兵決死の覺悟もて
守りは固し興隆縣
(七) 新開嶺の堅陣は
從深ふかく四里を越え
祥水谿は魏峨として
北支の空に聳え立つ
(八) 猛攻實に三晝夜
遂に五月の十三日
中央突破極まりて
響ぞ高し石匣鎮
(九) 密雲めざす急追や
意表に出でし懷柔戰
支那の精銳崩れはて
我軍門に和を請ひぬ
(十) 皇國意識火の如く
東北健兒の矜持ち
勝ちて兜の緒を締めつ
次戦の用意に努めばや
(十一) 王道樂土滿洲の

國の固めは今成りぬ

逝きにし戦友に榮光あれや
吾等は偉業成し遂げん
第八師團遠西警備の歌
(第八師團司令部作詞
陸軍戸山學校軍樂隊曲)
ニットー吹込

(一) 洋々として大遼河
蜿蜒連なる萬金場
歴史は古き遼西の
草も靡かん日の御旗
(二) 上に剛毅の長ありて
從ふ東北健男兒
大君に捧ぐる誠心は
必勝か死か唯一つ
(三) 古き功績は人ぞ知る
今遼西に屯せば
先を制して醜を撃ち
恩威普く民なびく
(四) 王道の普化未だしに
妖雲は押引く熊の里
聽て拓かん經綸は
我等が胸に高鳴るを
(五) あゝ榮光の八師團
大君が股肱ぞ皇軍の華
協力和衷相共に
東亞の樂土榮かなん
スキー歌

青森縣スキー聯盟選歌

(一) 白銀の山、雪の原、輝き映える
陸奥の國、負ひて雄々しく
進む吾等が、スキーの行手
涯なき行手
(二) 雪雲大空、翔ける日も
寒風肌を、透す日も
起ちて雄々しく
進む吾等が、スキーの行手
勇ましき行手
(三) 甲田嶺の雪、仰ぎつゝ
若き血は湧き、意氣高く
共に雄々しく
進む吾等が、スキーの行手
輝く行手
スキー小唄
(青森縣スキー聯盟選歌
服部良一編曲)
ニットー吹込

(一) 朝のスクロップ、白煙たてゝ
行こよスキーの、心地よき
ゆこよスキーの、心地よき
仰ぐ秀峰、津輕富士
(二) 甲田の處女雪、何處までつづく
走れア心も、身も躍る
走れア心も、身も躍る
四九一

(本社募集歌詞
服部良一作曲)
ニットー吹込

俺等男だ、それジャンプ
(三)
廣い銀嶺、サラ／＼小雪
夕日輝く、ひばのかけ
夕日輝く、ひばのかけ
意氣ですべろよ、直滑降

謠曲

- 青森市
 - 青森竹馬會(寶生流) 會員二十餘名△會長 小林吉次郎△創立 昭和三年
 - 青森觀世會(觀世流) 會員二十餘名△會長 田村久吉△創立 明治四十四年
 - 青森寶生會(寶生流) 會員四十名△幹事 澁谷七重△創立 昭和四年
- 弘前市
 - 弘前竹馬會 會員二十餘名△指南者 齋藤篤(東京)△九月十六日弘前市新若松樓で寶生流聯合素詠開催
 - 弘前寶生會 會員三十五名△指導者 坪田壽△幹事 成田榮、笹森武男、藤井賢雄、和田才太郎△毎月例会一回、外春秋大會一回宛
 - 八戸市
 - 八戸寶生會 會員三十名△指南者 北川武久△代表者 織壁修甫
 - 西津輕郡
 - 野邊地謠曲會 事務所 城内鈴木逸太方△會員

- △鶴ヶ澤松風會(寶生流) 事務所 鶴ヶ澤釣町來生寺△教師 齋藤篤△會長 武沼清太郎
- 南津輕郡
 - 黒石寶生會 會長 跡地静夫△會計 小枝七雄△會員 十餘名
 - 大鰐喜多會 事務所 湯川原福井二郎方△會員十三名△役員 福井二郎、山谷儀助、佐藤龍八郎、三上美佐
 - 平賀寶生會 事務所 柏木町農學校内△會員二十名△會長 藤本吉之助△幹事 棟方鋼男、今井豊作、鳴海助一△師範 西谷嘉一郎△創立 昭和八年十二月一日
- 北津輕郡
 - 五所川原寶生會 事務所 五所川原驛前佐々木龜吉宅△設立 大正八年八月五日
 - 幹事 佐々木龜吉△會員 十五名
- 上北郡
 - 七戸七寶會 事務所 大伴惣次郎方△行事 毎月五日、二十日の二回練習會開催△會員 二十五名△代表者 大伴惣次郎
 - 野邊地謠曲會 事務所 城内鈴木逸太方△會員

- 十餘名△會長 鈴木逸太△創立 大正二年十月十一日
- 三戸郡
 - 三戸寶生會 事務所 三戸銀行内△會員 十名△幹事 佐藤政藏、松尾庄次郎、松尾傳吉、田島治、八幡信吉△創立、大正元年
- 青森市
 - 琴光會(山田流) 會員 二十餘名△會長 對馬光賀
 - 正派正光會(生田系新日本樂) 事務所 浦町山田都正方△會員 約四十名△會長 山田都正
 - 琴友會(山田流) 會員 五十餘名△會長 館山多代賀
- 弘前市
 - 三曲研究會 會員 六十餘名△弘前市内に於ける尺八、琴、三絃の合同研究會△會長 野宮忠一△顧問 増田彌市△幹事 鷲尾喜佐子、飛鳥愛子、成田たき、石郷岡縫、葛谷さだ、小田むつ子△六月、十月の二回毎月定期に長安俱樂部で内輪の研究會を開く
 - 鷲尾喜佐子社中(田代町) 生田流△社中 三十名

- 飛鳥愛子社中(上土手町) 生田流△社中 二十名
- 石郷岡縫社中(森町) 山田流△社中 二十名
- 萬谷さだ社中(富田角美町) 山田流△社中 二十名
- 小田むつ子社中(川端町) 生田流△社中 二十名
- 八戸市
 - 永澤清見社中(山田流) 會員 約二十名△指南者 永澤清見
 - 三浦縫子社中(生田流) 會員 約三十名△指南者 三浦縫子
- 北津輕郡
 - 五所川原琴曲若葉會 事務所 五所川原町對馬るい方△設立 昭和八年五月△幹事 對馬るい子△會員 十九名
- 上北郡
 - 七戸町 若松亨賀教授所 事務所 新地通り橋本芳男方△會員 四十名△師匠 若松亨賀
 - 三味線文化講演村研究會 事務所 七戸町濱村方△會員 二十五名隨時集合練習△指南者 濱村ひで

郷土民謡・舞踊

本社主催郷土民謡大會 東奥日報社では本紙創刊記念

として昭和九年中に種々の事業を行つたが、其一として縣下各郡市別に民謡大會豫選會を行ひその結果代表者と決定した者だけが八月下旬青森市に集つて人氣の沸騰の中に大會を開催した、これは毎年新しく送り出される流行歌が深く一般家庭に食ひ込んで動もすれば郷土獨特の民謡が排斥されようとしてゐる昨今、郷土民謡を盛んならしめて力あるもので各方面の賞讃を博した。青森に於ける大會は歌舞伎座、遊樂座の二會場に於て行つたが兩會場とも満員の盛況で郷土がもつ昔からの藝術の味に満堂只々陶醉し非常な盛況を呈した。

- 一位今重造、二位葛西美榮、三位佐藤助志
- 北郡(七月二十日五所川原) 一位山内萬四郎、二位佐藤そわ、三位山崎勝人
- 下北郡(七月三十一日田名部) 一位山本てる
- 西郡(七月二十八日木造) 一位岡萬作、二位新岡熊次郎、三位平澤專之丞
- 南郡(八月五日黒石) 一位常田重郎、二位石山すわ、三位猪股勇藏
- 三戸郡(八月五日三戸) 一位工藤サキ

- 三市八郡の代表を集めた本社主催民謡大會は昭和九年八月二十六日青森市歌舞伎座と遊樂座の二ヶ所に分れて行はれた、結果左の通り
- 一位葛西孝三郎(青森)、二位何保いし(東郡)、三位今重造(中郡)、四位佐藤助志(中郡)、五位白取きわ(東郡)、六位常田重郎(南郡)、七位石山すわ(南郡)、八位猪股勇藏(南郡)、九位坪岩次郎(上北郡)、十位佐藤そわ(北郡)、十一位岡萬作(西郡)

- 青森市
 - 三榮會(義太夫) 鶴澤榮三
 - 柁屋歌園社中(長唄) 柁屋歌園
 - 柁屋勝利喜社中(長唄) 柁屋勝利喜
- 弘前市
 - 弘前長和會(長唄) 大和家ひな子△一年一回の長唄會もある
 - 天狗俱樂部(義太夫) 竹本咲子△二十餘名△師匠 木村鐵雄△會計 千葉金司△月例會の外に昭和九年は六月弘前キネマで、十月は弘前で大會開催
- 南津輕郡
 - 黒石文樂會(義太夫) 會員 二十餘名△會長 金澤岩城△師匠 弘前竹本咲子

- 各地の豫選
 - 青森市(六月二十七日青森) 一位葛西孝三郎、二位柿崎武雄、三位齋藤証吉
 - 八戸市(七月十一日八戸) 一位小笠原すゑ、二位笹井和三郎
 - 東郡(七月十二日小湊) 一位白取きわ、二位工藤さだ、三位阿保いし
 - 上北郡(七月十四日三本木) 一位坪岩次郎
 - 中郡及弘前市(七月二十六日弘前)

- 青森市
 - 江雲會青森支部 事務所 市内柳町佐藤月ワシノ方△設立 昭和九年四月△役員 山崎江風、佐藤又一、鎌田繁雄

- 青森市
 - 神秀榮△會員 三十名
 - 錦風尺八保存會 事務所 新町野口金助方△設立 昭和七年十月△役員 會長 石澤勝、副會長 兼會計 野口金助△幹事 工藤貞作、澁谷治郎△會員 數十五名
- 弘前市
 - 弘前市錦風流研究會 會員 十五名△幹事 竹内竹童、山谷孤山、藤田巖嶺、齋藤周童
 - 弘前管友會(錦風流) 會員 十名△指導者 彌宜町山谷孤山△毎年二月吹初會十二月吹納會
 - 音笛會(錦風流) 會員 十名△指導者 植田町竹内竹童
 - 江雲會弘前支部(琴古流) 會員 四十名△指導者 中瓦ヶ町増田彌市△支部長 増田彌市△幹事 野宮忠一、竹内佐吉、花岡文藏、八木橋六右衛門、小田武、藤田貞作△八月、井上重美(東京)、生山純三(京都)、古川政孝(東京)等の各師を招いて弘前公會堂で開催
 - 弘前竹友會 事務所 和徳町北山榮太郎方△會員 二十九名△會長 北山和童△副會長 川口笛童△會計 清野北童△創立 昭和二年七月

- 青森市
 - 江雲會青森支部 事務所 市内柳町佐藤月ワシノ方△設立 昭和九年四月△役員 山崎江風、佐藤又一、鎌田繁雄

趣味娛樂——長唄、義太夫、その他一尺八

一口

八戸市
仁雲社八戸支部
北津輕郡
江雲會五所川原支部
上北郡
七戸虚竹會
袋町藤田清方△會員

愛禽界

青森市
青森鳥の會
米町高啓醫院方△創立
大正十三年二月△會員 百五十餘名△會長 高木東園

事務所 代官町石郷岡正男方△
會員 二十五名△會長 石郷岡
正男△副會長 葛西常彌△幹事
長 今泉吉弘、幹事安達誠治、

昭和九年十月二十日より二十
六日まで一番町角は樓上で第十
三回展覽會を開く、出品は六十
八點、會員外二十三點であつた

昭和九年六月十日
七日住吉長安俱樂部に於て開
催、出品二十六點、受賞者左の
通り

福次郎、水谷勘之丞、佐々木
由吉
△三等古館虎雄、一戸正繁、
工藤久三郎、村上直太郎

創立 昭和八年五月△會員 三
十三名△顧問 鎌田喜三郎△會
長 野坂安五郎△副會長 笹原

事務所 黒石内町加藤福次郎△
會員 五十名△會長 兼田三郎
△副會長 松田傳吉、加藤福次

右終了後引續いて兼田會長他
會員二十數名で種々問題を中心
に座談會を催し盛會裡に夕刻散

昭和九年六月十日黒石公會堂
で暗合會開催出品點數三十餘
羽、審査員藤野榮治、成田龜太

△二等賞 七十七點四分五所の
花蒔田源吾(五所川原)、七十
四點八分錦玲(新)須郷金太郎

分山錦(新)工藤貞吉(枝川)

六十四點豐嶽の響(新)山内文
一郎(浪岡)、六十點初春 北
川長次郎(五所川原)、同點櫻
の友(新)須藤永太郎(川部)

北津輕郡

五所川原小禽同好會
會員數 二十七名△會長 對馬
源次郎△副會長 川村行良△會計
坂本源八△顧問 木村勝三郎△

川村行良△催物 昭和九年度は

事務所 南町濱村石藏方△會員
約四十名△行事 毎年五月總會
開催△會長 濱村石藏△副會長
中村勘之助

犬の品種展

本社では九年九月七日から創
刊一萬五千號記念事業の一とし
て青森市公會堂に博物館を開催

マタギ犬(和犬)

西谷順一郎(南 郡)
宇野 金一(黒 石)
狩獵犬
成田 行幹(青 森)

英國ポインター

鳴海順一郎(弘 前)
吹田銓三郎(青 森)
使用犬
下川原市郎(野邊地)
樺太犬
山田才太郎(青 森)

犬の團體

青森愛犬同好會(土佐犬)
會員 二十餘名
青森愛犬會(土佐犬)
會員 四十名

弘前市

帝國軍用犬協會青森縣支部
創立 昭和九年四月△事務所
第八師團獸醫部内△會員 四十
餘名△幹事長 淺井莊右衛門△

市外新開地工藤慶吉方△會員
二十七名△會長 石郷岡文吉△
幹事長 高坂義雄△幹事 工藤
慶吉、大瀨久二郎、宮本喜三郎、
榊庄作△行事 昭和九年十月十
四日から弘前市時敏小學校に催
された東北六縣、北海道工産物
共進會に陳列會を催す、優等賞
弘前宮本喜三郎、青森齋藤秀
夫、同黒瀧榮藏

活花

青森市
△千秋庵社中(遠州流)
行事 月一回研究会、春秋二回
總會開催△社中 五十餘名△教
授 千秋庵田中一豊
△吳竹會(遠州流)
行事 月一回研究会、春秋二回
大會開催△會員 五十餘名△教
授 千富庵竹浪一昌
△千古庵社中(遠州流)
行事 每週二回稽古△社中 五
十餘名△教授 千古庵中村一片
△陸松齋綠會(遠州流)
會員 百餘名△教授 陸松齋山

本縣の菊花界

各地の團體と事業

青森市
△延年會(大輪)
事務所 鹽町柴田寫眞館内△行
事 毎年一回陳列會開催△會員
三十餘名△會長 柴田一奇△副
會長 木村邑吉
△長壽會
事務所 津輕銀行青森支店石戸
谷巖方△行事 毎年秋展覽會開
催△會員 五十餘名△會長 木
村虎雄
△青森鐵道菊交會
事務所 青森鐵道治療所内△創
立 昭和二年△會員 四十名△
會長 石橋昇△幹事長 沖田富
重△行事 毎年秋季陳列會を催
す

弘前菊花團體

弘前市に於ける菊花界は現在
に於ては小黨分裂の状態に於
ては、大輪の部に於ては弘前秋
香會、晚香會、秋翁會、菊花研
究會、昭光會、秋葉會等あり、
懸崖の部に於ては東京長生會
弘前支部即ち弘前懸崖同好會、
弘前北斗會等あり、何れも春
期苗の分譲、秋期展覽會を開催、

趣味娛樂——本縣の菊花界

内一豊
△觀松齋社中(遠州流)
行事 每週二回、稽古月一回研
究會、春秋二回總會△社中 五
十餘名△教授 觀松齋村田一誠
△一芝會(遠州流)
行事 每週一回、稽古月二回研
究會、春秋大會開催△會員 百數
十名△教授 吟松齋小木一芝
△向陽庵社中(遠州流)
行事 每週二回稽古春秋二回大
會△社中 四十餘名△教授 向
陽庵中島一幹

弘前市
△晚成園(遠州流)
行事 春秋二回大會開催△會員
二十名△教授 下轄師町阿部吉
兵衛
△花友會(池の坊)
行事 臨時陳列會春秋二回大會
開催△會員 百名△教授 西茂
森町桐原く
△橋會(池の坊)
會員 五十名△教授 新寺町小
林ちゑ
△春塘園(池の坊)
行事 春秋研究会開催△會員
二十名△教授 百石町小路傍島
しづ
△橋會(池の坊)
行事 春秋二回大會開催△會員
百名△教授 富田角美町萬谷さ
だ

または會報等を發行してゐるが

一昨年以來縣下菊花大會が開か
るゝに至り展覽會を開かず之れ
に同盟する團體が多くなつた。
△弘前秋翁會(大菊、小菊)
事務所 新鍛冶町福田忠二方△
會員 五十名△會長 小野芳甫
△副會長 三浦庄助、宮本喜助、
△理事 三上萬藏、工藤善吉、
柴田廣吉、坂本俊藏、棟方惣吉、
秋元雄次助△會計 福田忠二、
石川秀雄△創立 昭和六年十月
△行事 昭和九年十一月一日か
ら三日間桶屋町阿波屋酒店前に
於て展覽會を開く、受賞者左の
通り
優等一席羽衣福田忠二、二席
歸去來宮本重吉、三席富山の
雲秋元雄次助、四席大觀小野
芳甫
一等紫雲殿棟方惣吉、御田鶴
十川敬示、千代の光羽賀吉太
郎、松風宮本喜助、華嚴の瀧
渡邊清、天ヶ下秋元雄次助、瀧
御園の秋白銀清吉、華嚴の瀧
秋元雄次助、水鶏の音柴谷廣
吉、谷風三浦庄助、發心の志
岩崎謙次郎、波上の月宮本喜
兵衛、響の凱旋大瀨久次郎、
紫雲殿福士忠吉
鉢菊の部 優等一席岩清水工
藤善吉、二席福祿壽福士忠吉
一等美玉王三上萬藏、錦紅同

△寒松庵社中(正風流)
行事 年一回大會開催△社中
四十名△教授 鷹匠町七戸りつ
△綠會(池の坊)
會員 五十名△教授 桔梗野神
く
△向東會(拔選遠州流)
行事 毎年春大會開催△會員
百名△教授 百石町櫻庭一東
△薰風會(淺草遠州流)
行事 毎年春大會開催△會員 五
十名△教授 石川町成田榮治
△嶺松齋一芳社中(淺草遠州
流)
行事 毎年春大會開催△社中八
十名△教授 鷹匠町成田いそ
△八戸市
△二葉遠流會(平凡遠州流)
會員 二百名△教授 貞宇齋米
田一寅
△芳花園社中(池の坊小原流)
會員 五十名△教授 鈴木芳月
△八戸木生會(活花盛花)
會員 六十名△教授 織壁修甫

△南津輕郡
△黒石華友會(池の坊)
事務所 上町小田桐きえ方△會
員 五十餘名△代表者 佐藤一
進、小田桐きえ、山口やゑ
△黒石一芝會(小原流)
事務所 黒石幼雅園内△會員
二十名△教授 青森小木一芝△
創立 昭和八年△行事 每週一

懸崖小作 優等鹿兒島工藤重

任、一等同人、金輝秋元雄次
郎
△弘前晚香會(東京重陽會支
部)
事務所 和徳町梅田萬吉方△會
員 四十七名△支部長 川島豊
吉△會長 宮本金平△副會長
梅田萬吉△評議員 櫻田清芽、
三浦知篤、平尾慶三郎、松本秀
一郎、中野良助△幹事 小濱清
四郎、三原恒吉、高谷長三郎、
福士與次郎、鈴木喜三郎△會計
木村慶吉△顧問 中村範、白取
兵之助、阿部吉兵衛△創立 昭
和二年十一月三日△行事 昭和
九年十一月二日から三日間和徳
稻荷神社境内に於て展覽會を開
く、受賞者左の通り
指定菊の部 優等鈴木喜三郎、
一等安達和夫、石郷岡正夫、
三原末太郎、赤石與太郎、
一般競技 優等赤石與太郎、
一等工藤喜太郎、福士與次郎
安達和夫、須藤俊雄、梅原平
治
鉢菊 一等平尾慶三郎、小濱
清次郎、松田三郎
△弘前秋樂會(大菊、小菊)
事務所 紺屋町熊谷新吉方△會
員 二十二名△代表者 熊谷新
吉、藤田彦逸△創立 昭和三年

回稽古會開催
△北津輕郡
事務所 佐々木榮子方△設立
大正十四年五月一日△幹事 佐
々木榮子△會員 三十名
△池坊橋本の會
事務所 五所川原鎌田ちよ子方
△設立 昭和十年一月十日△會
員 三十名
△上北郡
事務所 十和田通り大竹琢助方
△會員數 三十五名△創立 大
正十五年四月△行事 毎月研究
會開催、春夏花時盆裁展覽會、
秋菊花品評會開催 △會長 大宮
榮△會計 大竹琢助△幹事 山
本隆良、岩間政、渡邊貢、櫻田
圓治、松本三造、鎌田仁三郎、
杉本馬吉

茶の湯

青森市
△瑞草庵水野薫風社中(煎茶)
社中 二十餘名△教授 水野薫
風
△向陽庵社中
社中 三十名△教授 中島一幹
△南津輕郡
△芭蕉流煎茶會
事務所 黒石町小田桐きう方△
會員 十名△代表者 小田桐き

十一月一日△行事

昭和九年十
一月四日から三日間茂森新町田
澤伊助氏宅前に於て菊花展を開
く、受賞者左の通り
指定花の部 優等富山の雲阿
部彬、一等天津空同人
一般切花の部 優等大瀨岩崎
幸次郎、一等曉天の鶴栗原儀
鉢菊の部 一等曉天の鶴稻見
金次郎
△弘前懸崖菊同好會
事務所 鐵砲町中村範方△會員
八十五人△會長 石郷岡文吉△
理事 齋藤靜、花田月松、山形
東、一戸友太郎、葛西彌助、七
戸直衛、進藤武英、中村範△評
議員 櫻田清芽、成田信英、小
川兵衛、阿部權三郎、齋藤清藏、
山田豐藏、柴田清太郎、福田忠
二、鹿内秋次郎、竹内雄三、長
尾務、藤田七郎、成田金吉、石
郷岡正雄△創立 昭和五年十月
△秋香會(大菊)
事務所 鐵砲町木村甚之助方△
會員 七十名△會長 木村甚之
助△副會長 藤本源太郎、阿部
吉兵衛△理事 竹村健三郎、川
崎貞助、菊池熊七、久保善一、
山田豊三、福島元太郎、石崎彦
吉、二葉松男、大原胤夫、木村
明、西澤吉三郎△會計 西澤衛
守、櫻庭雄之△創立 明治三十
四九七

二年五月

- △弘前菊花研究会 事務所 茂森町川村要次郎方△ 會員 二十五名△幹事 對馬慶八、木村常次郎、赤石勇三、本堂宗英、川村要次郎△創立 大正十五年一月
- △弘前北斗會(小菊) 事務所 鷹匠町山形東方△會員 三十名△會長 山形東△幹事 芝田忠三郎、一戸久之助、中村民五郎、竹内慶七、齋藤松太郎△顧問 七戸直衛△會計 工藤慶助
- △弘前昭光會(大菊) 事務所 富田町稻見與次郎方△會員 三十名△會長 石岡熊吉△創立 昭和五年五月
- 青森縣菊花大會 弘前公會堂に於て昭和九年十一月五日より七日迄晝夜開會
- △小菊の部
 - △大作一等鳥霞 鹿内秋次郎
 - △中作優等西行櫻、竹内慶七
 - △小櫻 長尾務、同龍宮
 - △小作優等貴公子 鳴海祐清
 - 一等黄金の里 同、鹿兒島
 - 工藤重任
 - 大菊の部
 - △一般競技花優等榊棠一枝 鈴木善太郎、鳳心、工藤徳太郎、霞の袖、田邊文四郎

- 一等 玉堂の春田邊文四郎、譽の凱旋川島豊吉、雛鶴中村助作、大瀨田邊文四郎、富岳の雪鈴木善太郎、月海原西谷嘉三郎、山陵の秋田邊文四郎、錦紅清野宇右衛門、大御所木村常次郎
- △指定競技花 優等富山の雲 工藤徳太郎、一等同櫻庭雄三 同橋引忠三
- △鉢の大菊優等 天國山田豊三、一等大御所中村助作、錦紅平尾慶三郎
- △八戸市
 - △東北菊花研究会 事務所 八戸市長根橋本香月園△創立 昭和元年十一月△會員 一千二百名(全國)△會長 橋本正次
 - △八戸菊花研究会 事務所 八戸市長根橋本香月園△創立 昭和五年十一月△會員 三十名△理事 橋本正次、三浦利元、石橋徳藏、高橋貞三、大和明心
 - △八戸共友會 事務所 八戸市長根橋本香月園△創立 昭和五年十月△會員 八十餘名△會長 船越香織△理事 及川主、棟方徳衛、船越宜雄、高橋忠三郎、坂下直三郎、小野萬吉、魚住龜治、菅三郎、宮崎清、星野米松、橋本正次、

- 伊東倉三、二ツ森毅
- △八戸長香會 事務所 八戸市長横町大里雷太郎方△創立 昭和三年八月△會員 二十餘名△會長 藤田茂穂△副會長 鈴木吉太郎△幹事 大里雷太郎、齋藤文太郎
- △西津輕郡
 - △錦ヶ澤菊花同好會 會員 二十五名會長 菊谷誠七
 - △幹事 種村基也、月永晋次郎、大村小苗、戸沼啓藏△行事 每年十一月三日菊花陳列會開催
- △南津輕郡
 - △秋香會 事務所 黒石中町松村定勝方△會員 三十名△代表者 松村定勝
 - △秋輝會 事務所 黒石元町丹代健英方△會員 二十餘名△會長 鳴海義文△幹事 山田善三郎、丹代健英、池内善三郎、成田彦藏、飯田武次郎、川崎嘉太郎△會計 舛川善藏
 - △菊花秋光會 事務所 藤崎町福井方△會員 三十名△會長 福井要三△副會長 佐藤甚吉△幹事 成田聰淳、工藤新吉、幸田弘一、加藤敬巳
 - △北津輕郡
 - △五所川原晚香會 會員 二十餘名△會長 成田定

- 理△幹事 神伊三郎、對馬留次郎△委員 奥瀬平太郎、竹谷安吉、川村儀助、岩館九郎助
- △金木黃菊會 會員 二十名△會長 鳴海祐清△副會長 福士武一△評議員 佐々木恭岑、西村啓次郎、中村藤次郎
- △上北郡
 - △野邊地千代見會 會員 三十五名△顧問 近藤富之△會長 島谷清四郎△副會長 飯田祐教△幹事 泉山萬次郎、黒岡山藏、大橋吉太郎、安田禮吉、野坂忠吉、杉山福松△行事 昭和九年十一月陳列會開催
- △下北郡
 - △田名部秋馨會 會員 十五名△會長 石井穰△副會長 松本喜太郎△理事 齋藤多理、山本久之助
 - △三戸郡
 - △三戸秋寶會 事務所 二日町佐藤政嗣方△創立 昭和四年△會員 三十二名△會長 佐藤政嗣△副會長 大垣俊夫、泉山政知△幹事 佐々木長次郎、高野銀藏、森田龍三郎、山口榮太郎、平芳也、高館常作、青木藤次郎、松尾慶次郎

スポーツ

總説

冷害凶作により昭和九年の青森縣は物質的な大打撃と共に精神的にも大きく打ちひしがれた。此の逆境に直面して確固と立直る意志、猛然と恢復に邁進する力、夫はスポーツマンシップそのものである。灰色に包まれた昭和九年の青森縣ではあつたが、躍進の赤き血潮もゆる青は少しも減じなかつた。果敢、對外的に赫々たる武勳を立て、凶作地青森縣の名の半面に、伸び行く青森縣を確實に示したのである。

陸上競技は其戦績に於て從來より抽んでたものはなかつたが、弘前トラックを公認し更に各地に公認トラック設置の準備が進められ、且つ縣體協陸上競技部三聯盟組織として合理化し從來縣體協の指導方針と對立的であつた青森縣の指導を兩者統一する等内部的な工作が着々進歩した。野球、庭球は特に注目すべき記録も示さなかつたが、卓

球は依然として卓球王國の名を維持し來襲した學生聯盟の強豪をさへ一蹴して近よりがたき實力を示した。ポルトに於て青森中學が全國大會に於て決勝まで清きつけ、僅か一尺の差で二位ととなつたが青森健兒の名を琵琶湖上に馳せた。剣道又然り、郷軍代表として濟寧館に於ける天覽試合に出場した小笠原二郎選手が群がる強豪を打ち据ゑて準決勝まで進み其名を天下に轟かし青森縣剣道界に大きな力を與へた。而して最も特記すべきはスキ一の躍進である、前年の全日本大會に於て俄然擡頭した本縣スキー選手に對し、全國の眼は尙ダークホースとして見てゐたが、札幌に於ける本年度大會に於て長距離競走は斷然他を抑へ世界オリンピック大會派遣の正選手二名、副選手一名を出すに至つたのである。

陸上競技

九年度の本縣陸上競技界は弘前競技場の公認に依つて第一回

北日本陸競大會及東北々海道中等學校大會が同競技場に新に開催されて活氣を添へ殊に東奥日報社が一萬五千號記念事業として行つた縣下國道走破耐久長距離競走は縣體協に燦然と輝く新しい記録で縣下の血を湧かした。

◇ 競技界の刷新向上のため縣體協陸上競技部を聯盟組織とし、且つ從來一つの弊とも見られた青年團體の指導が縣體協と別個に存在してゐたのを、聯盟組織を契機にガツチリ手を組んで邁進することになつた。之に依つて從來の偏重な域を脱して躍進を見るものと豫想されてゐる。

◇ 縣體協陸上競技部聯盟組織となる

青森縣體育協會陸上競技部は縣下各陸上競技團體を統轄して融和連絡と健全な向上を圖るため聯盟組織とすることとなり九月十日縣廳學務部會議室に於て幹事會を開き規約を制定し直ちに各學校、團體に對し加入勸誘をなした。規約の主要は縣下各陸上競技團體を以て組織し各團體は會員十名毎に代表委員一名を選出し得る、此委員は陸上競技部長、副部

長を決定する、各俱樂部の負擔金は一票につき金三圓納付を要する

加盟團體は四十一で全國に於ても最高の加盟團體を持つに至つた。

縣立工業學校、東奥義塾、稻垣青年團、八戸中學、弘前市農學校、上北郡教育會、青森市立高女校、南部陸上競技會、弘前陸上競技協會、五所川原農學校、五所川原高女校、弘前高女校、上十川體育協會、青森師範學校、金木町體育協會、五所川原體育協會、青森商業學校、三澤運動俱樂部、八戸商業學校、浦町小學校、沖館小學校、新町小學校、古川小學校、橋本小學校、浪打小學校、青森市體育協會、青森縣立高女、弘前中學校、北郡教育會、青森中學校、長嶋育會、商門俱樂部、東郡教育會、八戸水産學校、野邊地中學校、エールン俱樂部、下北郡教育會

縣下國道走破耐久長距離競走

東奥日報社主催

四九九

二大成 4 沿川校
△高小1時敏二分三〇秒七、
2浦町校
△中等校1弘高女二分二〇秒
八、2青高女3市立高女
ファイルド

走市跳△尋小1相馬(金田)
四米一〇(新記録)2藤本こと
(古川)3木村たみ(時敏)4大
杉てるゑ(古川)5杉沼さだ
(和徳)

△高小1川村とし(時敏)四米
二二、2齋藤りゑ(同)3七尾
とみ(同)4田中(浦町)5鳴海
(同)6白取(同)

△中等校1葛西せつ(五高女)
四米四二、2二唐とし(弘高
女)3千葉光子(市立高女)4
七尾(弘高女)5安田とみ(青
女師)6田村富美(青高女)

砲丸投(中等校) 1高坂た
か(青女師)七米九七(新記録)
2竹田みち(弘高女)3高野み
ち(同)4石田みつゑ(五高女)
5安田とみ(青女師)6駒井あ
や(弘高女)

◆東北々海道中等學校大會 縣
體育協會主催第一回東北々海道
中等學校陸上競技選手權大會は
七月二十九日弘前公園競技場に
於て開催、青師優勝す、結果左
の通り。

トラック
百米、1小笠原利衛(青師)
一〇秒八、2佐藤三郎(能代
中)3中村賢藏(青師)4小笠
原幸吉(八商)5吉田重造(岩
工)6橋本誠一(八商)

二百米、1佐藤三郎(能代
中)2四秒六、2千葉醇(青
師)3小笠原利衛(同)4中村
賢藏(同)5神享(義塾)6杉山
浩三郎(青中)

四百米、1戸松俊巳(能代
中)五六秒五、2藤田穰(弘
中)3前田文雄(五農)4橋本
一郎(八商)5中嶋喜徳郎(同)
6大平光藏(弘中)

八百米、1江渡保雄(青師)
二分一〇秒九、2前田文雄
(五農)3藤田穰(弘中)4戸松
俊巳(能代中)5小關逸夫(青
師)6織田正信(青中)

千五百米、1寺山喜英司
(五農)四分四五秒八、2中村
喜一(同)3大谷喜久雄(青中)
4林希一(八商)5中村一雄
(弘中)6織田正信(青中)

五千米、1寺山喜英司(五
農)一分二八秒五、2中村一
雄(弘中)3中村喜一(五農)4
三上東晴(青師)5松澤榮一郎
(八商)6白取國雄(青中)
高師、1蛇沼正二郎(八
高)一九秒一、2中村賢藏(青

師)3八木橋武三郎(同)4一
戸重太(青中)5關野良造(八商)
低障碍、1中嶋賢藏(青師)
二八秒九、2蛇沼正二郎(八
商)3八木橋武三郎(青師)4
橋本誠一(八商)5廣田正男
(同)6盛康太郎(青中)

四百米繼走、1青師(中村、
小笠原、千葉、江渡)四七秒
二、2八商四七秒四、3岩工
4弘中

千六百米繼走、1八商(泉、
橋、小笠原、中嶋)三分四九
秒二、2青中三分五二秒、3
青師4弘中

ファイルド
砲丸投、1小田勉一(岩工)
一二米四六、2瀧澤文三(青
師)3千葉醇(同)4丹場豊之
助(弘中)5村井五郎(能代中)
6西塚五郎(青師)

圓盤投、1丹場豊之助(弘
中)二八米三八、2小田勉一
(岩工)3西塚五郎(青師)4村
井五郎(能代中)5瀧澤文三
(青師)6石藤益男(八商)

槍投、1江坂哲夫(能代中)
四八米七四、2西塚五郎(青
師)3田中浩三郎(五農)4小
笠原幸吉(八商)5瀧澤文三
(青師)6小田勉一(岩工)
走市跳、1吉田重造(岩工)
六米二〇、2白石光雄(三農)

3小笠原幸吉(八商)4小笠原
利衛(青師)5西塚五郎(同)6
下田省二(八商)
走高跳、1八木橋武三郎
(青師)一米六〇、2齋藤清三
郎(同)3工藤定雄(八商)4鈴
木定三(能代中)5西塚五郎
(青師)6田端常松(八商)

三段跳、1西塚五郎(青師)
一二米八四、2小笠原利衛
(同)3小笠原幸吉(八商)4白
石光雄(三農)5八木橋武三郎
(青師)6小田勉一(岩工)

棒高跳、1八木橋武三郎
(青師)三米、2工藤定雄(八
商)3瀧澤文三(青師)

◆教員大會 縣體育協會主催第
二回縣下小學校教員對抗陸上競
技大會は八月二日青森公園競技
場に於て舉行、上北郡優勝、結
果左の通り。

トラック
百米、1棟方福雄(青森)一
一秒四(新記録)2中居勇一
(上北)3川浪與助(北)4山下
喜一(青森)5棟方哲郎(東)6
太田武吉(下北)

四百米、1野村武尙(三戸)
五四秒七、2野月松夫(上北)
3太田武吉(下北)4清水清彦
(上北)5河津一三(同)6川口
豊太郎(北)

前四分三〇秒二、2清水清彦
(上北)3藤田利通(東)4河津
一三(上北)5淺利正徳(北)6
川口豊太郎(同)

五千米、1富田孝一(弘前)
一七秒五秒四、2藤田利通
(東)3田邊健造(上北)4下北
健作(同)5村山源一(北)6八
戸喜代志(東)

高障碍、1野月松夫(上北)
一七秒一(新記録)2三浦義雄
(北)3平澤衛(西)4鎌田純二
(北)5木村米吉(北)6佐藤正
(南)

八百米繼走、1青森(棟方、
山下、對馬、佐藤)一分三九
秒、2北郡3上北郡
ファイルド

砲丸投、1棟方福雄(青森)
一〇米三九、2太田一郎(上
北)3山下喜一(青森)4成田
賢作(北)5棟方哲郎(東)6坂
本與一(西)

圓盤投、1棟方福雄(青森)
三〇米五三・五、2三浦義雄
(北)3山下喜一(青森)4太田
一郎(上北)5棟方哲郎(上北)

6奈良岡與一(中)
槍投、1太田一郎(上北)三
七米八三、2市川一夫(東)3
鹿内義男(北)4野月松夫(上
北)5木村米吉(北)6佐藤正
(南)

走市跳、1小泉多一郎(東)
六米五八、2神忠四郎(下北)
3白取福藏(上北)4奈良岡眞
一(中)5佐藤敏美(青森)6中
居勇一(上北)

走高跳、1白取福藏(上北)
一米七〇、2小泉多一郎(東)
神忠四郎(下北)3江波益太郎
(三戸)中村勇作(北)4名古屋
專三郎(東)新谷克志(西)

三段跳、白取福藏(上北)一
三米三二・五、2吉田文平(同)
3小森長法(南)4川浪與助
(北)5對馬繁作(青森)6三浦
光三(東)

棒高跳、1奈良岡眞一(中)
三米三四・五、2三浦義雄(北)
三米二〇(以上新記録)3中村
勇作(北)4名古屋專三郎(東)
5高橋甚之助(北)6蛇名直衛
(西)

◆ス、ノ、ゴ三巴戰 三巴陸上
競技聯盟主催第十回スバルタ
ノーマル、ゴンゴン三巴戰は八
月五日弘前競技場に開催、ノ
ルが優勝した、結果左の通り。

トラック
百米、1小笠原利衛(ノ)一
一秒九、2高田美満(ス)3棟
方福雄(ノ)

二百米、1高田美満(ス)二
四秒一、2瀧本正(ゴ)3千葉
醇(ノ)

四百米、1瀧本正(ゴ)五四
秒八、2江渡保雄(ノ)3野村
武治(ノ)

八百米、1奈良岡健三(ノ)
二分一〇秒四、2小野利通
(ス)3江渡保雄(ノ)

千五百米、1奈良岡健三
(ノ)四分二一秒、2小野利通
(ス)3富田孝一(ノ)

五千米、1奈良岡健三(ノ)
一七秒二秒五、2富田孝一
(同)3小野利通(ス)

高障碍、1高田美満(ス)一
七秒一、2平澤衛(ノ)3岩谷
克美(ゴ)

低障碍、1高田美満(ス)二
七秒五、2岩谷克美(ゴ)3三
浦正治(ノ)

八百米繼走、1スバルタ
ル(杉山、鈴木、山中、高田)一
分三八秒四、2ノーマル3ゴ
ロン
ファイルドの部
砲丸投、1岩谷克美(ゴ)一
一米三七、2棟方福雄(ノ)3
川口利夫(ス)

米四八、2岩谷克美(ゴ)3三
浦正治(ノ)

走高跳、1金上顯(ゴ)一米
八五(本大會並に本縣新記録)
2三浦正治(ノ)3高田美満
(ス)

三段跳、1白取福藏(ノ)一
三米六六、2西塚五郎(ノ)3
金上顯(ゴ)

棒高跳、1三上一夫(ゴ)三
米六七・五(本大會並に本縣新
記録)、2奈良岡眞一(ゴ)3八
木橋武三郎(ノ)

◆全青森對札鐵大會 青森市體
育協會主催全青森對札鐵道局
聯盟陸上競技大會は八月九日青
森公園競技場に於て舉行、札鐵
が優勝した、戦績左の通り。

百米、1川崎静一郎(札鐵)
一〇秒二(新記録)、2對馬直
一(同)3大島誠一郎(同)
四百米、1黒澤馨(青森)五
一秒二(新記録)、2柿崎政雄
(札鐵)3天近豊藏(同)

千五百米、1天近豊藏(札
鐵)四分一八秒九(新記録)2
奈良岡健三(青森)3花野芳雄
(札鐵)
高障碍、1長坂富藏(札鐵)
一六秒三(本縣、大會新記録)
2高田美満(青森)3岩谷克美
(同)

スポーツ——主なる競技會

高田、瀧本、黒澤(一分三四秒五、2札鐵(川崎、駒木根、柿崎、對馬)一分三五秒)

五秒三、2瀧本正(弘前青) 3神壽郎(歩五)

槍投、1岩谷克美(弘前青) 四五米三四、2瀧澤文三(青)

砲丸投、1安井せい(函高女) 九米一七、2小山内正子(市立高教) 八米九二・五(以上)

(青商)5藤井泰三(八中)6泉山貞義(八商)

商(二七秒二、2千葉醇(青師) 二七秒四(以上新記録)3盛康太郎(青中)4橋本誠一(八商)

一七〇、2八木橋武三郎(八中) (同)3工藤定雄(八商)4田端常雄(八商)5齋藤(青師)石川(弘工)永井(弘中)中村(八中)

四百米繼走、1弘高女五六秒三、2五高女3市立高女4青高女

砲丸投、1高野みつ(弘高女) 七米八八・五、2高坂たか(青女師)3武田みつ(弘高女)

青森縣陸上競技最高記録

男子の部

種目

記録

保持者 所屬

走中跳、1對馬直一(札鐵) 六米九二(本縣、大會新記録) 2白取福藏(青森)六米四六(新記録) 3大島誠一郎(札鐵)

走中跳、1白石光男(三農) 六米〇五、2齋藤清一郎(青師) 3小笠原利衛(同) 4小笠原幸吉(八商) 5秋元豊明(青商) 6小笠原勇(同)

砲丸投、1安井せい(函高女) 九米一七、2小山内正子(市立高教) 八米九二・五(以上)

スポーツ——本縣陸上競技十傑表

Table of sports records for various events including 走 (running), 跳 (jumping), 投 (throwing), and 走 (walking). Lists names like 藤井光泰, 石井泰三, 黒澤馨, etc., along with their respective schools and records.

本縣陸上競技十傑表 (昭和九年度に於て青森縣で舉行された記録公認) (昭和三十九年度に於て青森縣で舉行された記録公認)

Table of sports records for various events including 走 (running), 跳 (jumping), 投 (throwing), and 走 (walking). Lists names like 川崎静一郎, 村上方福雄, 具吹治五郎, etc., along with their respective schools and records.

Table of sports records for various events including 走 (running), 跳 (jumping), 投 (throwing), and 走 (walking). Lists names like 藤井光泰, 石井泰三, 黒澤馨, etc., along with their respective schools and records.

Table of sports records for various events including 走 (running), 跳 (jumping), 投 (throwing), and 走 (walking). Lists names like 川崎静一郎, 村上方福雄, 具吹治五郎, etc., along with their respective schools and records.

スポーツ——本縣陸上競技十傑表

Table of athletic records for various events including Shot Put, Discus, Javelin, and Running. Lists names like 安井正子, 小路口フサエ, and their respective records.

Table of athletic records for various events including Running, Jumping, and Throwing. Lists names like 藤野久枝, 田野澤アイ子, and their respective records.

Table of athletic records for various events including Shot Put, Discus, Javelin, and Running. Lists names like 高野忠幸, 張星賢, and their respective records.

Table of athletic records for various events including Running, Jumping, and Throwing. Lists names like 保持者, 所屬, and their respective records.

スポーツ——卓球——主なる試合

今も昔も變りない、九年度は對外試合としては定期の北日本並に青函戦以外に日大及關東學聯の卓球界が一脈の清風を吹き込んだ感がある、往時の全盛時代を形作った田中、福士、村林三強豪の線より退いた今日卓球王國の名を止め得るか否か危ぶまれたが傳統的な強味を發揮して見事これを退け得たことは大なる收穫の一つであつた、中等校に於て見る時東郷戦では青森商業が優勝し、同大會の回を重ねること八回に及ぶが未だ一回も同優勝旗が青森を離れずにあることは嬉しい、卓球界にとつても庭球界と同じく軟式行詰りの傾向が中央に於て見え、既に一部に於ては硬球に轉じ世界的舞臺に躍り出ようとする準備を整へてゐるとのことであり、青森の卓球界も徒らに日本一、東洋一の名に奢ることなく、速かに硬球方面の研究に着手し、勉ては世界の青森たるべきやう心がくべきである。

主なる試合

日支卓球大會選會 六月九日より上海に於て開催の日支卓球大會に出場する日本代表決定

の豫選會は五月二十日東京市神田駿ヶ臺の女子基督教青年館に於て開催、青森市よりは今、石井(青商)、川原田(商門)の三君が出場したが左の成績で今君が代表選手に選ばれた、尙都合により本大會は中止された。(青森縣關係の分)

森田(大阪) 3-1 河村(東京) 今(青森) 3-1 岩動(東京) 今(青森) 3-2 森田(大阪) 相澤(川崎) 3-1 吉住(東京) 吉住(東京) 3-1 川原田(青森) 相澤(川崎) 5-0 佐々木(東京)

程塚(東京) 3-0 宮田(東京) 石井(青森) 3-1 藤村(大阪) 程塚(東京) 3-0 石井(青森) 日大對全青森軍對抗戰 東京學生聯盟リーグ戦制覇の餘勢を驅つて一舉に青森軍の牙城を粉碎せんものと七月二十四日日本大學卓球部が來襲し、全青森軍と公會堂に於て對戦したが、依然として青森軍の勢鋭く左の戦績で日大軍を屠つた

全青森軍 日大軍 富田 0-3 小中 長谷川 0-3 今 小 寺 0-3 佐藤 山田(智) 0-3 澤田 山田(孝) 3-2 工藤 藤田

北日本中等校大會 縣體協主催第四回中等校大會は八月四日青森市浪打小學校に於て舉行、農、三農、弘工、北中、札商、函商、函中、岩手中學の十一校、チム戦は青商、個人戦は青商の今君が優勝した戦績左の通り

チム決勝戦 青 3-0 佐々木 井 3-0 井沼 今 3-2 井沼 藤 3-0 井沼 石 3-3 井沼 今 3-2 井沼

個人戦 コート決勝 今(青商) 3-0 古幡(函中) 竹内(青商) 3-2 山中(青商) 井沼(青中) 3-2 藤井(青商) 石井(青商) 3-0 井沼(青中) 今(青森) 棄権 石井(青商)

北日本都市對抗大會 青森市體協主催第十一回大會は八月五日青森市浪打小學校に於て開催、川原、弘前、盛岡、札幌、函館の七チムでチム戦では青森個人戦では小中(青森)が優勝、戦績左の通り

チム一回戦 青 3-0 盛岡 札 3-0 盛岡 五所川原 棄権 弘前 函 3-0 五所川原 青 3-0 五所川原 森 3-1 札幌 今 3-3 佐野 石 3-3 船木 中 3-2 工藤 小 3-2 佐野 澤田 3-2 古旗 佐野(定) 個人戦 準決勝 小中(青森) 棄権 今(青森) 薄井(札幌) 3-1 工藤(函館) 小中(青森) 3-1 薄井(札幌) 青札函鐵道三巴線 九月二十三日青森市新町校で舉行、左の戦績で青森軍の四回連勝なる

○函 鐵

青 鐵

○青 鐵 川口 3-0 吉田 山内 3-0 崎内 藤川 3-0 武内

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 B 五高女 A 3-0 青高女 B

青 鐵

今村(青女) 3-1 木村(弘家女) 澤田石(函女) 3-2 今村(青女)

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

北日本女子大會 縣體協主催で九月二十三日青女師校講堂で開催、女師、縣立青高女、市立青高女、堤橋高女、柏實高女、函館高女、黒石實高女、聖保線高女、五所川原高女の九校選手約五十名参加し、左の戦績でチム戦は縣立青高女、個人戦は澤田石(函高)が優勝

青 鐵

今村(青) 3-0 竹内(五) 鹿内(五) 3-0 今村(青)

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

青 鐵

青高女 3-1 函高女 函高女 3-0 黒實女

青 鐵

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

關東學聯對全青森軍對抗戰 十一月十八日午後四時より青森市公會堂に於て開催、學聯軍は常勝青森の甲首を見事かき切り、現役選手最強陣を作つて挑戦し來つた、これに對し青森軍は往年の黄金時代を形成した福士、村林、田中を失ひ、陣容に一抹の暗影が投ぜられて居たのが事實で、戦前青森軍危しの聲があげられて居た、それだけにフアンの應援又物凄く会場もはち切れんばかりの盛況で、熱戦六時間半、青森軍傳統のネバリを發揮して堂々學聯軍を一蹴し、常勝青森の基礎に更に重味を加へた、當日の戦績左の如し

學聯軍 青森軍

阿木(中大主將) 6 4 4 10 10 10 10 7 三小中

吉住(早大) 7 8 4 10 10 6 4 4 10 10 10 10 6 4 10 10 10 7 三奈良岡

五一九

スポート——卓球——主なる試合

各コート決勝 (青女) 3-1 黒瀉(聖女) 木村(弘家女) 3-0 田邊(五女) 鹿内(五女) 3-1 石田(函女) 澤田石(函女) 3-1 竹谷(五女) 澤田石(函女) 3-1 竹谷(五女)

縣下女子大會 五所川原俱樂部主催第二回個人大會並に第一回團體大會は十一月四日五高女コートに開催、團體戦青高女A、個人戦鹿内(五高女)が夫々優勝結果左の如し

青高女 A 3-1 五高女 B 五高女 A 3-0 青高女 B 今村(青) 3-0 竹内(五) 鹿内(五) 3-0 今村(青)

青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A 青高女 A 3-1 五高女 A 青高女 A 3-2 五高女 A

スポーツ—卓球—主なる試合—

Table of table tennis matches with columns for player names (e.g., 井上二, 田村三, 石橋三) and their respective scores.

石橋三 101210 5103 ○石井
石橋三 884 101010 三小中
青函OB戦 第九回戦は十一月二十三日青森市新町小学校に開催、函館軍五嶋選手健闘したが敗れ、青森軍勝つ、これで兩軍の戦績は青森五勝、函館四勝となった。

石井3—0篠崎
全國中學校選手権大會 全日本學生卓球聯盟主催第一回大會は東京市YWCACコートで開催、中等校男子部に於て青商校今君が優勝、戦績次の通り
準決勝 舟木(函商)3—2石井(青商)
今(青商)3—0藤井(青商)
今(青商)3—0舟木(函商)
青森市町内對抗大會 青森市體育協會主催第一回大會は十月二十一日青森市新町小学校で開催、参加は九チームで、林友チ1ム優勝
青森市内銀行三巴戦 青森市内五十九、安田、青森三銀行の三巴戦は十月十三、十四、十五の三日間に亘り安銀コートで開催されたが安銀チ1ム優勝
花巻卓球大會 花巻温泉主催、北日本大會は二月十七日開催、青森より鐵道俱樂部及び林友が出場したが結果左の通りで、チ1ム戦で林友優勝
林友(盛岡)
坂井(吉田)
今(熊谷)
加賀(田谷)
澤田(多田)

佐々木(盛岡)3—0小中(青鐵)
南部一市三郡大會 八戸市文明堂支店主催で三月三日八戸尋常校に開催、戦績の左の通り
決勝 渡部(八尋)3—1川村(七戸)
青森OB戦 四月二十一日青森市新町校で開催戦績左の通り
準決勝 笹森(林友)3—1石井(新友)
坂(林友)3—2佐藤(林友)
決勝 笹森(林友)棄権 坂(林友)
青森市内卓球リーグ戦 青森卓球協會主催で二月二十四日同市新町校で開催
A組商、B組商門B優勝

主なる試合

青森春季リーグ戦 青森籠球聯盟主催春季リーグ戦は四月二十日より浪打校に開催青師優勝が優勝した。
中等校一回戦
青中45 1827 26 8 東奥義塾
青師40 2020 58 13 大館中學
一般一回戦
青師OB 34 49 25 16 二弘
二回戦
青師OB 49 19 和 徳
一般快勝
青師OB 52 3319 1317 30 青師OB
(主審高橋、副審下遠)
中等校決勝
青師48 2820 1222 34 青中
北日本中等校大會 縣協協主催第三回北日本中等校籠球大會は七月一日浪打校に開催、青師、青女師優勝

男子一回戦
青師37 2017 610 16 青商
秋中36 1620 1314 27 青中
函師52 3022 76 13 八中
準決勝
青師40 1624 1014 24 秋中
決勝
青師40 1822 248 32 函師
女子一回戦
青女師21 1110 65 11 八高女
大館女職21 138 76 13 青高女
決勝
青女師27 1314 1015 25 大館女職
郡市對抗教員籠球大會 縣體育協會及び縣教育會主催第一回郡市對抗教員籠球大會は八月三日浪打校、青師屋外コートに於て舉行、籠球は青森、排球は南郡がそれぞれ優勝した。
一回戦
上北郡52 2527 2216 38 三戸郡
南郡52 1735 24 6 中郡

二回戦
青森48 2226 1118 29 上北郡
南郡53 2231 186 24 西郡
快勝
青森49 1930 3013 24 南郡
一回戦
南郡 2121 2121 59 16 8 西郡 青森
三戸郡教員籠球大會 三戸郡教育會七月十四日劍吉校に於て開催は七月十四日劍吉校に於て開催
三戸市市 22 32 23 30 劍吉
三戸市市 25 22 20 20 三戸
三戸市市 21 21 14 16 五戸
三戸市市 31 21 4 20 三戸
劍吉 14 16 4 20 三戸
籠球選手権大會 縣協協主催第一回籠球選手権大會は九月十六日浪打校、青師屋外コートに於て舉行されたが籠球は青師A組、排球は黒石俱樂部が優勝した。
籠球

個人戦決勝
佐々木(盛岡)3—0小中(青鐵)
南部一市三郡大會 八戸市文明堂支店主催で三月三日八戸尋常校に開催、戦績の左の通り
決勝 渡部(八尋)3—1川村(七戸)
青森OB戦 四月二十一日青森市新町校で開催戦績左の通り
準決勝 笹森(林友)3—1石井(新友)
坂(林友)3—2佐藤(林友)
決勝 笹森(林友)棄権 坂(林友)
青森市内卓球リーグ戦 青森卓球協會主催で二月二十四日同市新町校で開催
A組商、B組商門B優勝

○水産)三分三十七秒二、2宮崎貞延(八中)
 ○五十米自由型(尋) 1石橋石雄(湊) 三秒八、2宮崎岩藏(鯨)
 ○八百米自由型(中) 1村田善一(八中) 一分四分六秒八、2長谷川清吉(八中)
 ○百米自由型(中) 1工藤徳五郎(八中) 一分一五秒四、2築瀬眞嘉(八中)
 ○五十米自由型(尋高) 1宮崎新吉(鯨) 五秒四、2濱崎清治(湊)
 ○二百米自由型(中) 1工藤徳五郎(八中) 二分五二秒九、2築瀬眞嘉(八中)
 ○四百米自由型(中) 1村田善一(八中) 六分三七秒六、2加藤眞平(八中)
 ○五十米背泳(尋) 1濱崎清治(湊) 五秒七、2大西忠(湊)
 ○百米背泳(中) 1長谷川清吉(八中) 二分三三秒六、2村元陸太郎(八中)
 ○百米自由型(尋) 1吉田英五郎(湊) 一分二八秒(大會新記録)
 2石橋石雄(湊) 一分三二秒(同上)
 ○尋常校二百米リレー 1湊校(門、吉田、榎、石橋、中道) 二分四七秒五(大會新記録)
 ○高等科二百米リレー 1湊校

○築瀬、木村、金田一、中道、田端)二分八秒四
 ○中等校メドレリレー 1八中(長谷川、吉田、工藤) 四分三七秒
 △各校得点 中等校八中五十五點、高等科湊校四十四點、尋常科湊校三十八點
 青森の縣下中小學校大會 青森水泳協會並に青森市體育協會合同主催第八回縣下中等校及び小學校競泳大會は八月五日、六日の二日間合浦公園水泳場に舉行、中等校は八中、小學、小學校は西海校が優勝した。
 ◇中等校
 ○百米自由型 1鈴木弘道(八中) 一分一〇秒三(新記録)、2雪田(青商)、3鈴木(義塾)、4祐川(青中)
 ○二百米自由型 1鈴木弘道(八中) 二分三三秒九(新記録)、2吉川(青中)、3一の渡(八中) 4雪田(青中)
 ○四百米自由型 1工藤徳五郎(八中) 六分一八秒八、2吉川(青中)、3村田(八中) 3三上(青商)
 ○八百米自由型 1工藤徳五郎(八中) 三分一八秒七、2村田(八中)、3三上(青商)、4前田(義塾)
 ○五十米背泳 1横山招造(青中) 四分二秒二、2長谷川(八中) 3柳瀬(八中)、4館山(青師)
 ○百米背泳 1横山招造(青中) 一分三五秒五、2築瀬(八中)、3長谷川(八中)、4館山(青師)
 ○平泳百米 1秋元良治(青師) 一分三六秒八、2三浦(青商)、吉田(八中)、4森(八中)
 ○平泳二百米 1吉田正四郎(八中) 三分三〇秒七、2秋元(青師)、3三浦(青商)、4森(八中)
 ○二百米繼走 1八中(鈴木、一の渡、工藤、村田) 二分一四秒九、2青中、3青師、4青商
 ○八百米繼走 1八中(鈴木、一の渡、村田、工藤) 二分一〇秒五、2青商、3青中、4青師
 ◇高等科中等校低学年
 ○五十米自由型 1石川(西海) 三秒七、2松井(義塾)、3石戸(青商)、4金田(湊)
 ○百米自由型 1平田喜代治(西海) 一分一九秒二、2伊藤(青中)、3松井(義塾)、4石川(西海)
 ○二百米自由型 1伊藤由光(青中) 三分〇五秒二、2中道(湊)、3山田(西海)、4木村(湊)
 ○五十米背泳 1生駒正吉(西海) 四分六秒三(新記録)、2坂倉(青中)、3窪田(湊)、4柳澤(湊)
 ○百米平泳 1平田喜代治(西海) 一分四一秒(新記録)、2菅原(青中)、3川浪(青中)、4田中(青商)
 ○二百米繼走 1西海(石川、平田、山田、生駒) 二分四八秒六(新記録)、2義塾、3青中、4湊
 ◇尋常科
 ○五十米自由型 1藤田留四郎(西海) 三九秒二、2後藤(西海) 三九秒(湊)、4石橋(湊)
 ○百米自由型 1藤田留四郎(西海) 一分二七秒五、2吉田(湊)、3石橋(湊)、4福田(西海)
 ○五十米平泳 1月永(西海) 五秒二、2濱崎(湊)、3平野(橋本)、4加藤(西海)
 ○二百米繼走 1西海(藤田、後藤、福田、月永) 二分四八秒六、(新記録) 2湊、3橋本
 青森市民大會 青森市體育協會主催市海上運動會は八月十九日合浦公園水泳場に開催された、結果左の通り
 ○五十米自由型 A組 1高坂三二秒、2長内、△B組 1長内三秒二、2北山、△C組 1石戸三二秒、2三上、△D組 1千葉三八秒、2對馬、△E組 1石戸

三六秒、2館山、△F組 1平野四〇秒、2澤田
 ○二百米自由型 A組 1三浦三分五三秒四、2橋本、B組 1三上三分四秒六、2伊藤
 ○五十米背泳 1三上(保) 四一秒、2横山、3館山
 ○五十米横泳 A組 1西澤四二秒四、2三上、B組 1高島三秒八、2館山
 ○五十米自由型(女子) 1土岐

喜代子四〇秒三
 ○百米自由型 △A組 1高島一分三二秒二、2瀧谷、△B組 1石戸一分二〇秒二、2三上(保) 〇五十分平泳 A組 1相馬四七秒、2兼平、△B組 1長内四八秒、2三浦、△C組 1佐藤四五秒、2菅原
 ○跳伸 A組 1稻葉五米、2館山、△B組 1高橋三米、2松岡

國際水上聯盟公認記録

種目	記録	保持者	所屬
男子(自由形)	五六・八	保持者	米
男子(平泳)	二〇・八	ワイズミヌラ	佛
男子(背泳)	三・三〇・六	メタリイ	佛
男子(平)	四・三・七	タリイ	佛
男子(背)	六・〇・二	メタリイ	佛
男子(平)	二・〇・二	タリイ	佛
男子(背)	二・四・八	メタリイ	佛
男子(平)	一・九・七・二	アルネ・ボルグ	瑞
男子(背)	一・三・二	カルト	佛
男子(平)	二・四・六	ラデマツヘル	獨逸
男子(背)	五・五・〇・一	シユワルツ	獨逸
男子(平)	七・三・一	バンデウエ	米
男子(背)	一・〇・七・四	コジヤツタ	米
男子(平)	二・三・二	清川正二	日
男子(背)	五・三・〇・四	清川正二	日

種目	記録	保持者	所屬
女子(自由形)	八・五・四	保持者	米
女子(平泳)	一・〇・八	ワイズミヌラ	佛
女子(背泳)	二・二・八	メタリイ	佛
女子(平)	三・五・〇	タリイ	佛
女子(背)	五・一・〇	メタリイ	佛
女子(平)	二・四・三	タリイ	佛
女子(背)	二・四・八	メタリイ	佛
女子(平)	一・二・四・六	アルネ・ボルグ	瑞
女子(背)	一・三・〇	カルト	佛
女子(平)	二・四・四	ラデマツヘル	獨逸
女子(背)	四・四・九	シユワルツ	獨逸
女子(平)	一・〇・八・二	バンデウエ	米
女子(背)	二・四・九	コジヤツタ	米
女子(平)	八・五・四	清川正二	日
女子(背)	八・〇・〇・米リレー	清川正二	日

オリムピック記録

種目	記録	保持者	所屬
男子(自由形)	一・〇・八	ワイズミヌラ	佛
男子(平泳)	二・二・八	メタリイ	佛
男子(背泳)	三・五・〇	タリイ	佛
男子(平)	四・三・七	メタリイ	佛
男子(背)	六・〇・二	タリイ	佛
男子(平)	二・〇・二	アルネ・ボルグ	瑞
男子(背)	二・四・八	カルト	佛
男子(平)	一・九・七・二	ラデマツヘル	獨逸
男子(背)	一・三・二	シユワルツ	獨逸
男子(平)	七・三・一	バンデウエ	米
男子(背)	一・〇・七・四	コジヤツタ	米
男子(平)	二・三・二	清川正二	日
男子(背)	五・三・〇・四	清川正二	日

スポーツ—水泳—國際水上聯盟公認記録—オリムピック記録

一時間九分二三秒、4山田肆郎(弘中)5山本孝作(弘工)6畠山政隆(弘工)7福士繁代(青商)8葛西誠(木中)9工藤輝雄(青中)10山田鐵雄(弘工)

○複合競技

1前田文雄(五農)二九六點五、2工藤輝雄(青中)二六三點三、3林清俊(弘中)二五二點九、4工藤源藏(弘中)山形順造(弘中)5油川和徳(弘中)7圓子義人(青師)8油川和夫(弘中)9山中正志(五農)10石澤盤雄(青師)

○飛躍競技

1工藤源藏(弘中)一四九點五、2小山内哲郎(弘中)一三一、3山形順造(弘中)九五、4前田文雄(五農)5油川和夫(弘中)6圓子義人(青師)7菊池正八(五農)8成田正四郎(弘中)

○十六軒繼走

1五農(大村、中村、藤田、前田)一時間五分二一秒、2弘中一時間五分五八秒、3弘工一時間七分八秒、4東奥義塾5青中6木中7青師8青商

○女子の部

1山口清子(五高女)二分二秒、2木村光(野實女)二分一五秒、3太田みつゑ(野實女)二分二六秒

秒、4佐々木徳(青高女)5中山京子(青高女)6西村庸子(青高女)7中村静江(青高女)8角田のぶ(五高女)9花田律子(青高女)10小山内てつ(五高女)

○複合競技

1木村光(野實女)一九〇點三五、2山口清子(五高女)一七七點九七、3中村静江(青高女)一六〇點二七、4中山京子(青高女)5太田みつゑ(五高女)6稻田博子(青高女)7角田のぶ(五高女)8花田律子(青高女)9西村庸子(青高女)10松浦龍江(野實女)

○廻轉競技

1木村光(野實女)四四秒八、2横濱とし(同)五一秒四、3中村静江(青高女)五三秒二、4稻田博子(青高女)5松浦龍江(野實女)6山口清子(五高女)7中山京子(青高女)8角田のぶ(五高女)9佐々木徳(青高女)10太田みつゑ(野實女)

○四軒繼走

1野實女(横濱、太田、松浦、木村)二五五分五秒、2五高女二六分三一秒、3青高女二六分四八秒

○東北選と選手権

第十三回全日本スキー選手権東北選大會は、今年一月二十六七日大鰐スキー場に於て開催、結果左の通り

◇五〇軒耐久競走

△東北選選、1山田多一(大鰐)三時間五十六分五秒、2櫻庭吉(林友)四時間六分三〇秒、3長谷川博(林友)四時八分三七秒、4古川正雄(林友)四時一〇分七秒、5福田總一(青俱)四時一分四分六秒、6境幸太郎(弘俱)7柳川正七(青俱)8石川六郎(林友)9原藤次郎(大鰐俱)10桐山廣市(林友)11五十嵐由五郎(野俱)12高橋多市(林友)

△東北選選手権

1山田多市(大鰐俱)2武石光雄(林友)四時四分六秒、3櫻庭吉(同)4長谷川博(同)5古川正雄(同)6福田總一(青俱)7境幸太郎(弘俱)8中村新一郎(林友)9柳川正七(青俱)10石川六郎(林友)11原藤次郎(大鰐俱)12桐山廣市(林友)13五十嵐由五郎(野俱)14高橋多市(林友)15山田多次郎(大鰐俱)

◇十八軒長距離競走

1坂本一仁(五體)二時六分四四秒、2竹浪太郎(青鐵)二時九分五一秒、3吉岡龍市(青俱)二時四三分五七秒、4前田清彦(青俱)

少年組(東北選選)

1山本幸作(弘工)一時三九分二三分二七秒、8青俱9青中

◇複合競技

少年組(東北選選)

1山形順造(弘中)二九四・九點、2工藤源藏(弘中)二八五・五、3菊池正八(五農)二四九・七、4油川和夫(弘中)二二八・八、5油川和徳(弘中)二一六・八、6山中兵吉(嘉瀬俱)7工藤正彦(五農)8山中金吾(五農)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)二七五・八點、2安田善四郎(青俱)一八八・一、3水木操六(大鰐俱)一八〇・一、4小田桐健三(五協)

少年組(東北選選)

1山形順造(弘中)2工藤源藏(弘中)3工藤輝雄(青中)二七・七(四着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)二七五・八點、2丹内正一(大鰐俱)二五・一五、3山田伸三(林友)二四七・七、4立田清(林友)一九〇・九、5安田善四郎(青俱)6水木操六(大鰐俱)7小田桐健三(五協)

飛躍競技

少年組(東北選選)

1工藤源藏(弘中)一四六點一、2菊池正八(五農)一一一・四、3山中兵吉(嘉瀬俱)一一一・六、4油川和夫(弘中)一一一・〇、5山中金吾(五農)九三・四、6山形順造(弘中)7小山内哲郎(弘中)8工藤輝雄(青中)9葛西誠(木中)

成年組(東北選選)

1林友(工藤、山田至、山田銀、山田伸)二時四七分二秒、2五農二時五分五三秒、3大鰐二時五一分、4弘中二時五五分三秒、5東義三時二八秒、6弘工三時一分四二秒、7野俱三時

工藤正彦(五農)

(註)東北選選手権は順位記録共に豫選に同じ。

成年組(東北選選)

1安田善四郎(青俱)一四三・一、2水木操六(大鰐俱)一二六・五、3成田集(大鰐俱)一〇九・一、4小田桐健三(五協)九四・四

(註)選手権は豫選に同じ。

最長不倒距離四一米五〇工藤源藏

1山田貞藏(東義)一八分五秒、2盛康太郎(青中)一八分二八秒、3神末一(木中)一八分四五秒、4今貢(弘工)5古川久雄(弘工)6葛西亮三(大鰐俱)

廻轉競技(東北選選手権)

1葛西亮三(大鰐俱)五三秒五分の二、2盛康太郎(青中)五四秒五分の三、3今貢(弘工)五五秒五分の二、4松本光晴(弘工)5石澤盤雄(青師)6岩井喜八郎(弘中)7柏藏吉(弘工)8林清暢(弘中)9竹浪太郎(林友)10村井俊夫(林友)

◇三軒繼走

1林友(工藤、山田至、山田銀、山田伸)二時四七分二秒、2五農二時五分五三秒、3大鰐二時五一分、4弘中二時五五分三秒、5東義三時二八秒、6弘工三時一分四二秒、7野俱三時

少年組(東北選選)

1工藤源藏(弘中)一四六點一、2菊池正八(五農)一一一・四、3山中兵吉(嘉瀬俱)一一一・六、4油川和夫(弘中)一一一・〇、5山中金吾(五農)九三・四、6山形順造(弘中)7小山内哲郎(弘中)8工藤輝雄(青中)9葛西誠(木中)

縣下大會

第九回縣下スキー大會並に學童大會は、今年三月二、三兩日新城スロップに於て舉行された、雪少くコンディション悪く結果左の通り。

◇十軒競走(青年)

1柳川正七(青森)2澤田行雄(金木)3上野重治(野俱)4關武(同)以上イムなし。

◇四軒競走(中年)

1五十嵐正三(野俱)2九分四三秒、2岩谷濱莊二(野俱)4青沼洗(同)

◇四軒競走(壯年)

1熊谷省三(野俱)三三分四五秒、2吉岡龍太郎(青俱)三四分五秒、3池田清介(同)4飯田勝千代(野俱)

◇廻轉競技(青年組)

1五十嵐由五郎(野俱)二九秒五分の三、2上野重治(同)三〇秒五分の四、3徳田金次郎(金木)三〇秒五分の四、4安田善四郎(青俱)4福田惣一(同)、(中年組)1海老名捷彌(弘俱)二九秒、2佐藤徳男(同)三〇秒、3石井多衛門(青俱)4岩谷正雄(同)(壯年組)1吉岡龍太郎(青俱)三一秒、2伊藤孝敬(野俱)三四秒、3工藤淺吉(弘俱)4能谷省三(野俱)

◇十六軒繼走(青年組)

1野俱(五十嵐、石川、關、上野)一時五

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

1前田文雄(五農)一時三三分〇秒、2上野重治(野俱)一時三四分五八秒、3村井俊夫(林友)一時三六分四〇秒、4山田陽一(大鰐俱)一時四一分二五秒、5神由太郎(林友)一時四三分五九秒、6柴田春雄(青俱)7石川竹次郎(野俱)8菅原道雄(大館)9貴田鐵雄(大鰐俱)10丹内正一(大鰐俱)11中村喜一(五農)12小笠原康喜(五協)

少年組(東北選選)

1山田伸三(林友)一時三一分二七秒、2前田文雄(五農)3上野重治(野俱)4村井俊夫(林友)5山田鐵雄(林友)一時三三分三四秒、6立田清(同)一時四一分六秒、7山田陽一(大鰐俱)8植田誠三(同)一時四三分四一秒(九着より以下豫選に同じ)

成年組(東北選選)

スポーツ——第一三回全日本スキー選手権大会記録

村洗(野實女)八分五六秒、2 太田みつゑ(同)九分五八秒、3 荒内さちゑ(同)4 松浦龍江(同)5 西村庸子(青高女)6 中山京子(同)7 成田はつゑ(大鰐)8 太田春代(同)9 窪田のぶ(青高女)10 佐々木徳(同)
◇五百米滑降(尋小女)、1 佐藤あさ(野新町)五分五八秒、2 松浦政子(同)3 野坂良子(同)4 濱中民子(同)5 古川文子(同)6 横濱きみ(同)7 松岡みつ(同)8 木村久(大鰐)9 福岡清子(新成)10 植田せつ(大鰐)
◇廻轉競技(一般及び學生)、1 丹内正一(大鰐)二四秒、2 葛西亮三(大鰐)3 盛康太郎(青中)4 水木操六(大鰐)5 圓子義人(青師)6 山田多市(大鰐)7 鳴海慶一(青師)8 小松秀一(野邊地)9 長内貞三(青師)△少年少組、1 瀨川稔(城内)二四秒五、2 山本謙一(同)3 丸山克夫(大榮)4 熊谷弘(城内)5 安田喜代治(城内)6 鎌田重壽(大榮)7 大川三左衛門(長峰)8 西村清治(大榮)9 山口富夫(大鰐)10 工藤安弘(長峰)11 立花立(城内)△尋小女、1 濱中民子(野新町)二五秒九、2 松浦政子(同)3 植田せつ(大鰐)4 野坂貞子(野新町)5 今野昌(大鰐)6 古川文子(野新町)7 高橋せつ(大鰐)8 成田秒子(新成)9

第一三回全日本スキー選手権大会記録

松尾秀子(大鰐)10 玉川れい(大鰐)△高女及び高小女、1 木村洗(野實女)二五秒九、2 西村庸子(青高女)3 荒内さちゑ(野實女)4 中山京子(青高女)5 成田はちゑ(大鰐)6 佐々木徳(青高女)7 太田みつゑ(野實女)8 松浦龍江(同)9 窪田のぶ(青高女)10 須藤婦美江(同)
◇二軒滑降(少年少組)、1 廣嶋清美(大鰐)六分五〇秒、2 竹内秀雄(朝陽)3 金澤春市(城内)4 田村竹四郎(同)5 山内正俊(大鰐)6 原子繁代(長峰)7 熊谷武美(城内)8 上野秀太郎(同)9 石堂巧(同)10 泉谷久二(金木)11 熊谷弘(城内)
◇四軒滑降(少年大組)、1 山内末吉(大鰐)七分、2 坂本清(同)3 松岡雄四郎(同)4 前田多市(同)5 横川龜吉(城内)6 板橋幸一(同)7 大引良吉(同)8 平野一男(浪岡)9 猪股三之(同)10 川村武男(七戸)
◇四軒滑降(高女及び高小女)、1 青高女(西村、中山、窪田、佐々木)三四分四八秒、2 大鰐高小女
◇八軒滑降(少年小組)、1 東英校(千葉、佐藤、大川、白戸)五七分一三秒
◇十六軒滑降(少年大組)、1 大鰐校(築館、松岡、船水、山田)

昭和十年二月九日より十一日まで札幌宮ノ森に於て

Table with 3 columns: 複合競 (複合競), 技術 (技術), 少年組 (少年組). Rows list names, schools, and times. Includes names like 木戸政信, 信雄, 富一, 正力敏, 岩手, 北見, 岩手, 北見, etc.

Table with 3 columns: 飛躍競 (飛躍競), 少年組 (少年組), 最長不倒距離 (最長不倒距離). Rows list names, schools, and distances. Includes names like 川上, 川上, 川上, 川上, etc.

スポーツ—柔道—主なる試合

▲第一候補木造 伊藤豊弘(初)
▲第二候補青森川村源太郎(三)
▲第二次選抜会 は八日青森演武場に於て開催、警察官代表(推薦出場)成田萬三氏優勝、晴れの天覧試合に出場する事に決定した。

▲警察署 准決勝戦
○野 中
○青 弘
○決 勝 戦
○野 中
○青 弘

▲中大柔道部来青 中央大學柔道部鈴木主将以下十二名は北海道よりの歸途六月二十七日來青、青森道場に於て青森市内各中等學校と試合を行った。

▲幼年組決勝
○山 内
○藤 田
○決 勝 戦
○山 内
○藤 田

等校及一般、少年柔道大會は十月七日青森商校に於て開催戦績左の通り

▲少年個人戦
一等山本廣、二等加藤孝彦、三等松井要一、四等齋藤富夫、五等松田義郎

に於て舉行四對四で引分となつた。
秋 田 4
青 森 4

▲有段者組
○成田(三段) 關(三段)
現在) ▲六段。工藤一三、前田武郷、須藤金作。▲五段。成田藤三郎、北林光雄、前田尙夫、佐藤一郎、中里義美、工藤千代吉、藤三郎、中里義美、工藤千代吉、藤三郎、中里義美、工藤千代吉

▲選手権決勝戦
○福士四段(青) × 三橋三段(五)
○菊池武(弘) × 岡本一(青)

▲個人戦
一等笠井直(中川)、二等永澤勝雄(川除)、三等萩原利夫(五所警)、四等北島忠治(板柳)、五等中村富夫(水元)

▲全日本選手権 講道館主催第四回全日本柔道選手権大會は十月廿五日日比谷市音楽堂に於て開催、全國八地区から選出された五十五選手に交つて本縣代表工藤孝一、佐藤孝志の二氏奮戦したが惜敗した。

▲少年組決勝
○齋藤(青中) × 秋元(青中)
○決 勝 戦
○齋藤(青中) × 秋元(青中)

▲有段者組
○成田(三段) 關(三段)
現在) ▲六段。工藤一三、前田武郷、須藤金作。▲五段。成田藤三郎、北林光雄、前田尙夫、佐藤一郎、中里義美、工藤千代吉、藤三郎、中里義美、工藤千代吉

▲幼年組決勝
○山 内
○藤 田
○決 勝 戦
○山 内
○藤 田

スポーツ—柔道—主なる試合

柔道——主要なる試合——本縣柔道有段者
八戸市
五段、大野經平、重茂勝春、
四段、大久保忠、
三段、藤田末藏、板橋勇次、
二段、小笠原吉彌、種市良、
苗三、秋元三藏、種市良、
春、北正次、藤田久藏、
藤原金太郎、大野徳松、小野澤、
動平、西川良三、鈴木善三、金、
田孝二、根城與志、福士英、
三、大西孝一郎、松田正夫、工、
藤英太郎、柏木武志、沼館正、
三、塚原四十二、武内志郎、
武田貞雄、柳谷初太郎、松橋、
常丸、松本京吉、山本豊吉、
木村定太郎、林崎孝藏、福勢、
喜一、稻葉捨巳、高橋市兵衛、
衛、鈴木惣吉、宮崎孝悌、尾越、
卓郎、白藤榮、富田謙三、野田、
三藏、中居桃太郎、寺山藤二、
郎、船場六郎、楢館保太郎、大、
木鐵藏

本縣柔道有段者

本縣柔道有段者
(昭和十年四月末現在)
青森市
五段、柿崎作次郎、川島藤太、
四段、長内惣吉、金澤時司、岡本任、
弘太郎、杉山政男、工藤秀雄、
虎太郎、吉岡龍市、新谷義光、
關谷貞範、成田長一、繼田久、
吉、福士榮一、大瀬和吉、關小

剣道

剣道
縣下に於ける剣道熱は益々盛んで、本縣剣道界の將來は曠目されて、折柄、九年五月、青森市に於ける天覽武道試合に市川宇門、小笠原二郎、兩氏が出場し、門、小笠原氏が力戦して、准決勝まで進み、惜しくも勝を輸したが、これに依つて、本縣剣道は目立つて向上したと、共に全國にその名を馳せ、又本縣剣道史に光彩を添へた、尚警察官方面の剣道も新藤澤警察部長の來青に依り、その發展向上が期待されてゐる。

主要なる試合

主要なる試合
天覽武道大會
第一次豫選(學生、青年團、一般)
試合は四月一日、青森道場に於て開催、各部優勝者左の通り
▲學生部 青商 島山 正彦
▲青年部 中郡 工藤 弘文
▲一般部 補五所 川原 高橋 彌太郎
尚第二次豫選會は八月、青森演武場に於て、本縣代表選手決定試合を舉行し、郷軍代表の小笠原二郎君(鶴ヶ澤)優勝し、天覽試合に出場する事に決定した。結果
左の通り
三勝一敗 郷軍代表小笠原二郎
三勝一敗 警察官代表佐藤秀雄
二勝二敗 一般代表高橋彌太郎

スポーツ——柔道——主要なる試合——本縣柔道有段者——主要なる試合

一勝三敗 青年代表工藤弘文
一勝三敗 學生代表工藤貞一
天覽武道大會
晴れの天覽武道試合は五月四日、青森市に於て舉行、先づ府縣選士優勝試合豫選第一回戦で本縣代表小笠原二郎君は一二回戦に於て左の如く強敵を屠る
▲第一部(一回戦)
優勝 小笠原二郎(青森)
1点 一川 格治(熊本)
2点 入江 正文(奈良)
0点 市川 實(静岡)
▲第二部(二回戦)
優勝 小笠原二郎(青森)
1点 夏迫 丸喜(鹿兒島)
0点 石田 克巳(佐賀)
准決勝は野間(東京)・藤本(香川)・奈川(小笠原)・青森(藤本)・香川(神)の四選手が光榮の天覽武道大會を行ふ事になつたが、小笠原選手は二刀流香川縣代表藤本選手に惜敗した。
准決勝
野間恒東京 小瀬下喜一神奈川
藤本薰香川 小笠原二郎青森
決勝戦
野間 恒 藤本 薰
市川教士は指定選士第一回戦で敗れた。

國士館學生來青
國士館專門學校第四學年劍道科學生十七名は五月廿九日大島治喜太教授に引率され來青、弘前、青森各地に於て試合を行つた。
北日本中等校豫選
全日本中等校劍道聯盟主催第五回奥羽三縣青森、秋田、岩手の豫選會は六月十七日、青森道場に開催、秋田中學再び優勝した。戦績左の通り
▲第一回戦
八 中 義 塾
青 師 木
秋 師 弘 中
岩 師 野 中
秋 師 五 農 中
弘 師 盛 商
青 師 福 商
秋 師 盛 商
岩 師 福 商
秋 師 福 商
秋 師 福 商
▲第二回戦
秋 田 中 學 八 戸 中 學
岩 手 師 範 弘 前 工 業
秋 田 中 學 青 森 師 範
青 森 中 學 岩 手 中 學
▲決勝
秋 中 5-10 青 中
秋 商 4-2 岩 師
▲秋 中 5-3 秋 商
西北警官對抗 第三回西北警官對抗劍道試合は六月十七日板柳演武場に開催、八對七で北

く(二點) 少年 1中田菊枝(八點) 2今田きく(四點) 3工藤みつ(四點) 4西谷千鶴(四點) 5後藤しげ(三點)

津輕地方演武大會弓道會 日本武徳會縣支部主催第四回津輕地方演武大會弓道試合は十月十七日北郡金木町演武場新設矢場に於て開催、成績左の通り。

野口氏四段の免許獲得 大日本武徳會縣支部弓道教師青森市新野口金助氏は十一月七日附で武徳會本部から四段を免許され本縣弓道界最初の練士候補の資格を獲得した。

野邊地實高女弓場開場式 野邊地町實科高等女學校々友會弓道部道場修築式は十一月二十四日執行、開場式並に武徳會弓道部聯合大射會は二十五日同校で開催、結果左の通り。

個人 1馬場佐五郎(聯盟會長賞) 2蛇名吉兵衛 3鈴木一彌 4中野哲夫 5細井定正 6及川喜代志 7田中藏六 8竹中英雄 9北村恭助 10吉田竹次郎 11川村千代吉 12飯田總一郎 13逸見吉弘

青森市民弓道大會 青森市體育協會主催市民弓道大會は十一月三日昌道館に開催し結果は左の通り。 1千葉忠幸 2長内健吉

七本勝關野志道(八戸)三上嘉夫(北郡) 銃剣術 九本勝澤頭源作(上北郡) 八本勝藤田征雄(弘前) 七本勝名久井秀太郎(三戸) 松本房治(弘前) 森内永藏(南郡) 工藤多三郎(南郡)

射撃 四四點貫洞清助(弘前) 各聯合分會別成績 軍刀術 1南郡2八戸3弘前 銃剣術 1南郡2弘前3三戸 射撃 1中郡2弘前3三戸

三戸武徳大會 九月二十三日三戸地方分會主催で三戸小學校講堂に開催、銃剣術は團體猿邊個人戰熊林又藏(猿邊)君が優勝

黒石演武大會 縣武徳會支部主催で十月十四日黒石男子校で舉行、銃剣術結果次の通り

銃剣術個人戰 1青木定雄(黒石) 2工藤多作(竹館) 3工藤多三郎(金田)

津輕地方演武大會 縣武徳會支部主催で十月十七日北郡金木町に開催銃剣術結果左の通り。

團體決勝 水三—二金木 越 水三—二金木 1加藤善太郎 2古川辰五郎

八師管内郷軍武術競技 第五回大會は十月三十日山形市縣グ

3戸田健三 4鈴木貫一 5鳴海由一 6大柳久治 7中田榮藏 8石塚文四郎 9山口金丸 10岡田春雄 11千葉良一 12頼志良一 13逸見吉弘

野口氏四段の免許獲得 大日本武徳會縣支部弓道教師青森市新野口金助氏は十一月七日附で武徳會本部から四段を免許され本縣弓道界最初の練士候補の資格を獲得した。

野邊地實高女弓場開場式 野邊地町實科高等女學校々友會弓道部道場修築式は十一月二十四日執行、開場式並に武徳會弓道部聯合大射會は二十五日同校で開催、結果左の通り。

個人 1工藤要藏 2沖野與助 3山村市三郎 4扇藤徳四郎 5桑野健吉

青森縣支部弓道階級試験は九月十六日青森市長島昌道館に執行秋田大坪、山形安澤、青森佐藤三教士審査の下に實地並學課試験を行ひ左記二十七名合格した

一級 澁谷門之助、高橋廉太郎

射撃 山本幾之進(青)貫洞清助、成田豐實(弘)沼畑吉逸(八)

出穂、佐藤久三郎(南)三上義雄(中)菊地末太郎(下)▲指定選士吉田常太郎(西)成田貞作(中)

▲射撃 山本幾之進(青)貫洞清助、成田豐實(弘)沼畑吉逸(八)出穂、佐藤久三郎(南)三上義雄(中)菊地末太郎(下)▲指定選士吉田常太郎(西)成田貞作(中)

▲射撃 山本幾之進(青)貫洞清助、成田豐實(弘)沼畑吉逸(八)出穂、佐藤久三郎(南)三上義雄(中)菊地末太郎(下)▲指定選士吉田常太郎(西)成田貞作(中)

▲射撃 山本幾之進(青)貫洞清助、成田豐實(弘)沼畑吉逸(八)出穂、佐藤久三郎(南)三上義雄(中)菊地末太郎(下)▲指定選士吉田常太郎(西)成田貞作(中)

▲射撃 山本幾之進(青)貫洞清助、成田豐實(弘)沼畑吉逸(八)出穂、佐藤久三郎(南)三上義雄(中)菊地末太郎(下)▲指定選士吉田常太郎(西)成田貞作(中)

▲射撃 山本幾之進(青)貫洞清助、成田豐實(弘)沼畑吉逸(八)出穂、佐藤久三郎(南)三上義雄(中)菊地末太郎(下)▲指定選士吉田常太郎(西)成田貞作(中)

▲射撃 山本幾之進(青)貫洞清助、成田豐實(弘)沼畑吉逸(八)出穂、佐藤久三郎(南)三上義雄(中)菊地末太郎(下)▲指定選士吉田常太郎(西)成田貞作(中)

大鰐管内大會 八月十四日大鰐に開催、銃剣術に於ては藏館分會十一點で優勝す。

猿賀神社奉納銃剣術大會 八月十五日南郡猿賀神社境内に舉行、結果左の通り。

分會戰 1金田村分會 2藤代村分會 3竹館村分會 4藏館村分會 5尾崎村分會

個人戰 1森内永造(金田) 2葛西綱藏(尾崎) 3佐藤忠逸(金田)

南郡武術大會 八月二十六日黒石町御幸公園で舉行、参加分會二十二ヶ町村で、銃剣術を戦した結果左の成績で金田分會の三年連勝となる。

金田三四、竹館三二、黒石二九、藤崎二九、野澤二九

西郡武術大會 八月二十九日木造中學校庭に開催参加分會數十七で結果左の通り。

軍刀術優勝 鱈ヶ澤分會 銃剣術優勝 大戸瀬分會

郷軍聯合競技 九月十日歩五道場に於て八師管内郷軍武術大會第一次豫選を兼ね開催、左の戦績で南郡分會優勝す。

軍刀術 八本勝佐藤正(南郡)

銃剣術其他—主なる試合

銃剣術其他—主なる試合

銃剣術其他—主なる試合

銃剣術其他—主なる試合

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

第九回都市對抗野 球豫選會

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し

東日主催第九回都市對抗野球 地方第一次豫選は六月十五日から三日間青森野球場で開催され林友チムが優勝し仙臺に於ける第二次豫選に出場決勝戦で仙臺軍の爲に敗れ、結果左の如し